

326
326



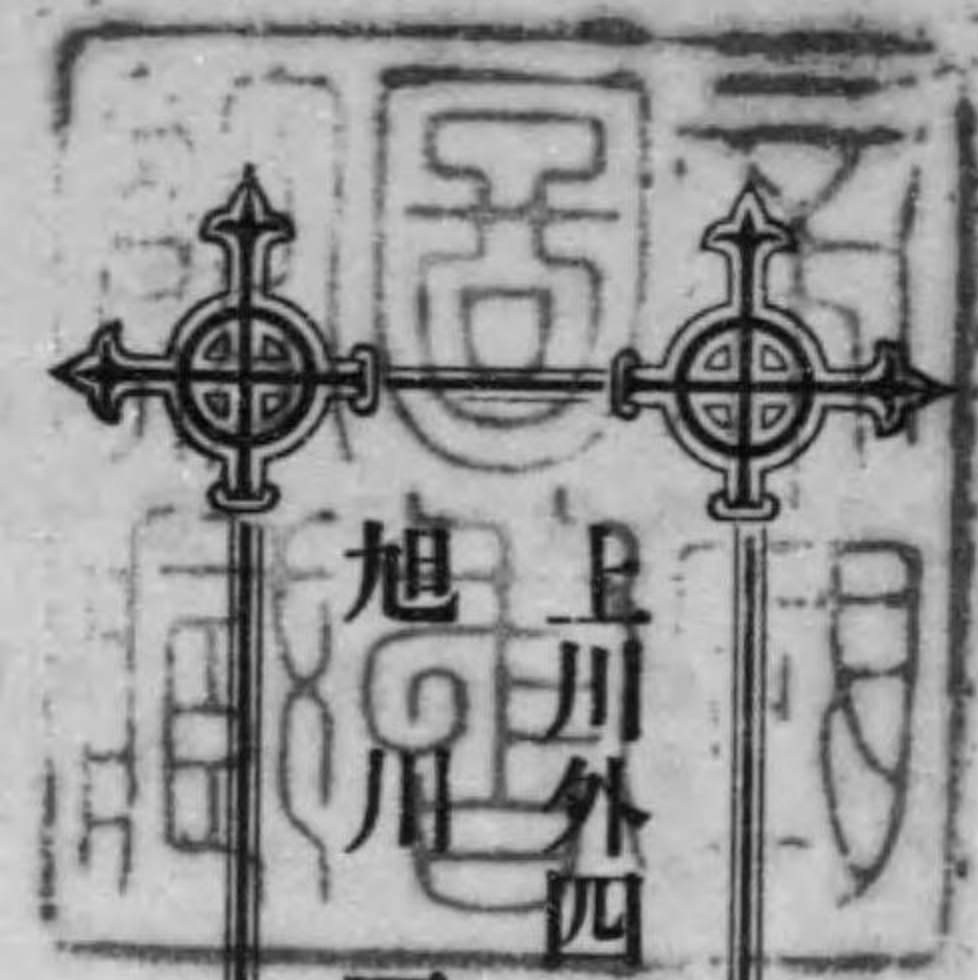
始





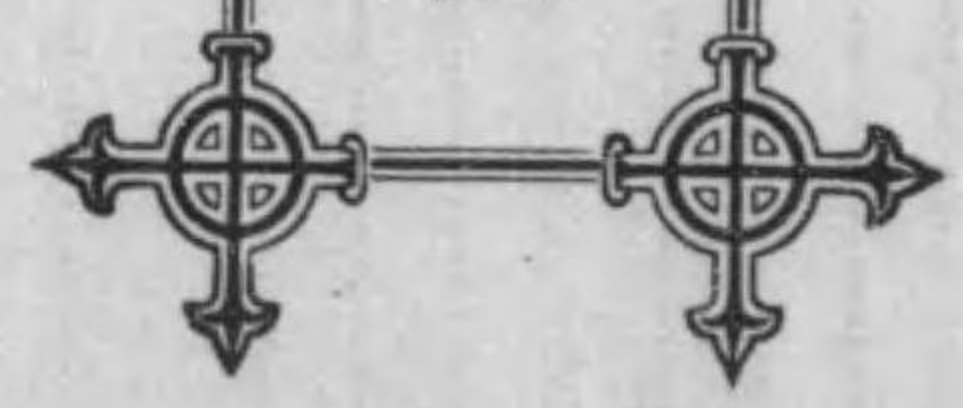
旭川區聯合物產共進會報告

326-326

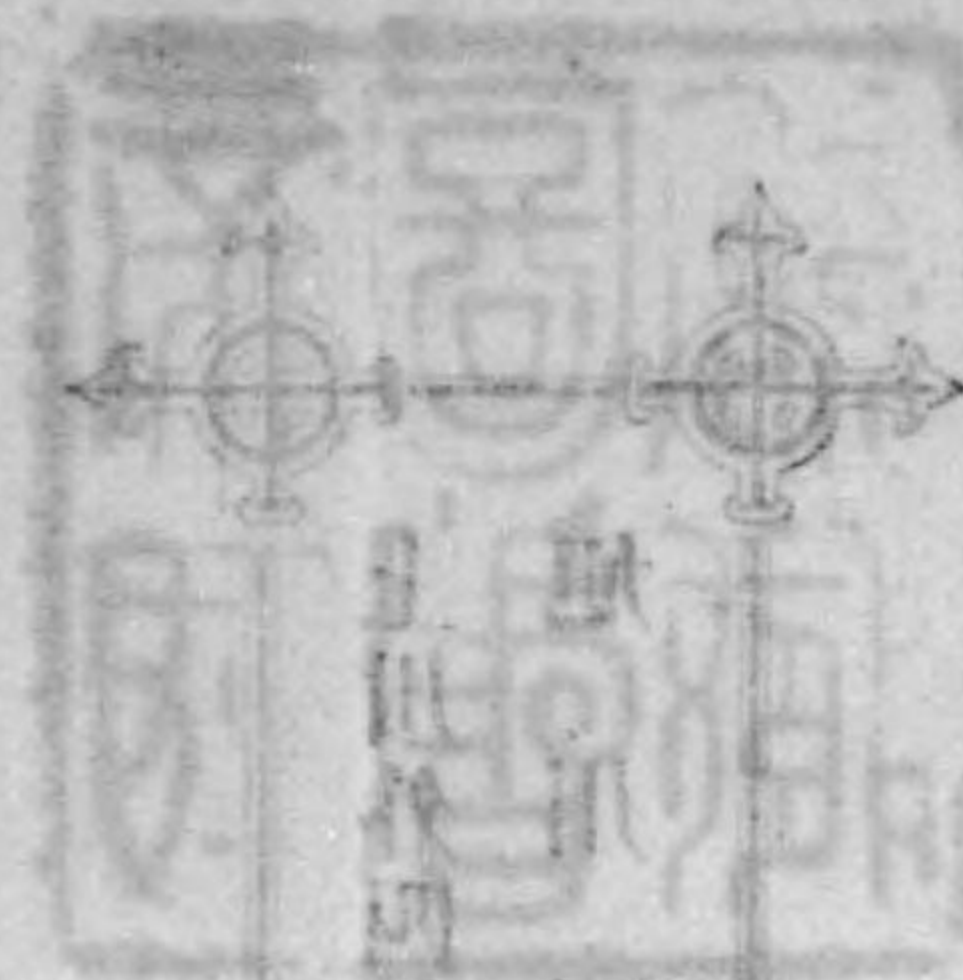


旭川
旭川
旭川
旭川

旭川外四郡
聯合物産共進會報告



大正
7. 3. 20
内交



聯合物產共進會報告



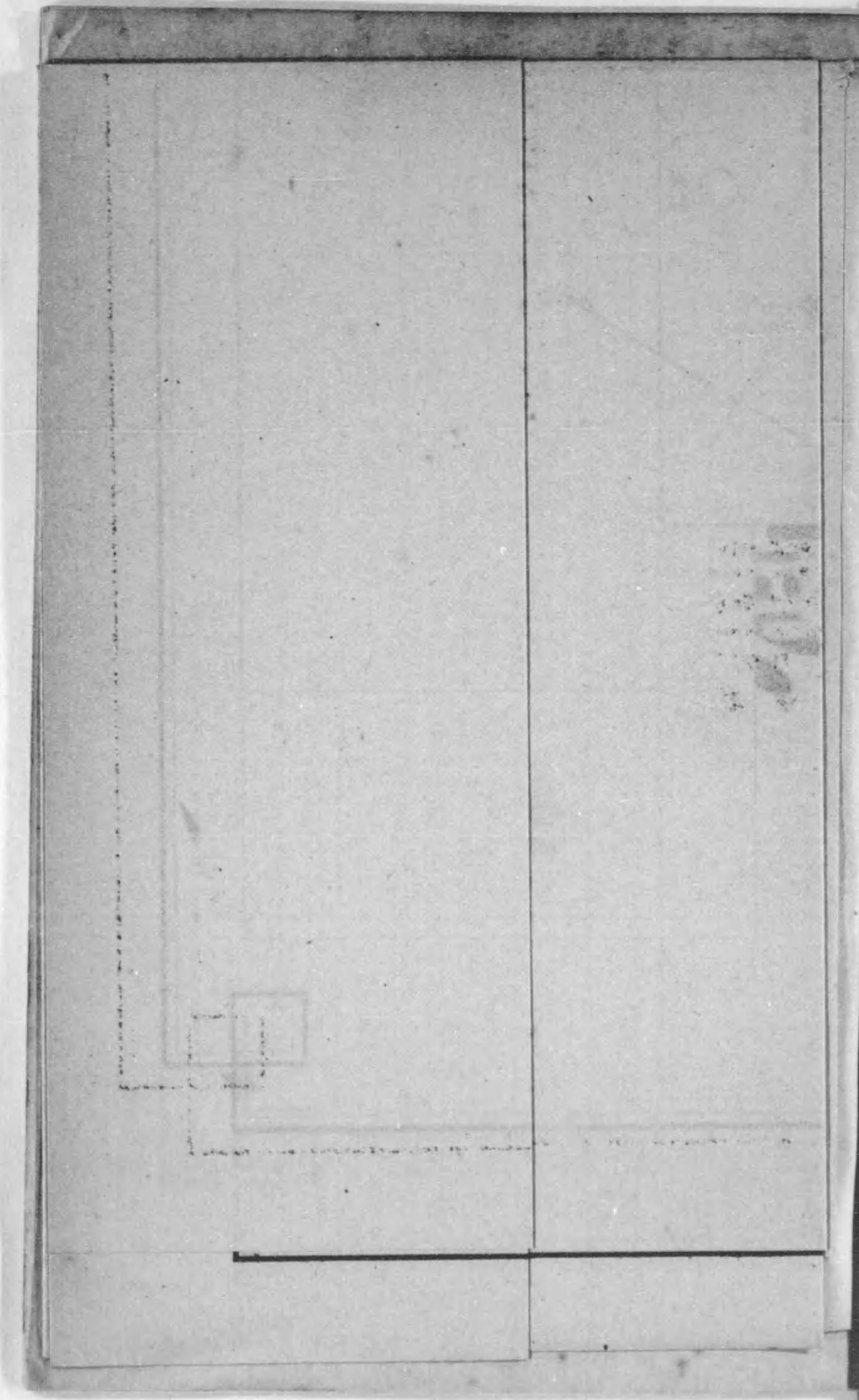
大正
03.8.7
東京

上川外四郡聯合物產共進會報告

第一章	緒言	1
第二章	上川外四郡旭川區聯合物產共進會規則	2
其	一 出品配當類別	2
其	二 處務規程	7
其	三 職員及事務所	11
其	四 會場	14
第三章	土地	15
其	一 建物	15
其	二 庭園其他ノ施設	21
第四章	出品	22
其	一 出品點數ノ豫定	22
其	二 出品ノ勸誘	23
其	三 出品ノ目錄及解說書	23
其	四 出品物ノ受領及整理	23
其	五 參考	23
其	六 出品ノ陳列	23
其	七 出品ノ附札	24
其	八 出品ノ看守	24

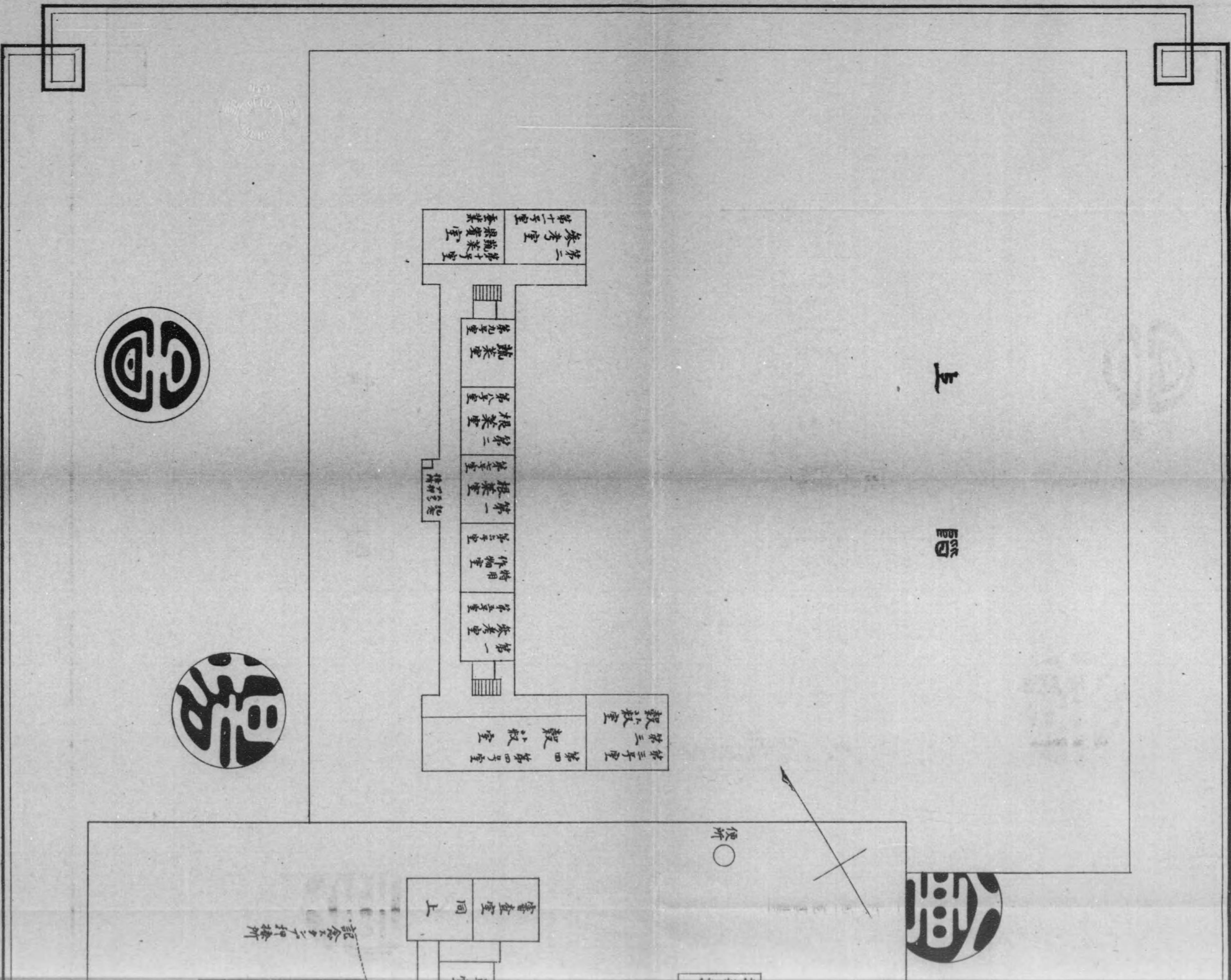
其九	出品ノ賣約	100
其十	殘品ノ處分	100
第五章	審査	100
第六章	褒賞	100
其一	褒賞及副賞	100
其二	受賞者人名録	100
第七章	儀禮	100
其一	開會式	100
其二	褒賞授與式	100
其三	閉會式	100
第八章	觀覽及招待	100
其一	觀覽者心得	100
其二	招待及廣告	100
其三	入場券	100
其四	觀覽者	100
第九章	構内取締	100
其一	警備	100
其二	衛生	100
第十章	汽車貨ノ割引並臨時列車	100
第十一章	會計	100
其一	收支豫算及決算	100
其二	補助金及寄付金	100

第十二章	徽章及制限	100
其一	徽章	100
其二	制限	100
第十三章	文書及印章	100
第十四章	通信運搬ノ設備	100
其一	電話機郵便函ノ設置	100
其二	運搬ノ取扱	100
第十五章	附屬事業	100
其一	各種會合	100
其二	記念祝日	100
其三	記念「スタンプ」ノ押捺	100
其四	實業講演會	100
其五	記念品ノ配付	100
第十六章	協賛會	100
第十七章	殘務	100
其一	出品物ノ整理	100
其二	謝狀ノ發送	100
其三	報告書ノ編纂	100



目次

第十二卷	海軍大臣	...
第十三卷	海軍大臣	...
第十四卷	海軍大臣	...
第十五卷	海軍大臣	...
第十六卷	海軍大臣	...
第十七卷	海軍大臣	...
第十八卷	海軍大臣	...
第十九卷	海軍大臣	...
第二十卷	海軍大臣	...
第二十一卷	海軍大臣	...
第二十二卷	海軍大臣	...
第二十三卷	海軍大臣	...
第二十四卷	海軍大臣	...
第二十五卷	海軍大臣	...
第二十六卷	海軍大臣	...
第二十七卷	海軍大臣	...
第二十八卷	海軍大臣	...
第二十九卷	海軍大臣	...
第三十卷	海軍大臣	...



第二十號參觀室
第二十號參觀室
第二十號參觀室

第十號參觀室
第十號參觀室
第十號參觀室

第九號參觀室
第九號參觀室
第九號參觀室

第八號參觀室
第八號參觀室
第八號參觀室

第七號參觀室
第七號參觀室
第七號參觀室

第六號參觀室
第六號參觀室
第六號參觀室

第五號參觀室
第五號參觀室
第五號參觀室

第三號參觀室
第三號參觀室
第三號參觀室

第四號參觀室
第四號參觀室
第四號參觀室

審查室同上

紀念女子招待所





店

賣



便所

賣

店

演藝場



便所

場引福

語所

第二工藝室

審查室同上

場湯小便
室

審查室

員室

審查室

樂後

音樂隊
語所

審查室
林產
確紫室
審查室
第十子室
第十子室
第十子室

赤十字社
救護班

入口
來賓

及新聞記者室
地考委員

第一親友室
第二親友室
第十子室
第十子室

下足場

濟南利地工機
木站

指示場

門正

入場券所





東郷會長



成田副會長



市來副會長



長員委查審田山



長員委務事副田津



長員委務事本村

景 全 場 々 會 進 共

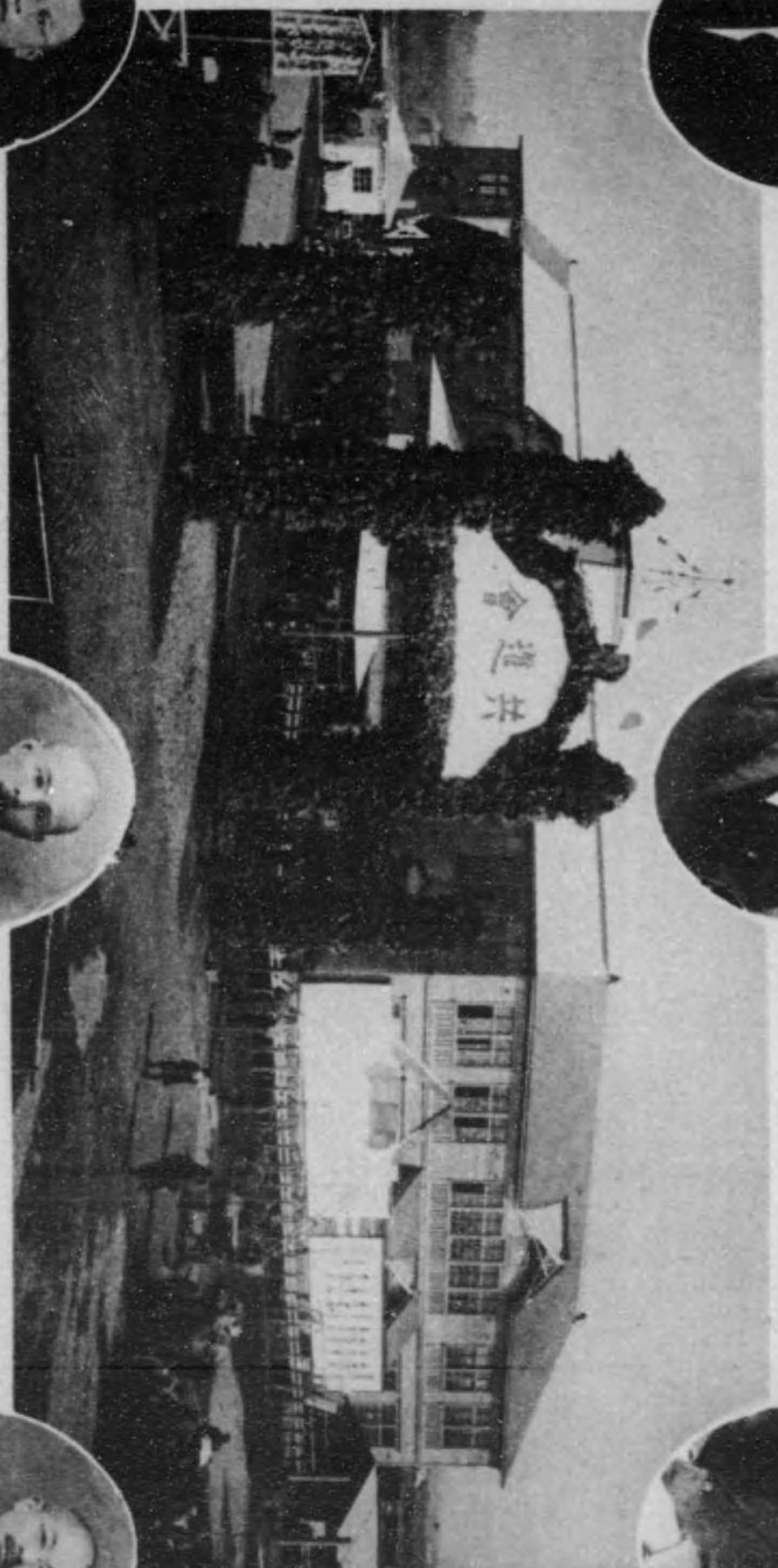
長保場會師寺



長保務應引總



長保品出馬對



長保生備旋布



長保特授洗手御



長保計會濶販



牌 金 賞 譽 名

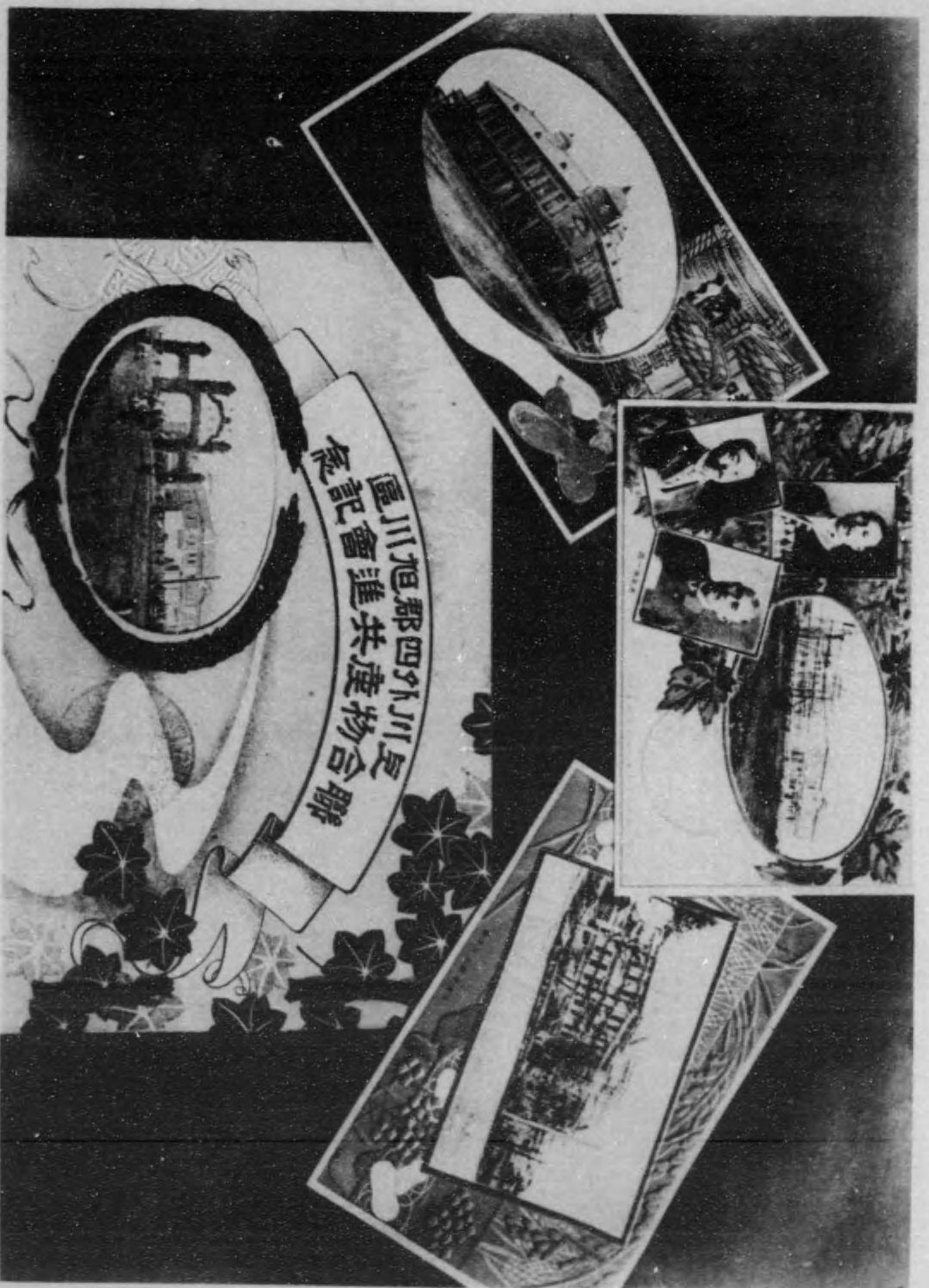


(裏)



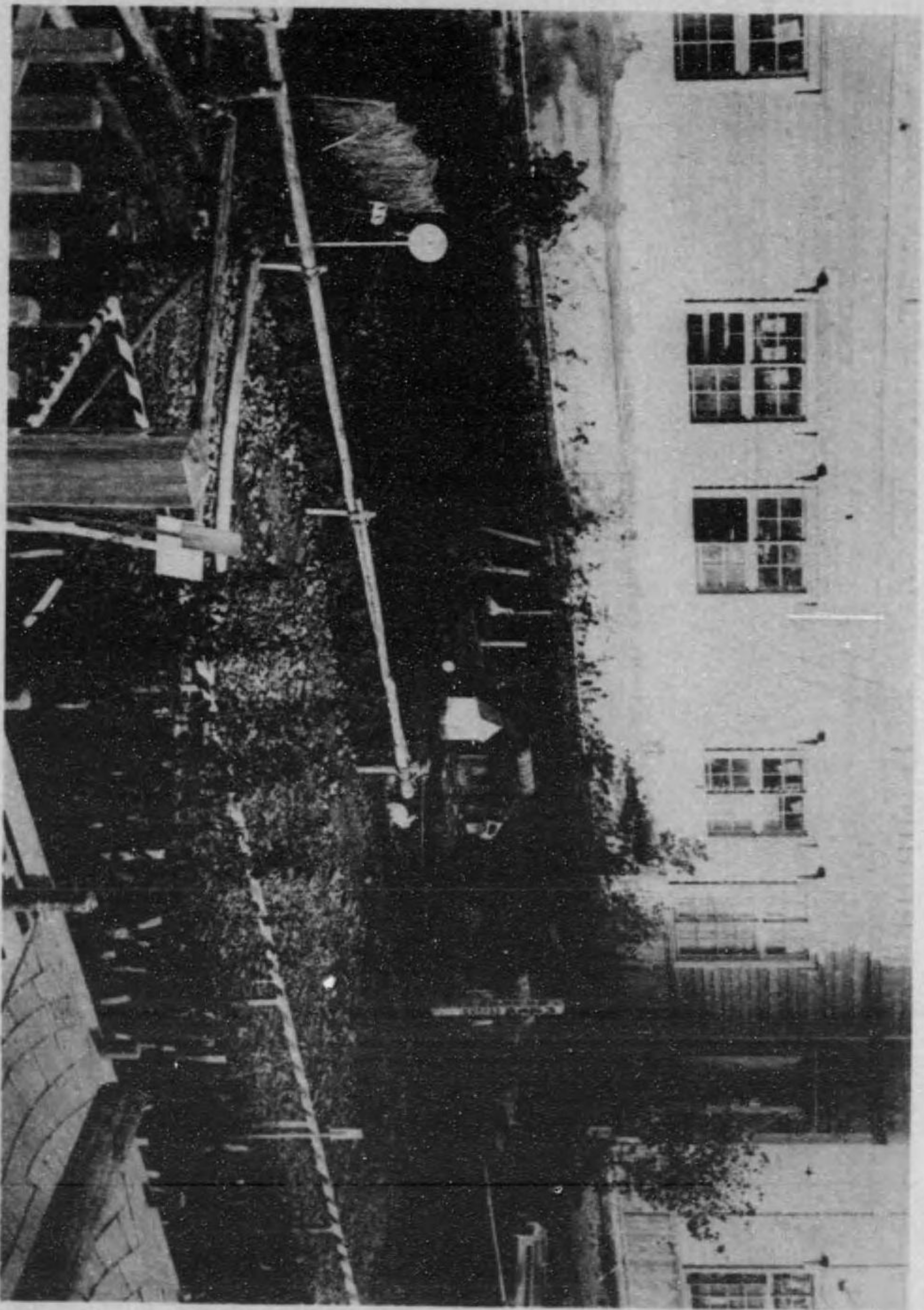
(表)





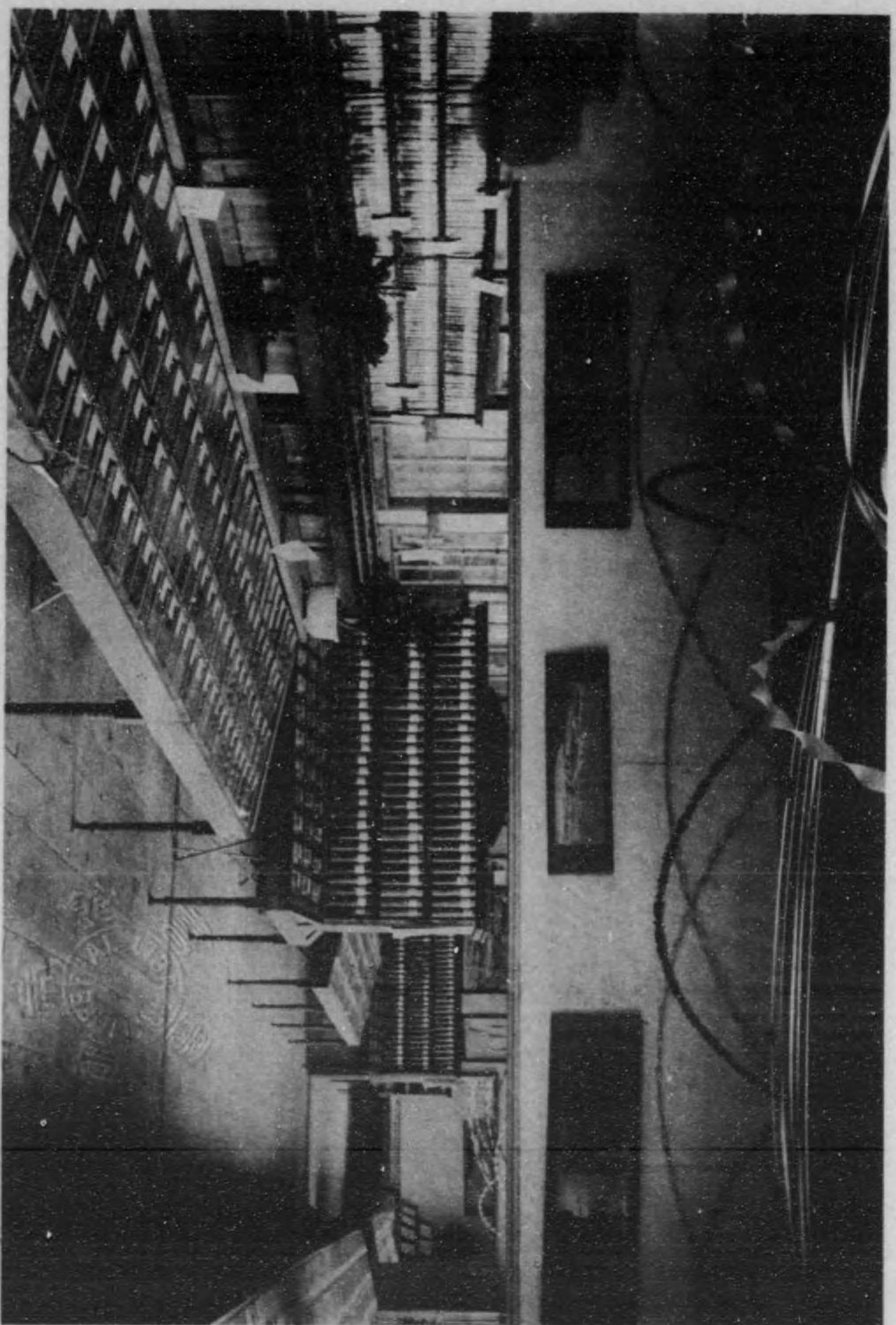
帖圖計統並さかは繪念記



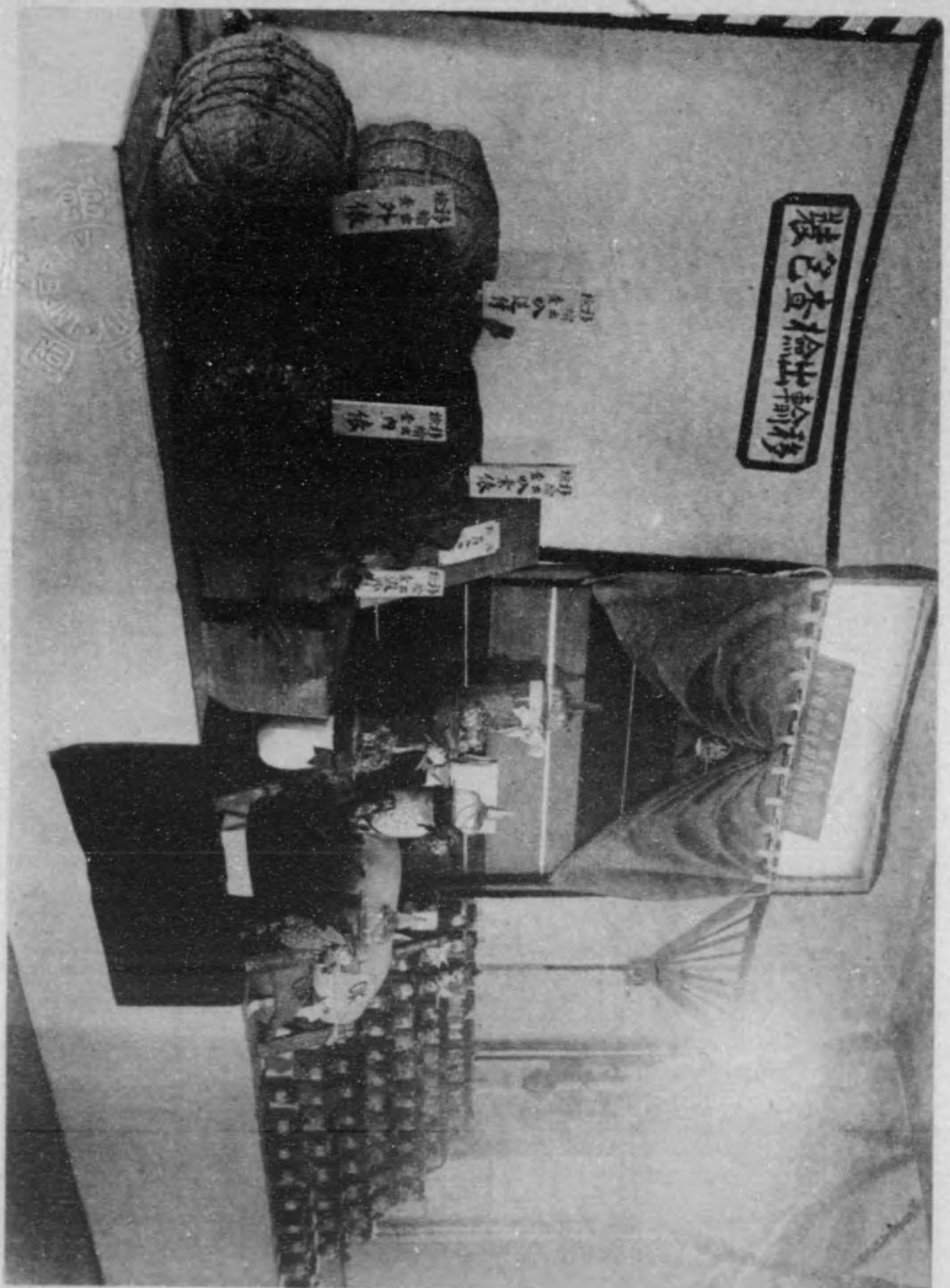


田圃模型

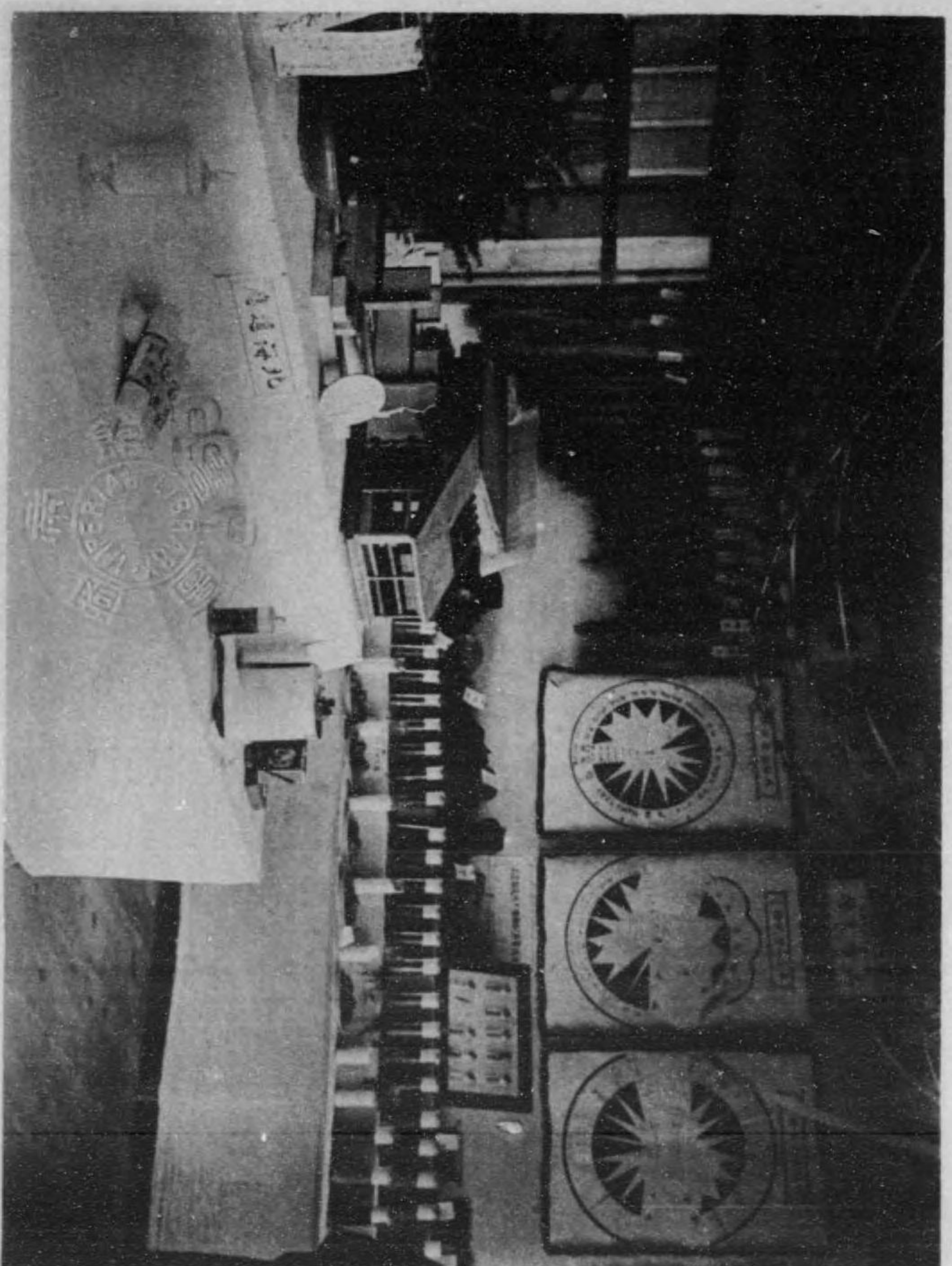




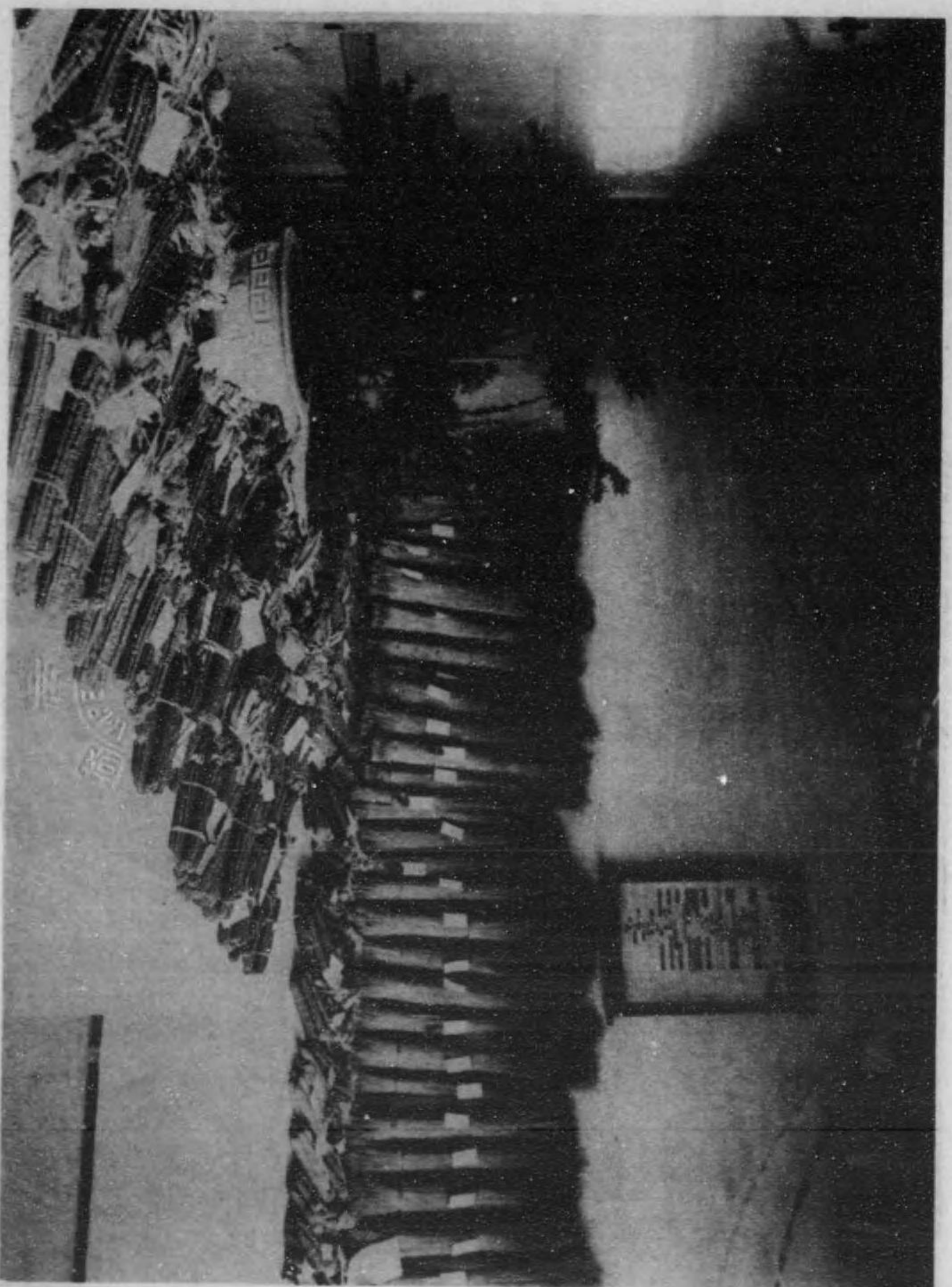
室 救 穀 四、三 第



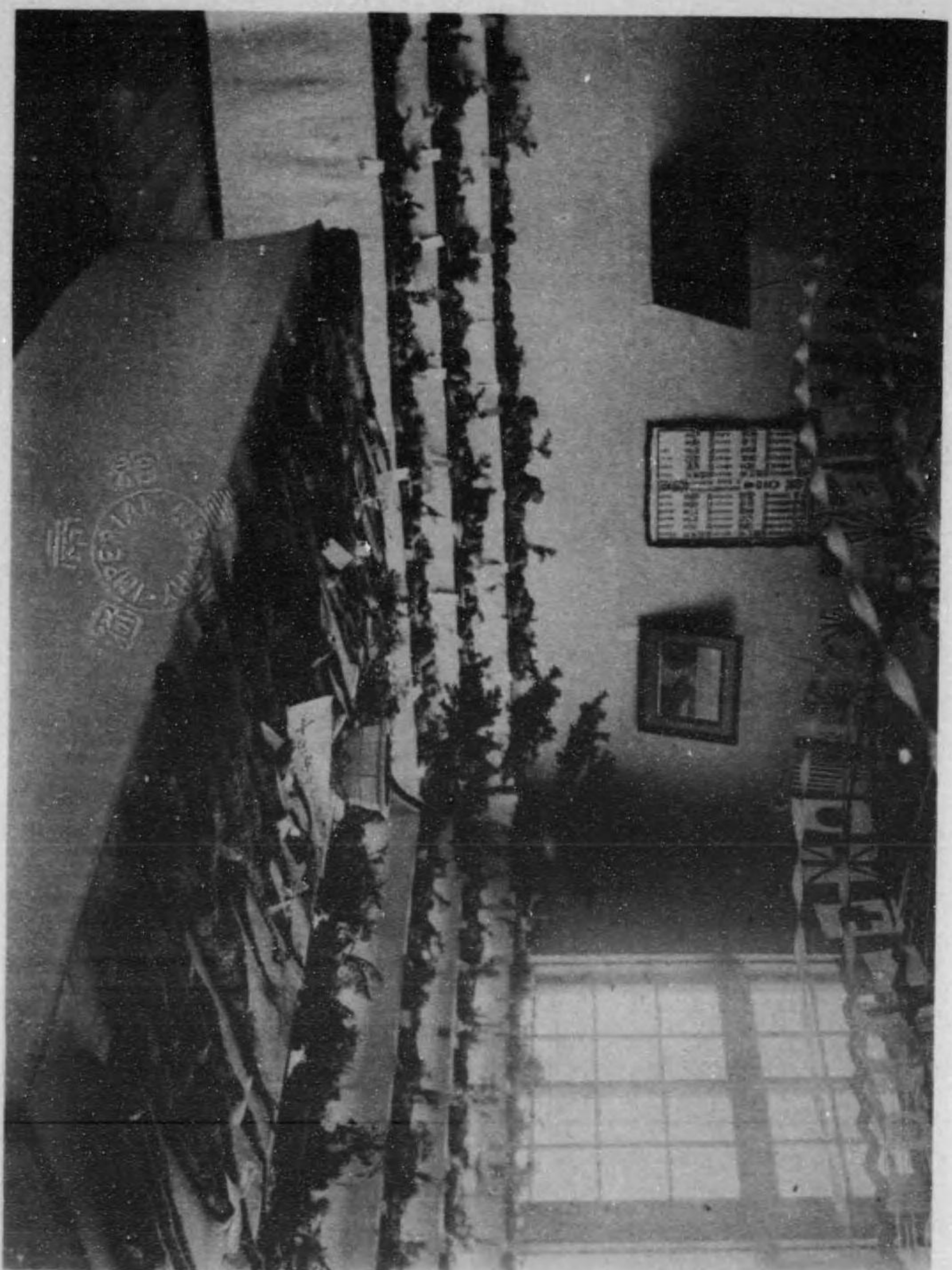
品考參品出會合聯穀雜



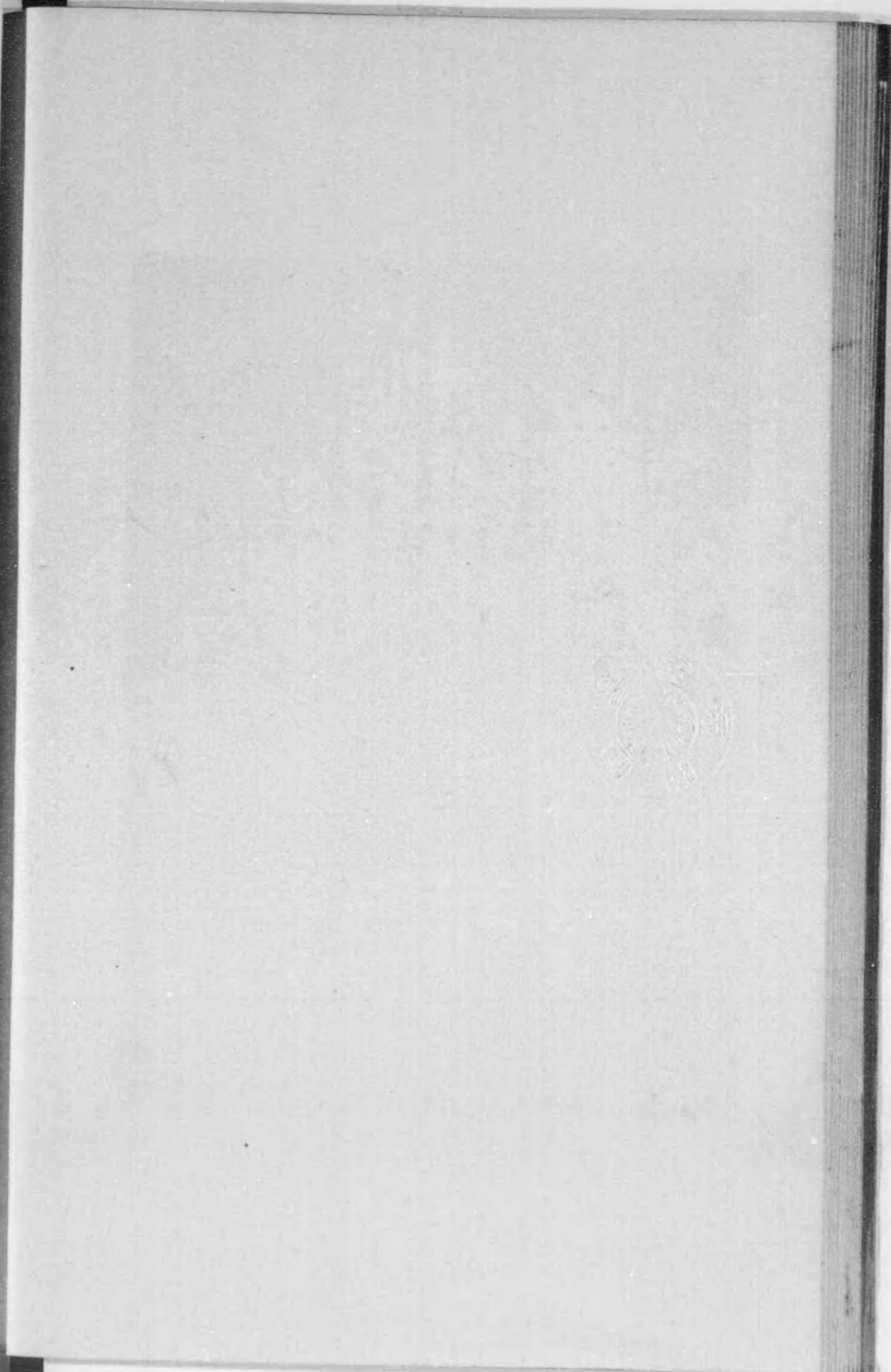
第一參觀室

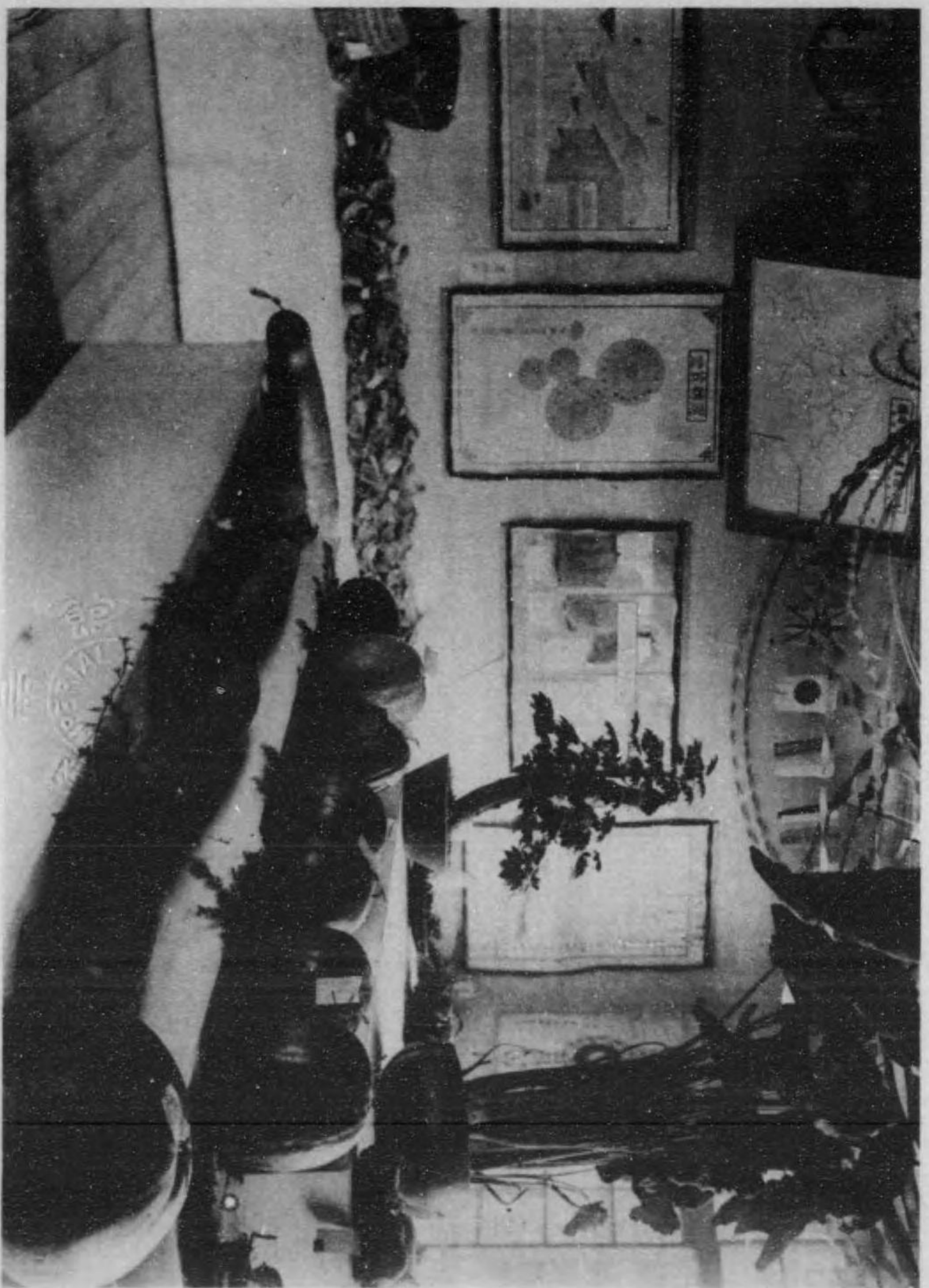


第一持用作用物室

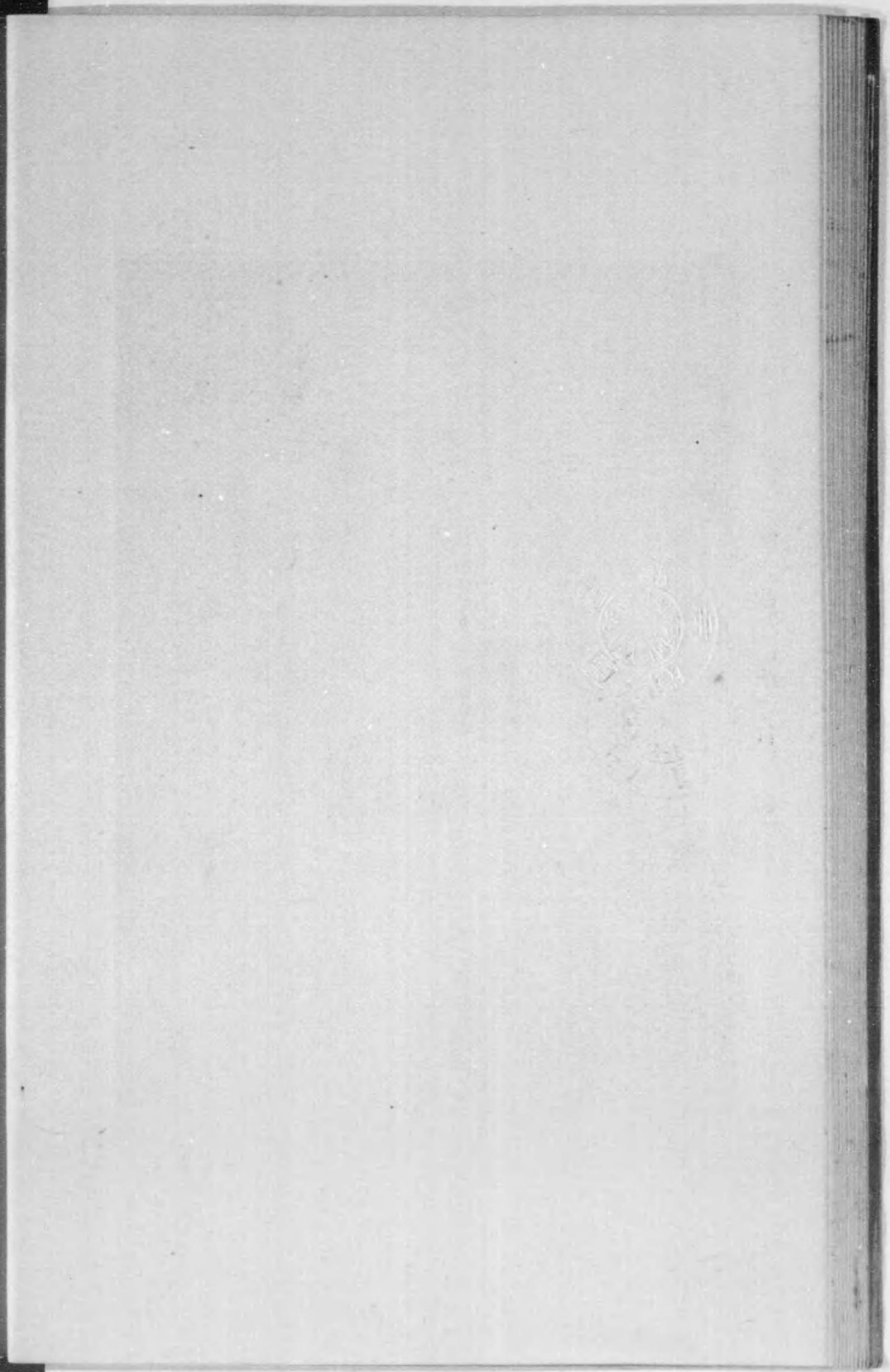


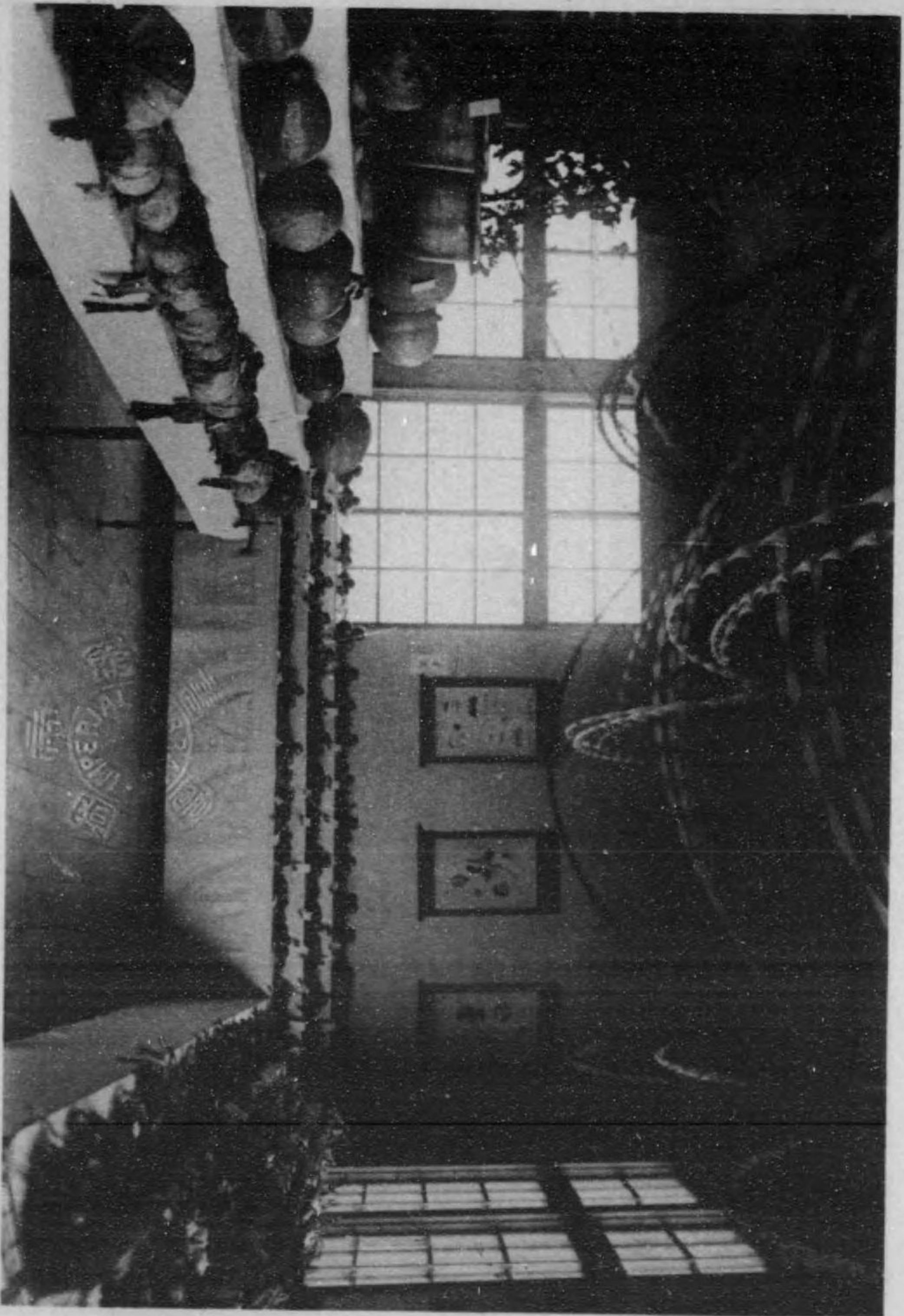
室 菜 蔬 二 第



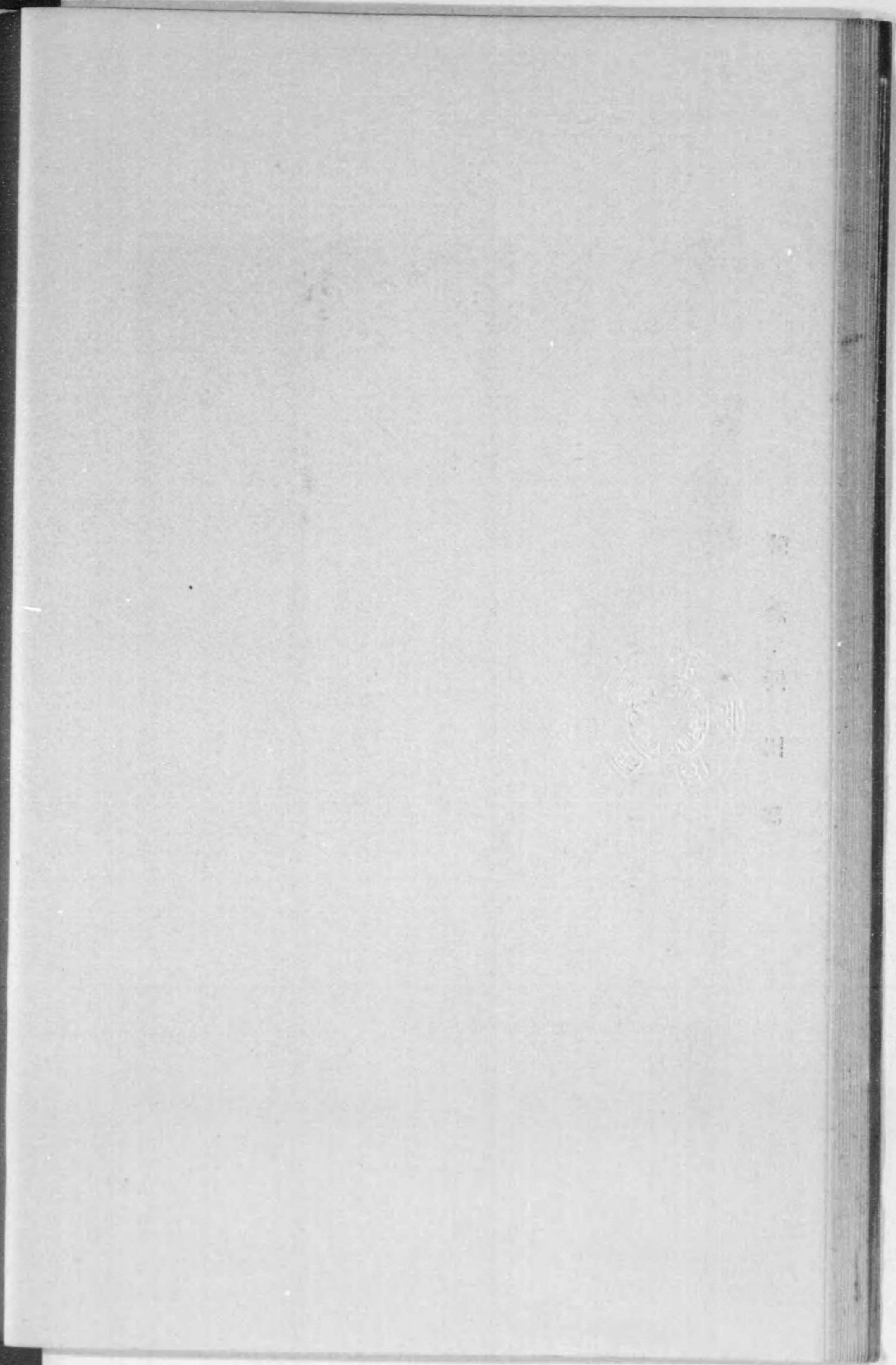


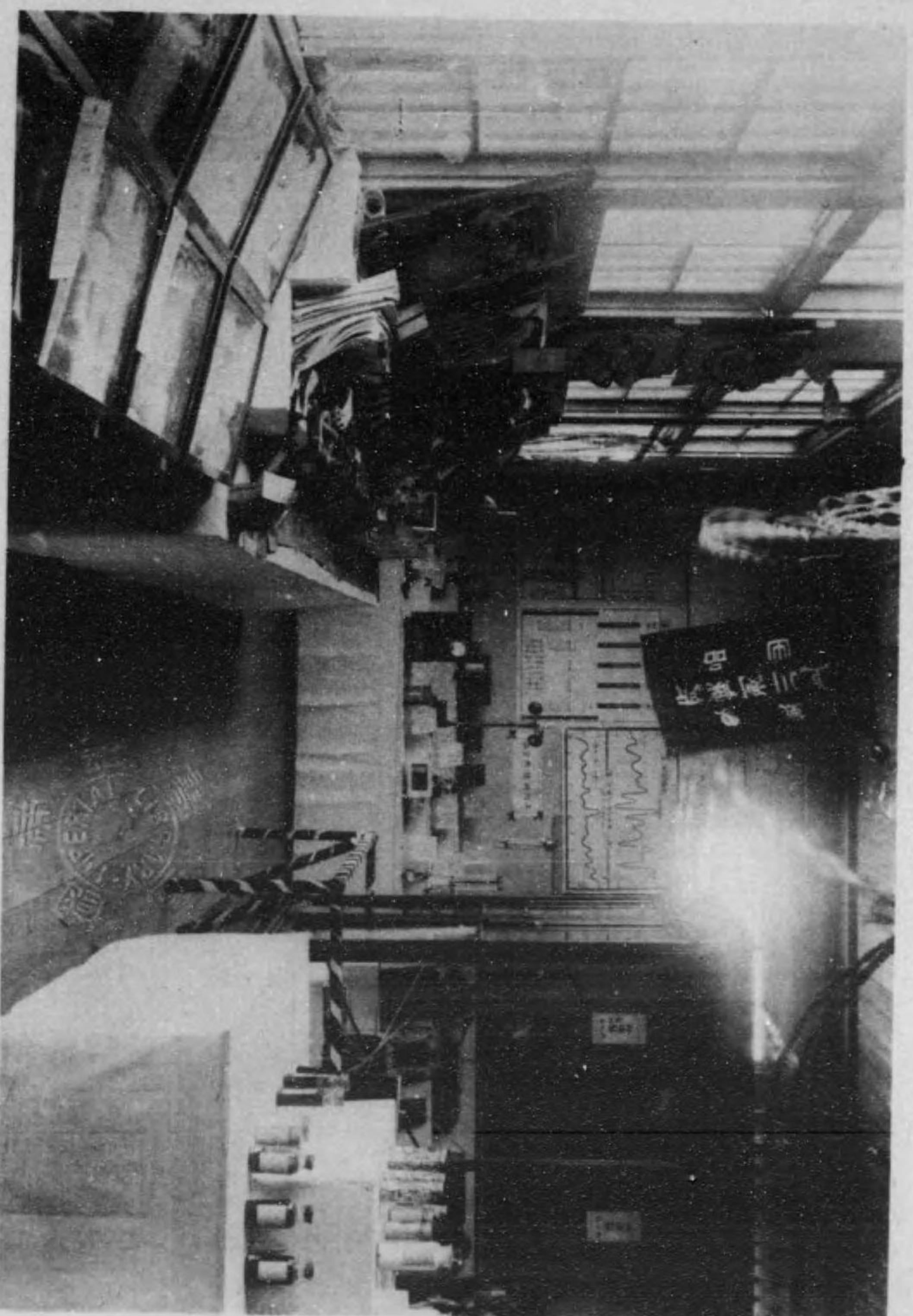
第 三 蔬 菜 室





蔬 菜 果 實 室





第一二室(其一)





第二參考室 (其二)

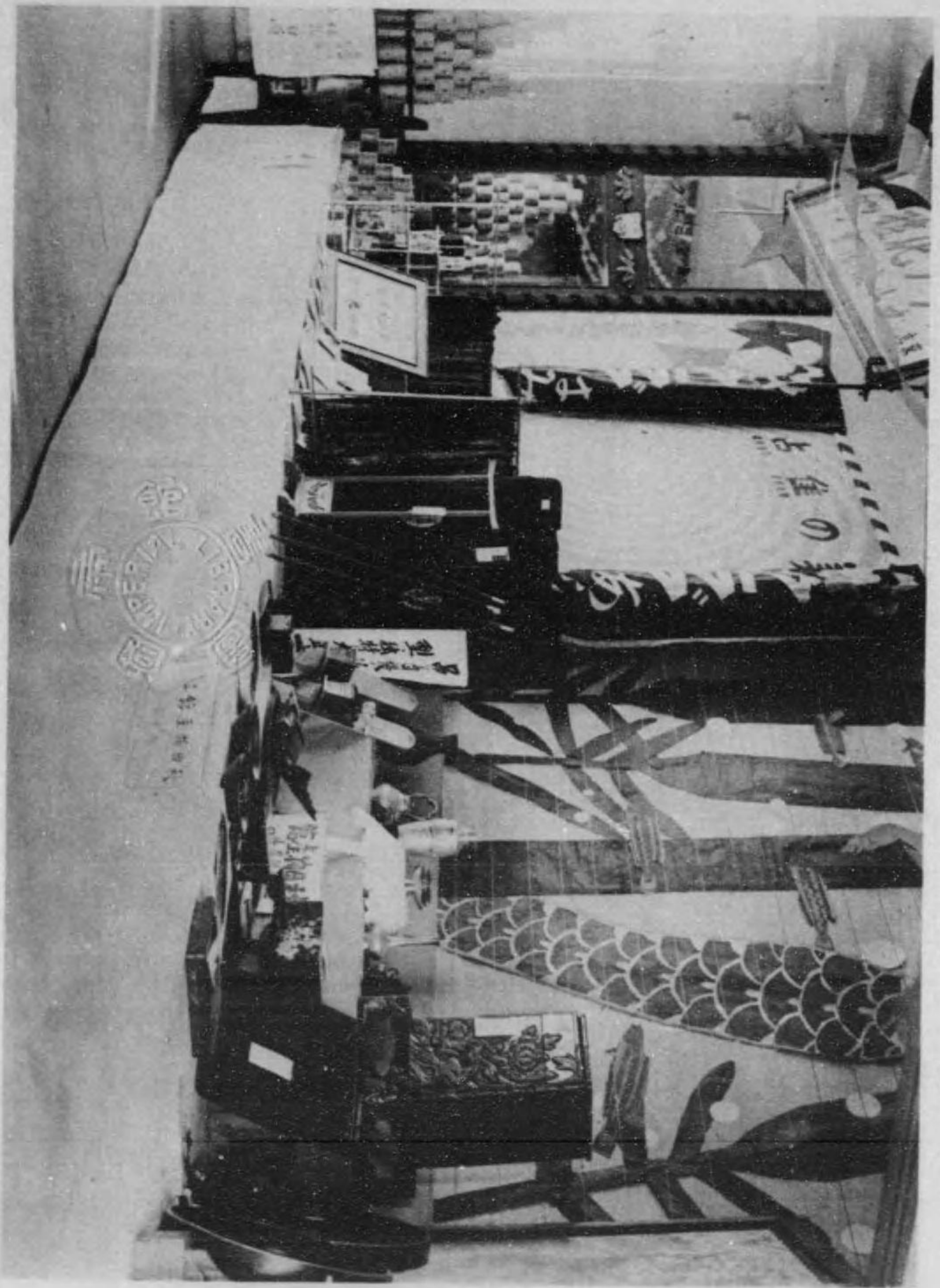


(二其) 室 藝 工 二 第

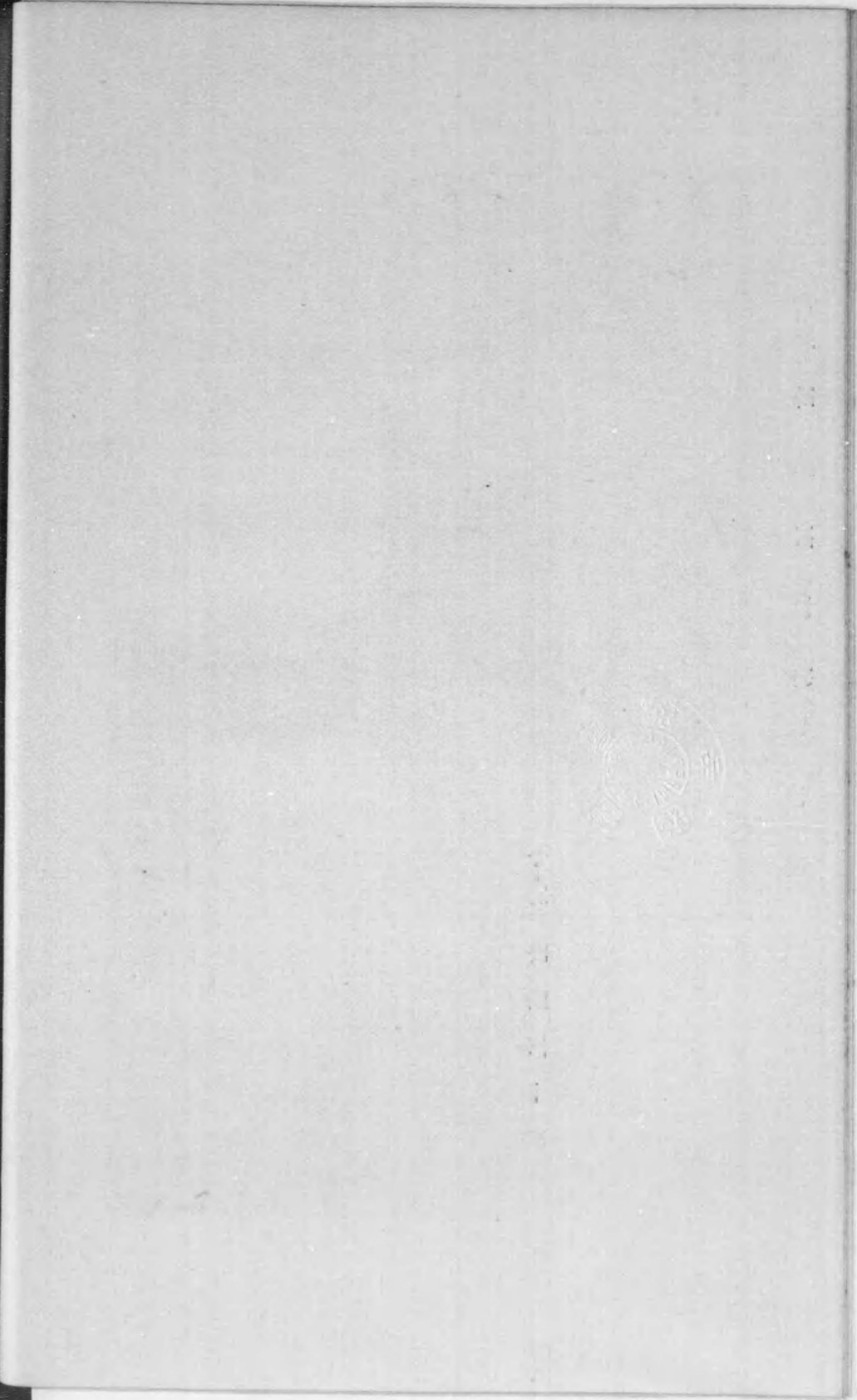


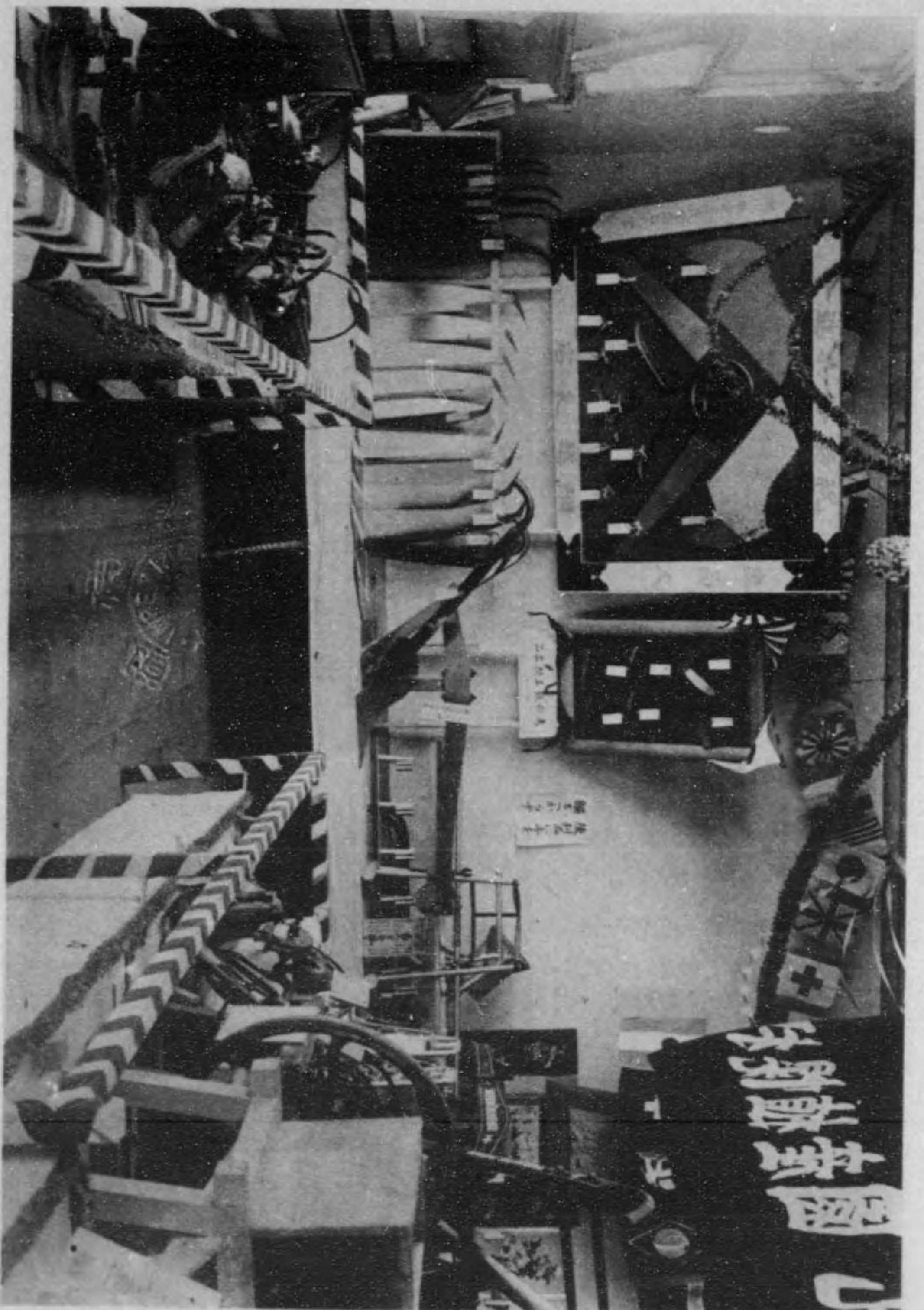
(一其) 室 藝 工 一 第



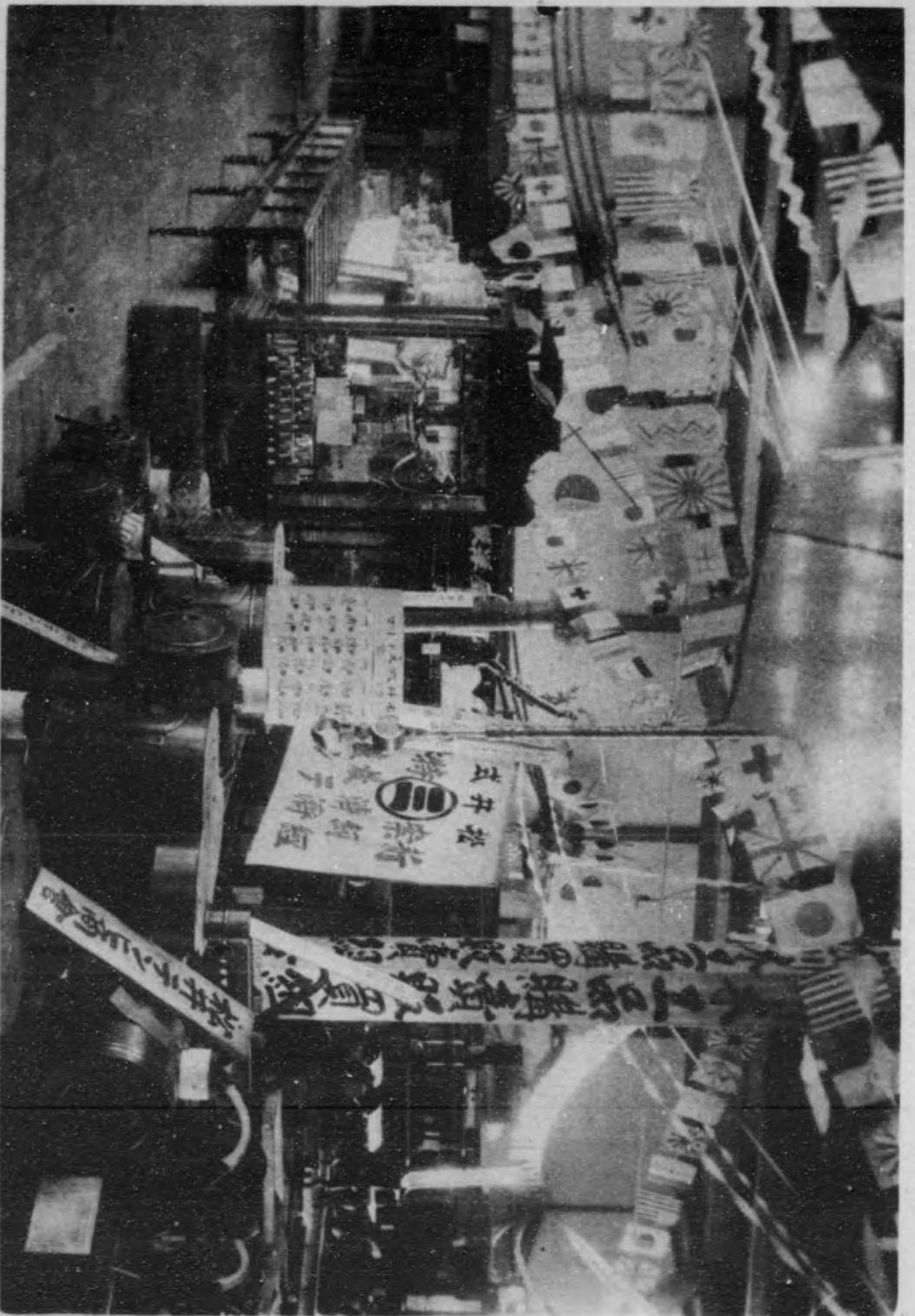


室 考 參 三 第



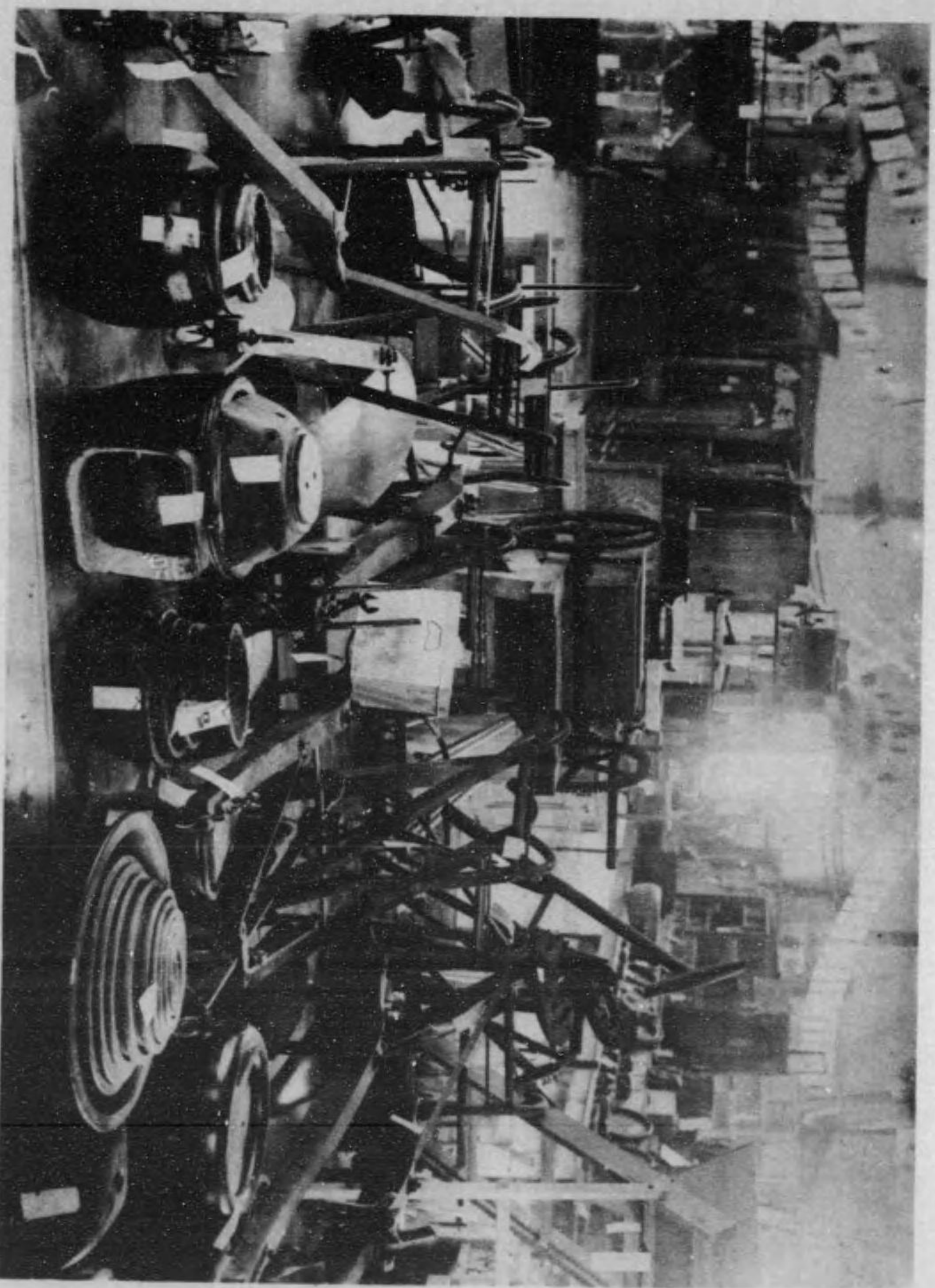


第一四參室(其一)

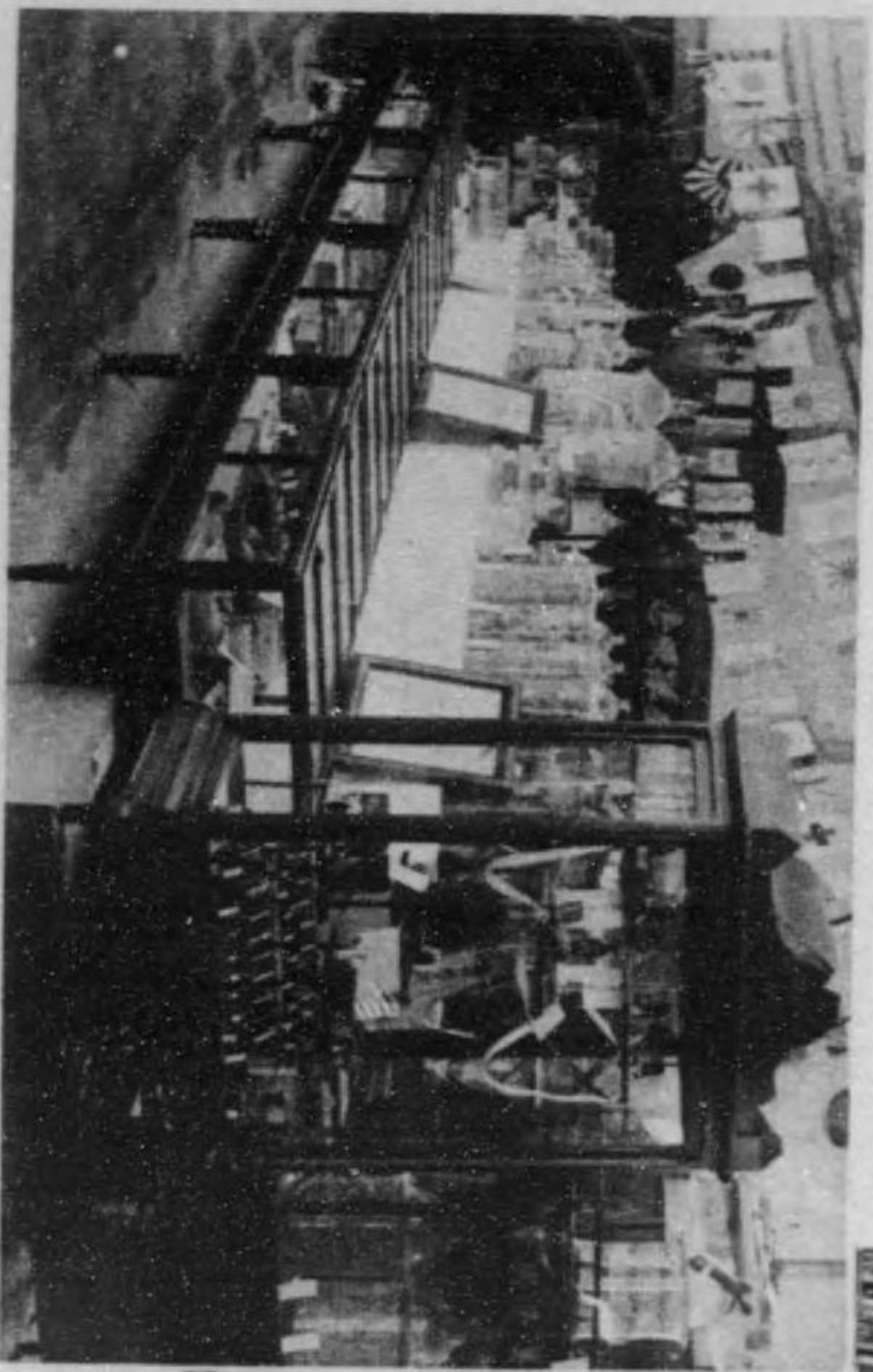


第一二室藝室(共一)

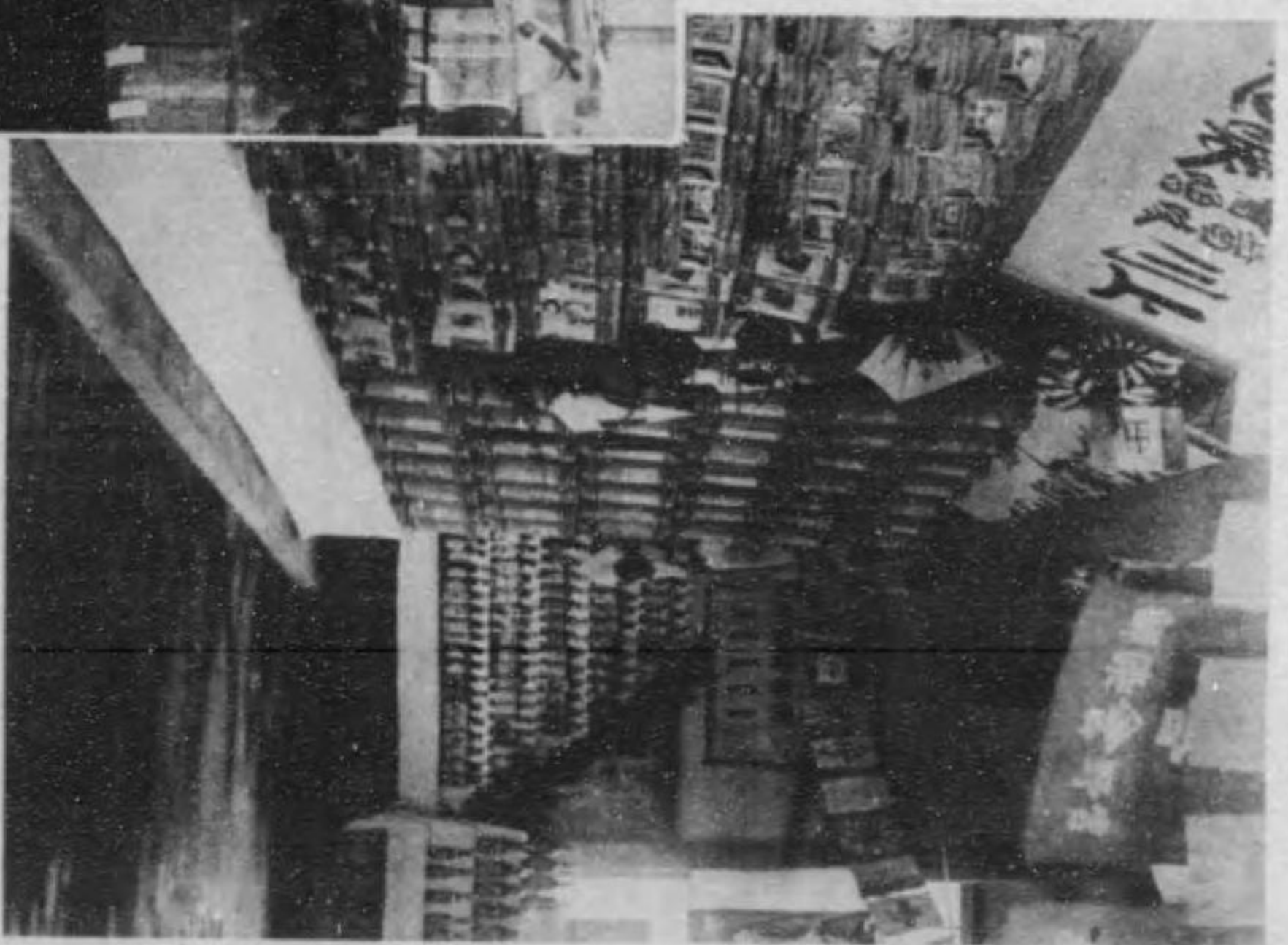




（二共）室 藝 工 二 第



(四其) 室 藝 工 二 第



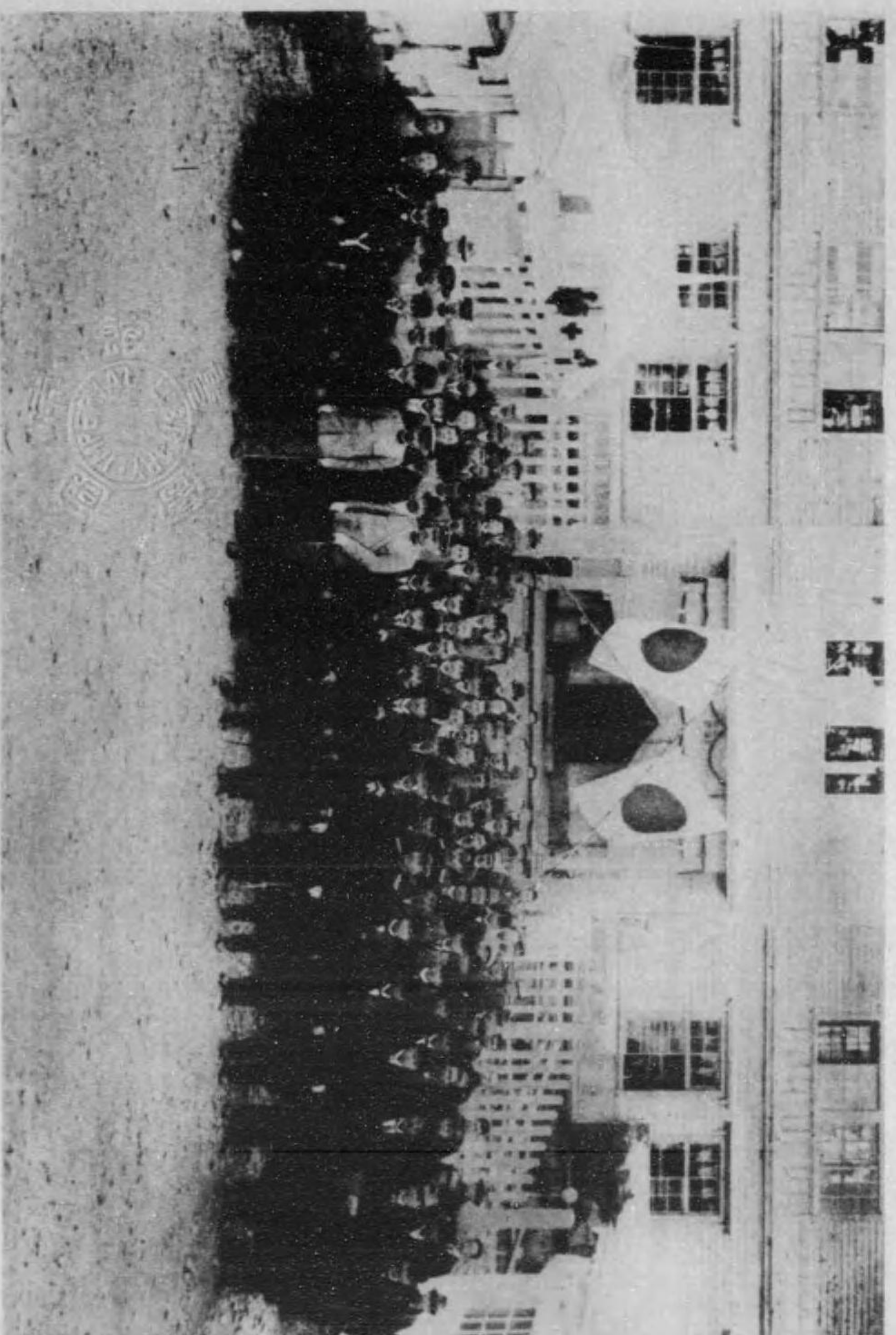
(三其) 室 藝 工 二 第





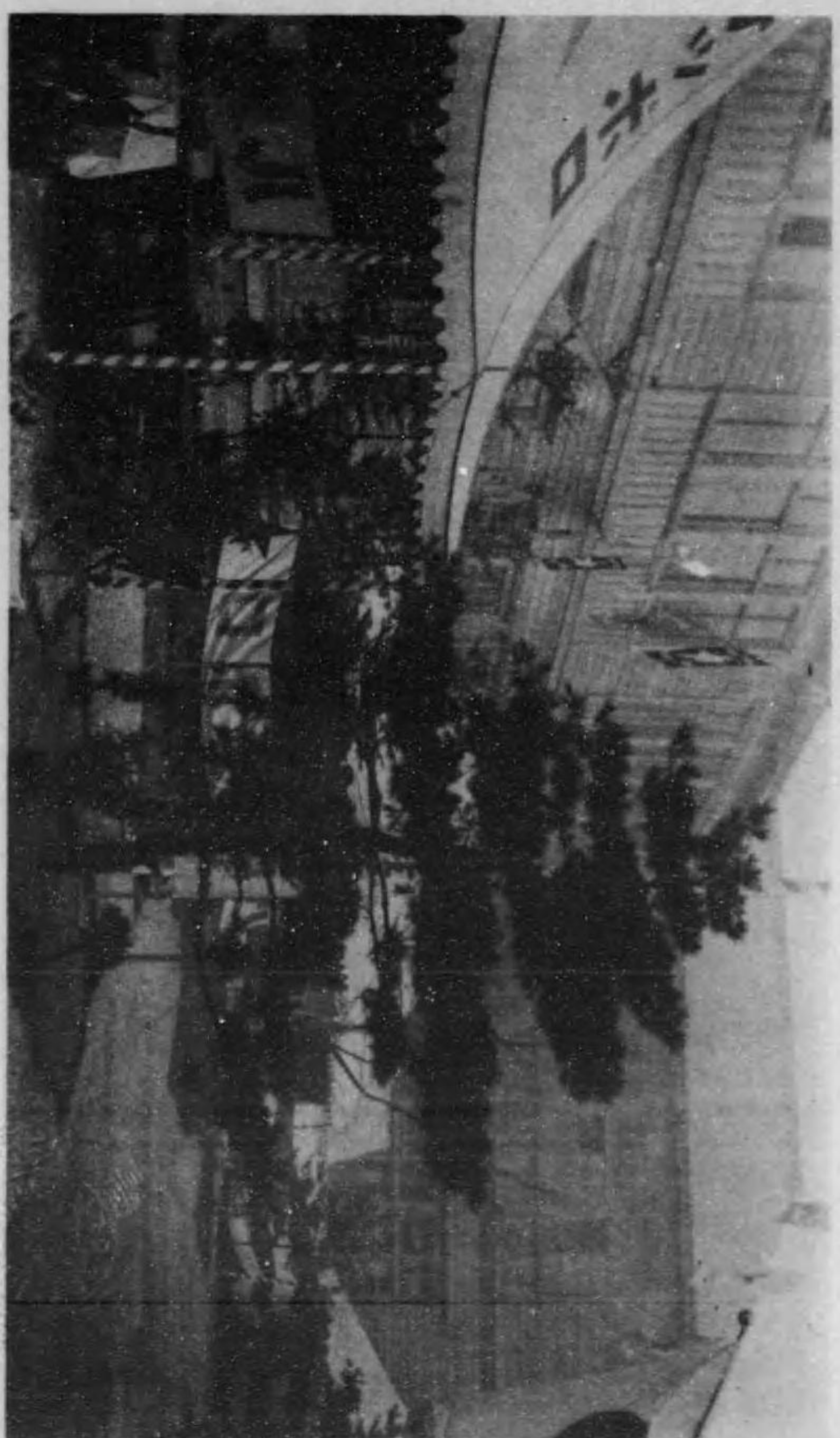
(日二十月十年五正六) 式 與 授 賞 褒





閉會紀念攝影





園 樂 後

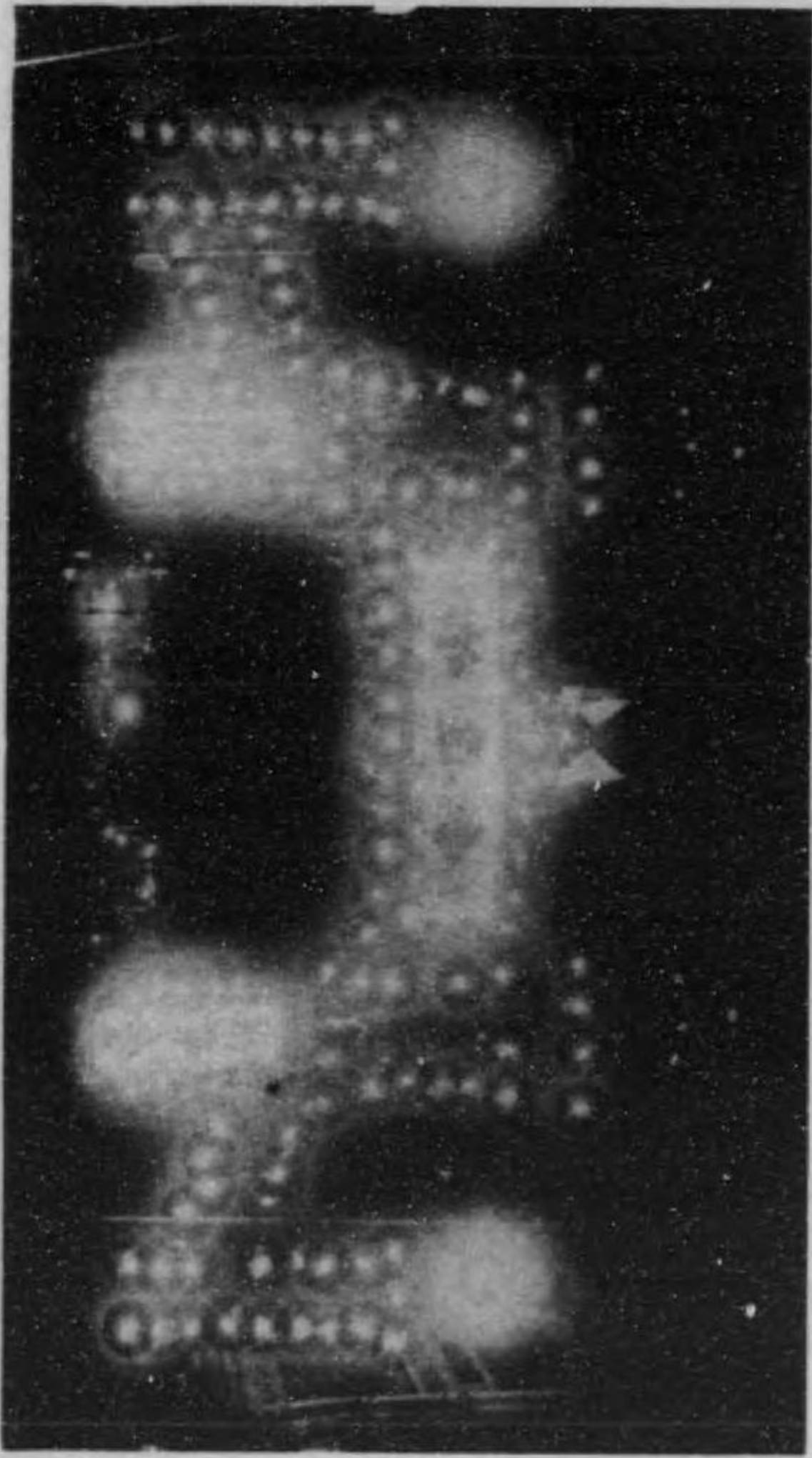
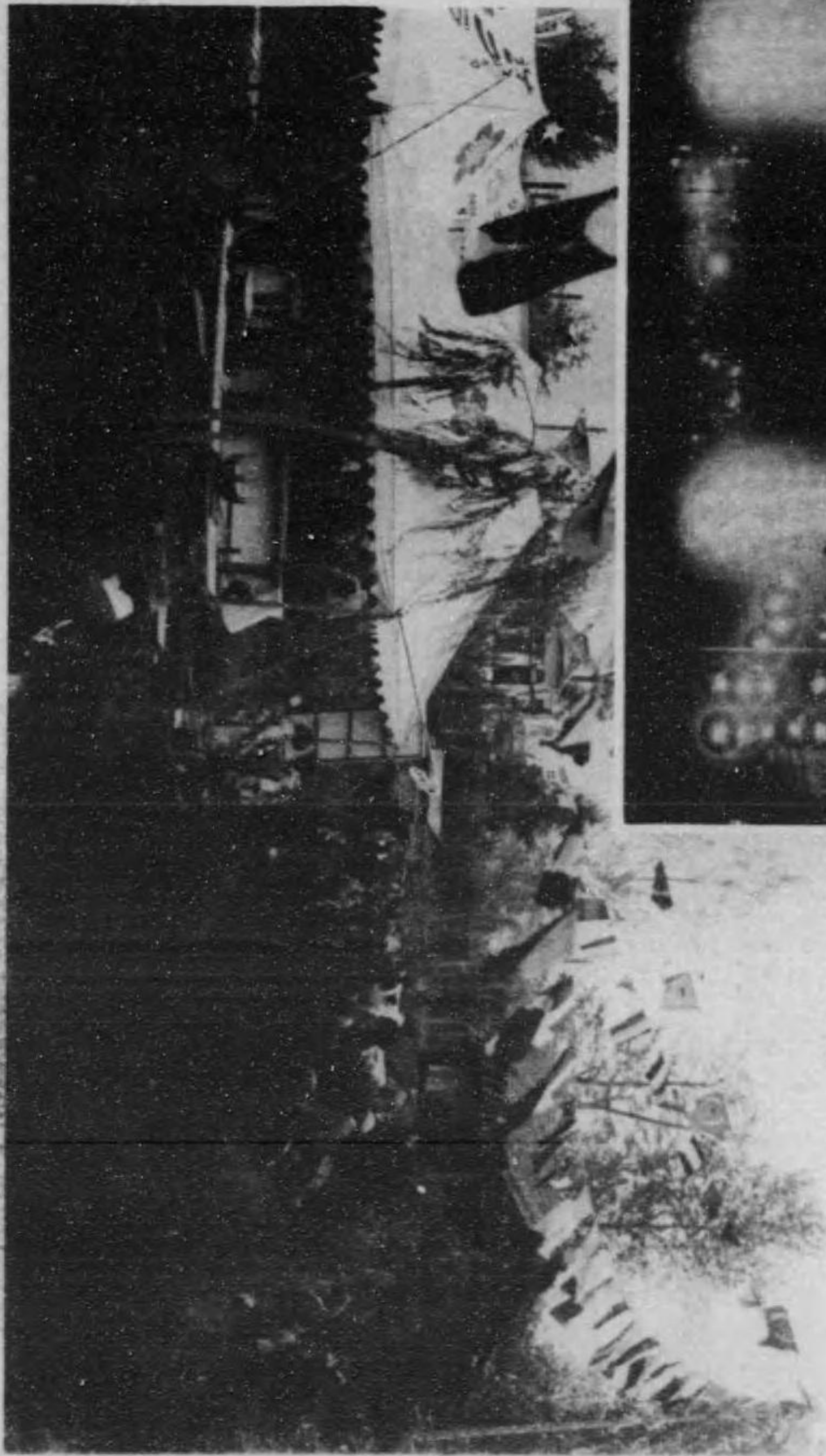




列行裝假 + 興餘



會遊園並景夜



上川外四郡
旭川區 聯合物産共進會事務報告

第一章 緒

上川支應管内に於ける此種の施設は明治三十五年三月第一回上川農産品評會を明治四十年十一月に第二回上川農産品評會を明治四十二年に上川米麥品評會を開催せり而して是等の品評會は經費四百七十圓乃至一千三百餘圓出品點數七百六十餘點乃至一千四百六十餘點の小規模なるものなりき越て明治四十四年上川外三郡農會の通常總會に於て明治四十六年を期し物産共進會開催の決議を爲せるも不幸にして同年は本道未曾有の凶作にして之を延期するの餘議なき状態に立至れり然るに大正三、四年の農作は概ね豊穰にして何れも相當の收穫を收め農家の經濟状態頗る恢復を告げたと管内の農業は著しく進歩發達して生産總額一千五百萬圓を超過し管内の産業方針は確立して本年は將に其實行の第一年に該當し又旭川區は大正三年四月區制實施せられてより著しく發達し各種製品の産出亦益々増加の趨勢なるを以て茲に上川支應管内の五郡と旭川區と聯合して本會を開催するに至れり本會の會場は旭川區に於て御大典記念事業として二万七千餘圓を投して建築せる女子職業學校の校舍を充當し會期は上川洞候所に於ける既に七ヶ年觀測の成績に徴して之を定め之に要する經費一萬圓を計上し出品點數一萬點を豫想せるに一面官廳の保護と區及町村農會其他地方委員諸氏の努力に依り出品點數著しく増加して其數實に一萬五千八百有餘點の多きに達し爲めに式場に充當すべく豫定せる屋内運動場及廊下にまて之か陳列を要し式場は上川第二常尋小學校を使用するの餘儀なきに立至れるの盛況を呈せり聞く處に依れば去る明治三十九年札幌に開かれたる北海道物産共進會の出品點數は普通出品一萬三千四百三十八點外に參考品二千七百十四

點に過ぎず其他本道各地の共進會に於ても未だ會て本會の如き多數出品を見たるの例なしと此光榮を以て終始したるは本會の最も満足とする所なり而して旭川區に於ては協賛會を組織し來賓の接待に任ずるの外會期中諸種の餘興を演じ以て本會をして益盛大ならしめたり。
左に本會事務の梗概審査の狀況等章を追て之を記述せんとす。

第二章 組 識

其 一 規 則

本會規則は大正四年十二月十一日上川外四郡農會旭川區の兩理事者會合の上協定し然る後上川外四郡農會にては大正五年一月十五日開會の同會總會に旭川區に於ては大正五年一月廿九日開會の區會に於て何れも可決決定したるものにして即ち左の如し。

註本規則制定後勇拂郡占冠村農會設立認可せられたるにより上川外三郡農會は上川外四郡農會と名稱變更により従つて本會の名稱も前記の通り變更せり。

上川外四郡 旭川區 聯合物産共進會規則

第一章 總 則

- 第一條 本會ハ産業ノ進歩發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハ上川外四郡農會及旭川區ノ聯合ヲ以テ組織ス
- 第三條 本會ハ上川外四郡旭川區聯合物産共進會ト稱シ大正五年十月六日ニ開キ同月十五日ニ之ヲ閉ツ
- 第四條 本會ノ事務所ハ上川支廳内ニ置ク
- 第五條 本會場ハ旭川區立女子職業學校ヲ以テ之ニ充ツ

第六條 本會ノ出品ハ上川支廳管内及旭川區ニ於テ大正五年中ニ産出採取又ハ製造シタルモノニ限ル但シ會期ニ於テ未タ産出採取製造ノ時季ニ達セザルモノハ前年ノモノヲ出品スルコトヲ得
參考品ハ前項區域ノ内外ヲ問ハス品出スルコトヲ得

第二章 出 品

第七條 本會ノ出品ハ左ノ四部ニ分ツ但シ部類目錄並ニ出品數量ハ別ニ之ヲ定ム

- 第一部 農 業
- 第二部 工 業
- 第三部 林 業
- 第四部 鑛 業

第八條 左ノ各號ニ該當スルモノハ出品スルコトヲ得ス

- 一、風俗又ハ秩序ヲ紊リ若クハ衛生ヲ害スル虞アリト認ムルモノ
 - 二、他ニ損害ヲ及ホシ又ハ公衆ニ嫌忌ノ感ヲ與ヘ若クハ危險ノ虞アリト認ムルモノ
 - 三、博覽會共進會等ニ於テ審査ヲ受ケタルモノ但シ參考品ハ此限リニアラス
- 第九條 出品セントスルモノハ第一號様式ノ出品目錄及第二號様式ノ解説書ヲ大正五年九月十日迄ニ本會事務所ニ提出スヘシ

第十條 出品物ノ搬入ハ大正五年九月三十日限リトス

第十一條 左ニ掲クル費用ハ出品人ノ負擔トス

一、出品物ノ荷造及運送費

二、特殊ノ陳列設備及裝飾ニ要スル費用

第十二條 出品ハ總テ本會ニ寄附スルモノトス但シ一點ノ價格五十錢以上ノモノハ此限リニアラス

第十三條 出品ニ對シテハ相當ノ保護ヲ爲スヘシト雖モ火災盜難其他不可抗力ニ起因スル損害ハ本會其責ニ任セズ

第十四條 出品ニシテ損傷腐敗等ニ依リ陳列ノ見込ナシト認メタルモノハ本會ニ於テ相當處分スヘシ前項ノ場合ニ於テ出品人ハ異議ヲ唱フルコトヲ得ス

第十五條 參考品ノ出品ニ關シテハ本會ノ承認ヲ受ケタル品種ニ限り本章ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第十六條 出品物ハ參考品ヲ除キ總テ審査ヲ行フモノトス

第十七條 審査ハ北海道廳長官ニ申請シ審査委員長並ニ審査委員ノ派遣ヲ請フモノトス

第十八條 出品人ハ審査ヲ拒ミ又ハ之ニ對シ異議ヲ唱フルコトヲ得ス

第十九條 審査上必要アルトキハ出品物ト同品種ノ物品又ハ説明書ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第二十條 褒賞ハ左ノ四種トシ名譽賞及一、二、三等賞ニハ賞品ヲ授與ス

第二十一條 一人ニシテ數個ノ褒賞ヲ受クヘキモノニ對シテハ賞品ハ最高ノモノ一個ヲ授與シ他ハ賞狀ヲ授與ス

第二十二條 褒賞授與式ハ大正五年十月十二日之ヲ舉行ス

第二十三條 觀覽時間ハ毎日午前八時ヨリ午後五時迄トス

第二十四條 觀覽料ハ一人金二錢トス但シ學校生徒ノ團體入場者及下士以下ノ現役軍人ハ無料トス

第二十五條 觀覽人ハ傘杖兇器又ハ他ノ妨害トナルベキ物品ヲ携ヘテ入場スルコトヲ得ス

第二十六條 陳列室内ニ於テハ喫煙スルコトヲ得ス

第二十七條 醉狂、瘋癲其他場内ノ秩序ヲ紊ル虞アリト認ムル者及第二十五條ノ規定ニ違背スル者ハ入場ヲ拒絶シ又ハ退場ヲ命スルコトアルヘシ

第二十八條 本會ニ左ノ職員ヲ置ク

第二十九條 會長ハ上川支廳長ヲ副會長ニハ旭川區長、北海道農事試驗場上川支場長ヲ推薦ス

第三十條 事務委員長以下ノ職員ハ會長之ヲ囑託シ有給事務員ハ會長之ヲ任免ス

第三十一條 地方副委員長 若干名

第三十二條 地方委員 若干名

第三十三條 審査委員 若干名

第三十四條 事務委員 若干名

第三十五條 副會長 二名

第三十六條 事務委員長 一名

第三十七條 副事務委員長 一名

第三十八條 審査委員長 一名

- 第三十一條 會長ハ會務ヲ總理ス
- 第三十二條 副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ其職務ヲ代理ス
- 第三十三條 事務委員長、副事務委員長ハ會長ノ命ヲ受ケ事務委員ヲ指揮シ本會ノ事務ヲ掌ル
- 第三十四條 地方委員長ハ其地方委員ヲ指揮シ本會ニ關スル地方ノ事務ニ從事ス
- 地方副委員長ハ地方委員長ノ職務ヲ補佐ス
- 第三十五條 本會ノ事務ニ關スル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第一號樣式

表

(甲) 出品目録

出品人	No.	第 部 第 類		價 額 金	數 量
		品 名	品 種 名		
郡					
村町					
		(非賣品)(寄附)			

(乙) 〇

出品人	No.	第 部 第 類		價 額 金	數 量
		品 名	品 種 名		
郡					
村町					
		(非賣品)(寄附)			

注意

本表ハ一品毎ニ一枚ヲ附シ甲乙共ニ同様ニ記入シ「ミシン」ノ個所ヨリ切放サハルコト
 農産物ハ品名ノ左側ニ品種名ヲ記入スルコト
 賣品ハ(非賣品)(寄附)ヲ消シ非賣品ハ寄附ヲ消シ寄附ハ非賣品ヲ消スコト

第二號樣式

裏

〇 說 解

No.	第 部 第 類		村 町
	品 名	品 種 名	
産地			
作付反別			
産出額			
褒賞額			
其他			

注意

産出額ニハ出品物ト同種ノ總産額ヲ記入シ褒賞ニハ從來褒賞ヲ受ケタル事歴並其會名ヲ記入スルコト
 製造品等ニシテ各項目ニ適合セザルトキハ其他ノ項ニ適宜記入スルコト若シ欄内ニ記入シ能ハサル場合ハ適
 宜別紙ヲ用ヒ本表ニ添付スルコト

其二 出品配當類別

出品の配當類別は共進會に於て最も重要な事務に屬す即ち配當其宜しきを得さらんか陳列の統一を缺き審査の錯雜を來たし往々失敗を招くの虞なしとせず是に於て本會は聯合區域内産業の實況に稽へ他面審査の分掌に參酌し屢々協議を重ね慎重考究を遂げ出品を四部に分ち之に各種生産物を配屬せしめたり即ち左の如し

出品部類別表

(規則第七條ニヨル)

- 第一部 農業
- 第一類 普通作物
- 第二類 特有作物
- 第三類 園藝作物

第二章 組織

- 第四類 繭、蠶種及蠶絲類
- 第五類 苗木類
- 第六類 肥料類
- 第七類 經營、圖書、統計、圖案、標本

旭川外四郡 旭川區 聯合物産共進會處務規程

第一條 本會ニ左ノ係ヲ置キ事務ヲ分掌セシム

一、庶務係	
一、出品係	
一、會場係	
一、接待係	
一、會計係	
一、衛生係	

第二條 各係ニ係長一名ヲ置ク係長ハ事務委員長ノ指揮ヲ受ケ其ノ係一切ノ事務ヲ處理ス

第三條 係員ハ係長ノ指揮ヲ受ケ其分擔事務ヲ處理ス

第四條 係長及係員ハ事務委員ヲ以テ之ニ充ツ

第五條 各係ノ分掌事務左ノ如シ

一、委員以下進退身分ニ關スル事項	
二、會印及職印ノ管守ニ關スル事項	
三、文書ノ接受發送及保存ニ關スル事項	
四、褒賞及儀式ニ關スル事項	
五、船車賃金割引ニ關スル事項	
六、經費經理ニ關スル事項	
七、寄附金募集ニ關スル事項	

出品係

- 一、出品ノ勸誘受入及返付ニ關スル事項
- 二、出品日録解説書及臺帳ニ關スル事項
- 三、出品ノ保管ニ關スル事項
- 四、出品ノ陳列ニ關スル事項
- 五、出品ノ輸送ニ關スル事項
- 六、其他出品ニ關スル事項

會場係

- 一、會場ノ設備修理ニ關スル事項
- 二、陳列室、休憩室、式場、事務室、其他各室ノ配置及裝飾ニ關スル事項
- 三、賣店ニ關スル事項
- 四、守衛看守ノ監督及會場取締ニ關スル事項
- 五、入場券及福引券ニ關スル事項

接待係

- 一、案内招待ニ關スル事項
- 二、來賓ノ送迎接待ニ關スル事項
- 三、會場外ニ於ケル裝飾ニ關スル事項
- 四、協賛會ニ關スル事項
- 五、餘興ニ關スル事項
- 六、人力車、馬車等供給ニ關スル事項

會計係

- 一、經費ノ豫算決算ニ關スル事項
- 二、金銭ノ出納保管ニ關スル事項
- 三、諸經費ノ支拂ニ關スル事項
- 四、入場料其他雜收入ニ關スル事項
- 五、不用品ノ處分ニ關スル事項

衛生係

- 一、衛生ニ關スル事項
- 二、傷病者ノ救護ニ關スル事項

第六條 本會ニ到達ノ文書ハ庶務係ニ於テ接受開封シ本書欄外ニ所定ノ受付印ヲ押捺シ文書接受發送簿ニ記入ヲ了シタル上會長ノ檢閲ヲ經テ各係ニ配布スベシ親展文書ハ封緘ノ儘庶務係ニ於テ親展文書配布簿ニ記載シ其名宛ニ配布スヘシ

第七條 接受文書中現金券又ハ郵便切手ヲ添付セルモノハ文書ノ欄外ニ其種類金額數量ヲ記シ現金ハ直ニ會計係ニ交付シ會計係ノ受領證印ヲ得テ第六條ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條 發送文書ハ主務係ニ於テ淨書シ庶務係ニ回付シ庶務係ニ於テハ文書接受發送簿ニ記入ヲ了シタル後發送スヘシ

第九條 完結文書ハ各係ニ於テ書類毎ニ之ヲ取纏メ順序ヲ正シ索引ヲ附シ表紙ニ書類ヲ明記シ置クベシ

第十條 他係ニ關聯スル事項ハ凡テ合議スヘシ

第十一條 物品ノ購入入夫ノ雇備費用ヲ要スヘキモノハ物品購入簿及入夫雇備簿ニ依リ經伺ノ上施行スヘシ

第十二條 會場取締及宿直ニ關スル事項ハ別ニ之ヲ定ム

其四 職員及事務所

本會職員の内會長は上川支廳長を副會長には旭川區長、北海道農事試驗場上川支場長を推戴し事務委員長以下の職員は會長より之を囑託し有給事務員(專任三人)は會長之を任免せり左に其職員の氏名を録す

會長	東郷重清	同	關坂半治
副會長	市來源一郎	同	柴田勝治
庶務係長	綿引清三	同	長谷川長作
事務委員長	津田美之助	同	對馬雄一
副事務委員長	谷藤正太郎	同	綿引清三
係上川支廳員	中島保	同	西原寅吉
同	根本藤重	同	谷藤正太郎
同	犬島榮太郎	同	山根虎之助
同	吉田友丸	同	松尾豐治
同	對馬雄一	同	進藤彥之助
同	柴田義唯	同	松谷梅太郎
同	寺師治吉	同	渡邊小平
同	木村千春	同	會田三和
同	赤石忠助	同	犬島榮太郎
同	岡崎庄太郎	同	高橋由太郎
同	紫波與一	同	鹽越忠吉
同		同	金子卯吉
同		同	中島久吉

上川外四郡農會員
旭川區役所員

同 佐藤清吉
 同 柴田義唯
 同 寺師治吉
 同 紫波與一
 同 角野敬太郎
 同 大村丈甫
 同 細川忠平
 同 小笠原喜太郎
 同 波多野與會次郎
 同 岡田三治
 同 藤井 熟
 同 小畑金作
 同 榎山久輔
 同 水野良一
 同 長谷川長作
 同 中田勇三
 同 谷川庄之助
 同 寺師治吉
 同 綿引清三
 同 櫻井定市

同 谷藤正太郎
 同 小山健之助
 同 松谷梅太郎
 同 島崎元治
 同 水野忠恭
 同 岡本三郎
 同 河瀬元七
 同 西尾良吉
 同 小松憲高
 同 酒井年政
 同 馬淵信次郎
 同 吉田良助
 同 佐藤啓吉
 同 對馬雄一
 同 佐藤德太郎
 同 古崎通真
 同 赤石忠助
 同 田部知秀
 同 佐々木心之助
 同 角野啓太郎

接待係長
係上川支廳員

同 澤田秀造
 同 奥村良次
 同 山田敬助
 同 鹿倉以正
 同 岡田三治
 同 坂東増次郎
 同 菅原由兵衛
 同 紫波與一
 同 田中正一
 同 御手洗正人
 同 綿引清三
 同 上戸佐吉
 同 山内英尙
 同 木原百太郎
 同 鈴木虎次郎
 同 菊地 晃
 同 本間作五郎
 同 谷藤正太郎
 同 岩淵 強
 同 山本 輔
 同 山本 真

同 森谷新作
 同 高尾善次
 同 對馬雄一
 同 寺師治吉
 同 内田福藏
 同 吉本孝徳
 同 坪川竹三
 同 佐々木心之助
 同 紫波與一
 同 秋保ちよの
 同 鎌田千代松
 同 小山留五郎
 同 白土キク
 同 岸山重俊
 同 田代喜太郎
 同 増森ミサオ
 同 山本ヨシ
 同 日下部キタ
 同 圓子トク
 同 杉本二男

同 上川支應員

會計係長

係上川支應員

同 旭川區役所員

衛生係長

係上川支應員

旭川區役所員

同 同 同 同 同 同

事務員

(兼)

安西太郎

鹽越忠吉

笹谷翠隆

廣瀨哲一

千葉喜惣治

中田宗助

田中長

内山三矢

布施政喜

綿引清三

紫波與一

熊倉廉三郎

佐藤信治

木立相十郎

小田島末吉

田中正一

安西太郎

芦野吉太郎

加藤清助

小林傳造

地方委員

旭川區

地方委員長

地方副委員長

地方委員

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

區

入山知一

石神庄之助

橋本信吉

上村治作

田中敬造

中島民二郎

矢島宇八

山内成太郎

藤本浩

淺川浩

齋藤仙次

本山又彌

市村龜松

下村長藏

澤口善助

秋本一也

花輪富太郎

井内歎二

池内柳吉

石崎鶴吉

友田文次郎

米倉源吾

坪沼吉太郎

中谷國太郎

榎莊次郎

福居清兵衛

越川百一郎

酒井治三郎

齋藤彌三郎

杉本勇治

野崎小三郎

西倉重二郎

井内豐次

背戸庄平

財政委員

財政委員

財政委員

財政委員

財政委員

財政委員

財政委員

財政委員

大阪芳太郎

神崎四郎

上木彌一郎

松家圓次郎

原田助次郎

笠原定藏

岡田重次郎

下村正之助

淺岡庄次郎

藤井正之助

近藤義勝

阿部武助

盛生佐一

西田梅藏

吉田友三郎

青山與惣吉

石田万作二

山寺捨造

伊藤春吉

石崎松次

城政吉

瀧波勘四郎

岩本美雄

坂東幸太郎

木村友之助

大谷岩太郎

佐野幸太郎

福田秀吉

品川謙作

金山秀太郎

安藤辰次郎

中野末吉

世木澤藤三郎

小松源吾

竹山文吉

花輪庄治郎

川合嘉十

吉田八郎

吉村多門

本城小與門

財政委員

財政委員

財政委員

財政委員

財政委員

財政委員

財政委員

財政委員

齋藤新吾

小林助太郎

藤田寅夫

西村勇治

谷内寛一

鈴木平太郎

越田政治

小幡惣太郎

曉谷政吉

直江安太郎

大澤藏吉

東海林吉四郎

伊藤茂右工門

久保誠之

池田彌吉

河村桑次郎

篠原啓二

増谷長雄

後藤善八

布目喜藏

丸山巖

松井延太郎

坂本長教

神谷健一郎

福井正造

高木兵太郎

佐野啓次郎

伊藤和三郎

雲井喜太郎

小林直三郎

鹽野谷辰造

川口保樹

小田利三郎

荒井初一

松崎半五郎

山本菊藏

阿部逸郎

山崎政五郎

笹岡幸藏

立野庄吉

桑瀬伊右衛門 辻廣 駒吉
 三箇元次郎 伏見新太郎
 吉竹鶴吉 武藤多助
 松浦長藏 近藤瀧藏
 田中西三 清水庄七
 佐藤初太郎 高田峰吉
 奥田千春 小山只四郎
 鷹栖村

地方委員長 中山照重
 地方副委員長 田中茂昭
 地方委員 清水重作 山谷作兵衛
 片山右三郎 松倉與次郎
 長谷二三郎 古川忠太
 田中源次郎 古川正藏
 谷與八 森田己三太
 遠藤常吉 山田一清
 五十嵐善四郎 保坂徳市
 眞對富三郎 中山雅雄
 齋藤慶之助 佐野實
 阿部勝三郎 山城幸次郎

岐土助右衛門 窪田市松
 本谷喜太郎 澤田藤三郎
 田中門太郎 長谷孫左衛門
 神部忠治 太田十太郎
 稻垣駒次郎 石九義一
 千葉彌六 酒井茂作
 米田久次郎 瀧見彌次吉
 赤松惠聞 佐々木瑞政

東旭川村

地方委員長 菊田熊之助
 地方副委員長 玉井揆一
 地方委員 植松吉藏 遠山直晴
 董津琴二 井原凌太郎
 東晋吾 齋藤龜三郎
 河部忠直 井沼孫三郎
 山根正幸 南三太郎
 濱本芳平 野原文治
 宮武伊右衛門 村上勇
 谷口忠作 水無瀬英藏
 倉本元治 大西惣吉

神居神樂村

檜野幸吉 片山利平
 林嘉市 長野半之助
 石崎源作 青木喜作
 山上瀬作 中野歳治
 二階堂久吉 中野銀次郎
 菅野駒藏 津田徳助
 杉浦三津太郎 加藤竹松
 宮島文藏 水野與次郎
 好井寅吉 蟹谷次郎右衛門
 高田茂一郎 出野周治
 金谷由次郎 蔭山爲平
 河南普巖 阿部貞吉
 吉峰丈助 飛彈野佐助
 樋口作治 馬場藤次郎

地方委員長 安達利三郎
 地方副委員長 清水駒次郎
 同 水野喜代治
 神樂村地方委員 赤松定五郎 熊谷重平
 細川茂一 西村九十郎

永山

松浦宇吉 越智民助
 竹原峰繁 野村嘉藤松
 三宅宗吉 中田巳作
 武田四方次 清水助次郎
 山下秀吉 山賀岩太郎
 稻葉平右衛門 藤岡清吉
 宮崎由次郎 宇山宇三郎
 高橋源治 熊谷三喜藏
 澁谷守夫 澁谷富三郎

地方委員長 清水大次郎
 地方副委員長 森谷嘉七

地方委員

木村友三郎 高野清右衛門
 宇山利太郎 下崎 貞藏
 橋 文太郎 鎌田 貞長
 伊藤 眞平 村上 元次
 荒井代次郎 楠目 熊吉
 田中 春治 松永宇之助
 山本儀十郎 奥野次郎右衛門
 島村茂太郎 古川 安次郎
 中島安太郎 藥丸 七郎
 稻垣 絹次 中橋 勇市
 松野 慶範 永江 天亮
 橋本 大鵬 小山 教順
 塚田 智壽 伊藤 宜靜
 松村榮次郎 山川 榮四郎
 三露 藤助 後藤 武市
 草地 重次 林 德太郎
 齋藤 亨 中田 顯太郎

比布 地方委員長 地方副委員長

村上 元吉
 鈴木 北治

地方委員

篠原 長吉 小北 庄治
 東城 久吾 大谷 留藏
 高橋 常吉 早川 八十吉
 横山 權次郎 宮崎 多次郎
 大出 金三郎 戸野塚 辰藏
 長谷川 藤作 黒田 與三松
 阿部 利雄

當麻 地方委員長 地方副委員長

渡邊 喜惣治
 片山 善三郎
 喜多 留吉 林 路一
 楠本 香孝 兼子 豊藏
 猪口 虎彦 岸山 角太郎
 南波 藤三郎 佐々木 友太郎
 廣田 鐵之助 松尾 善吉
 小川 銀治郎 森 象治郎
 芦田 寅平 土橋 吉郎
 弘中 佐太郎 小口 甲一郎
 古崎 源次 深谷 角左工門
 嵐 八百吉 天野 金太郎

東川 地方委員長 地方副委員長

吉川 善篤
 三木 定次郎
 高橋 伊勢吉 吉岡 幾太郎
 日比野 堅次郎 久保 兼七
 好井 萬二郎 田中 喜八
 園田 仁右工門 馬場 彌次郎
 佐々木 成秀 山下 權太郎
 松浦 伊吉 坂田 友七
 下田 常藏 栗原 佐吉
 西原 安太郎 永田 政一郎
 松浦 義通 八木 沼清

美 地方委員長 地方副委員長

菊地 快夫
 安藤 市兵衛
 高橋 金作 園田 千一郎
 新徳 廣 佐藤 壽右工門

受別 地方委員長 地方副委員長 地方委員

森八谷 千代吉
 田中 京七
 中野 辨次
 野口 國三郎
 早坂 運吉
 門脇 喜太郎
 清水 吉助
 中條 忠作
 舟橋 兼治
 久米 伊勢太
 岡田 庄次郎
 長谷川 兼松
 橋田 藤之助
 植村 龍三郎
 五十嵐 助藏

地方委員長 三上常和
 地方副委員長 瀧田徳次郎
 地方委員 兜谷徳平 太田仙間
 横山春三郎 小島利右門
 岩間恵三郎 瀧田徳次郎
 山下初藏 岡田惣五郎
 山田直次郎 吉本平一郎
 植崎昇二郎 本野與三松
 前田信藏 山崎善作
 高見仙助 山田猪三郎
 原口喜平 五十嵐長藏
 上野三太郎 松崎只次郎
 本所喜藏 岡田辰次郎

地方委員長 松塚宗央
 地方副委員長 平瀬謹治
 地方委員 大場万太郎 佐々木彌太郎
 作田時治 小島理三郎
 大關庄太郎 橋本五兵衛
 佐々木清左門 座間勝之助
 星越金藏 大林熊平
 丸山泰藏 杉山吉美
 蜂谷六之助 宮武新太郎
 大野鐵神 宮田俊人
 明野獅含 池田慧仙

地方委員長 三上常和
 地方副委員長 瀧田徳次郎
 地方委員 兜谷徳平 太田仙間
 横山春三郎 小島利右門
 岩間恵三郎 瀧田徳次郎
 山下初藏 岡田惣五郎
 山田直次郎 吉本平一郎
 植崎昇二郎 本野與三松
 前田信藏 山崎善作
 高見仙助 山田猪三郎
 原口喜平 五十嵐長藏
 上野三太郎 松崎只次郎
 本所喜藏 岡田辰次郎

地方委員長 松塚宗央
 地方副委員長 平瀬謹治
 地方委員 大場万太郎 佐々木彌太郎
 作田時治 小島理三郎
 大關庄太郎 橋本五兵衛
 佐々木清左門 座間勝之助
 星越金藏 大林熊平
 丸山泰藏 杉山吉美
 蜂谷六之助 宮武新太郎
 大野鐵神 宮田俊人
 明野獅含 池田慧仙

地方委員長 三浦直吉
地方副委員長 定塚孫右門
地方委員 鋤柄初藏 橋本小七
菅原庄三郎 藤森文治郎
小倉幸太郎 福田藤一郎
塚田兵助 工藤順吉
岩部元次郎 清水權兵衛
加藤和三郎

占冠

大木丑太郎 木田峰三
齋藤龍海 笹島敬助
田中文吉 森精一
西浦友次郎 佐伯辰次郎

和寒

地方委員長 石崎喜代松
地方副委員長 中田友次郎
地方委員 三宮基彦 近藤昱助
岡傳四郎 二口清五郎
鈴木巳之吉 高木安太郎
美口理平 伊藤直四郎

劍淵

今村庄三郎 羽下其之次
架田七太郎 吉本新太郎
小田此面 森品八
河野雄吉 西口榮助
牧千代松 山本用藏
葉位利松 門脇吉太
奥山喜平治

地方委員長

地方副委員長

地方委員

新納晴秋
小沼柔次郎
菅井彌一郎 高橋勇八
大熊信盛 北澤金次郎
長尾林彌 尾形久五郎
小口初太郎 根本萬次
細川松次郎 多田與四郎
野村織助 齋藤清太
吉田武吉 大原豐助
佐々木淺吉 中村淺吉
海上良之助 白井宮藏
磯村平八 小沼喜善

地方委員長 遠藤康之
地方副委員長 菅原太吉
地方委員 兼子芳藏 西條政吉
渡邊喜市 谷口幾藏
松浦又市 井手喜一郎
永峰政次郎 喜多熊吉
花井慶次郎 廣瀬太藏
松井吉五郎 川森彌藏
竹中龜藏 北村勇作
田淵五與門 大西常治
道順吉藏 堀田松五郎
西條貞吉 原忠吉
吉田伊太郎 佐藤兵藏
武藤齋吉 高橋胤治
小原彌惣治 瀝美喜三郎
鹿討信藏 小林重太郎

主別町

地方委員長 遠藤康之
地方副委員長 菅原太吉
地方委員 兼子芳藏 西條政吉
渡邊喜市 谷口幾藏
松浦又市 井手喜一郎
永峰政次郎 喜多熊吉
花井慶次郎 廣瀬太藏
松井吉五郎 川森彌藏
竹中龜藏 北村勇作
田淵五與門 大西常治
道順吉藏 堀田松五郎
西條貞吉 原忠吉
吉田伊太郎 佐藤兵藏
武藤齋吉 高橋胤治
小原彌惣治 瀝美喜三郎
鹿討信藏 小林重太郎

上士別

地方委員長 櫻庭悅郎
地方副委員長 庄司久助
地方委員 荒井德太郎 延青清太郎
多田要助 吉野恒三郎
戸村兵作 荒見權太郎
二丹圓藏 上北與吉
吉本磯右衛門 森儀一
北村德太郎 辰巳菊松
中垣佐吉 高橋榮吉
萩生田茂七 川口卯太郎
松井吉五郎

多寄

地方委員長 吉島又次郎
地方副委員長 山本健
地方委員 後藤良作 中瀬茂助
北野作松 大平外吉

日根野熊藏 藤居元彌
 澁谷圓治 齋田與四郎
 山田石太郎 新里庄十郎
 大沼伍八 岩崎庄右衛門
 北村淺吉 島田源治郎
 近藤豐吉 大久保助次郎
 菅原善右衛門 大平平松
 林喜太郎 篠木太治
 平田三太郎 國本龜三郎
 西尾逸兒 竹澤清一郎
 植本千太郎 松井越次
 桶谷彌平 土橋信江
 林喜三郎 長嶺昇
 松本米吉 淺野常吉
 鈴木健次郎 西村八十吉
 高瀬龍藏 谷口庄藏
 名寄町 奥井直吉
 地方委員長 石丸瀧藏
 地方副委員長 古川忠平
 地方委員 島山衛

東端 林吉 西田新藏
 小里紋太郎 喜多伊之助
 菅原喜惣太 浦谷宇太郎
 林鐵治郎 佐藤八太郎
 森定治郎 德田宇太郎
 勝海兵治 村田建治
 田尾安太郎 村上要藏
 上原德三郎 松浦伊七
 谷新治 村上常次郎
 山本米藏 三木精一
 菅原友之丞 市橋佐藤次
 朝倉惠見 白井豐伍
 小北寅之助

下名寄村
 地方委員長 金田虎吉
 地方副委員長 齋藤為熊
 地方委員 木内五右衛門 谷口三藏
 杉本善藏 谷口菊藏
 玉井捨三郎 岡林幾喜
 伊藤一松 橋爪太四郎

淡中種治 沼宮内秀成
 木村久吉 柴田太重郎
 佐藤清次郎 佐土原永太郎
 森川善兵衛 椿岩太郎
 加川角一郎 野荒長松
 秋川政太郎 今本茂左衛門
 原田定一 中村幸七
 山川芳太郎 山下富藏
 三條吉五郎 佐久間喜助
 山北清太郎 村上丑藏
 青木政吉

中川村
 地方委員長 諏訪和一郎
 地方副委員長 和田秀一
 地方委員 丹羽作次郎 三好清一
 瀧本信一 鈴木兵吉
 田中和平 水谷清司
 淺野寅吉 守田與次郎
 白川利助 干場仁十郎
 河合和五郎 榊井五平

常盤村
 地方委員長 武智宗雄
 地方副委員長 早川佐市
 地方委員 山口長八 江添和三松
 中谷半次郎 中原庄平
 布施三郎 高木愛次
 植野和作 清彦三本
 矢野英彦 長尾松根
 長田豐太郎 伊藤石太郎
 平田吉太郎 山崎榮藏
 大森演照 佐藤玉仙
 石井鐵之助

○ 參考
 會長 長
 副會長 長
 事務委員長 長
 副事務委員長 長
 係長 (庶務出品會場係各一人)
 庶務係

出品	係阿合味五郎	二五五	地方委員長	二二
會場	係山田 誠	二三四	副地方委員長	二四
接待	係山田 誠	二六六	地方委員	七五〇
會計	係山田 誠	二五五	幹事委員	三
衛生	係山田 誠	二六六	女事務員	三五
庶務	係山田 誠	二五五	會計	九四五

本會の事務には當初上川支應内に之を置き大正五年九月二十日より本會々場内に移し十一月二十五日再以上川支應内に移し残務を整理したり。

第三章 會場

其一 會場土地

本會開催地は支應及區役所所在地たる旭川區を擇定したり。旭川は本道の中樞に位し且つ第七師團所在地たるを以て夙に世に知られ鐵道に陸路に交通の中心たり、近附近の農村の發達と相俟て市況頓に段賑を極め活氣内外に横溢し將來本道繁華の中心として自せらるゝ新進の地たり此の地を卜し之か開設を見たるは更に一段の効果を收めぬもの入如し請ふ以下述ぶる所の成績に就て之を徴せん。

其二 會場建築

本會々場は旭川區に於て御大典記念事業として工費豫算三万七千圓を以て起工したる旭川區立女子職業學校にして之か總建坪數九百八十三坪内階上三百三十四坪階下六百四十九坪敷地面積三千六百坪を有する旭川區に於ける代表的建築物を充用するを得たるは本會の爲最も幸榮とする所にして恐らく本道に於ける地方的共進會々場として自眉たりと云ふも過言にあらざるべきを信す然して之か配置に付ては此種の施設に付多くの經驗を有する北海道廳に委嘱して調査を乞ひ關係係員協議の上前掲會場平面圖の如く決定せり就中審査室の選定に就ては騷擾を避くる光線の透明の全からんことを期し特に意を致せり裝飾は經木モール及飾りポンを以て經とし萬國旗を緯とし上下縱横に綾取り陳列品と相俟て觀覽者に美感を與へんことを期し尙廊下壁面の裝飾に關しては上川支應産業方針を繪説したる壁圖及上川支應管内旭川區に於ける産業統計並産業組合狀況に關する統計等を以てし階上階下廊下の四隅曲折壁面に對しては北海道雜穀同業組合より参考品として出品せられたる検査標準品標本旭川 吳服店より出品の美人飾人形旭川有志より本會の爲め寄せられたる花卉盆栽等の陳列並に地方の名産品繪葉書等の販賣をなさしめ入場者の疲勞を慰すると共に便益に供し且つ階上階下に記念スタンプ捺捺所各一ヶ所を設け趣味を多からしめたり會場の新なる光線の透明自由自在なりしとは本會場に一段の光彩を添たり。

式場は騷擾を避け靜肅を保つ上に於て會場を距る約一町の上川第二尋常小學校屋內運動場を以て之に充てたり。

其三 庭園其他ノ施設

入場券發賣所パノラマ式に一棟を建築し四人の事務員をして發賣の事に當らしめ下足受渡に付ては出口より入口の側面迄渡廊下を設け下足の運搬を省くと共に混雜を防ぎ設備上遺憾なきを期したり。觀覽者に趣味を多からしめん爲會場入口の空地壹百坪を利用し高さ六尺長さ六十尺の郊外風景の大油繪を背景としたる三間に十五間の一區に精緻なる人畜家屋等の模型を配置せる本道農業の現在に於ける五町歩經營方法を實際的に縮尺立案設計し秋の田園の豐穰なる様を現して實物指導に努めたり又中庭三百坪に對しては大日本麥酒株式會社に於て利益を度外視し本會に協賛を表する趣旨を以て公園式造庭をなし樹木數十本を移植して樹間各所にペンキを配備し一面麥酒西洋料理支那料理壽司蕎麥饅飽團子等簡易

なる食料品を販賣し一般觀覽者の逍遙休憩の便に供せしむ。

尙本園一隅には絶えず嘵々たる音楽を奏し一面土人熊祭人形の飾付をなし本道開拓時代を偲はしめ園内散歩に興を深からしむるに努めたり本會は之を後樂園と命名せり。

又本會開催の目的を遺憾なく達する爲め鐵道院と交渉し本會會期場所及汽車賃の割引等の要項を記入したる廣告板を札幌及旭川停車場前に掲げ一般の注意を喚起するの設備を爲し尙ほ協賛會は旭川停車場前に案内所を設置し觀覽者の應接に備へ旭川案内及共進會案内と題する印刷物を配付し一面會場に至る人力車馬車自動車賃金の統一を其筋と協定を遂げ以て觀覽者の便宜を計れり。

會館より約一町右端前方道路の中央には高さ五十尺巾十尺のローマネスク式の頗る雄麗なる大綠門あり右折して進めは即ち賣店及餘興場に至る賣店は櫛比し各自獨得の意匠を凝し以て客引に努む。

協賛會の餘興は藝妓手踊茶番手品劍舞浪花節素人相撲福引及役員並藝妓の變裝人探し等にして變裝人探しは特に觀々者に興味を以て迎えられ非常の人氣を博したり。

其他各商店は景品付聯合大賣出を爲し開會當日には區民の提灯行列等あり旭川區有史以來の盛況を極めたり。

第四章 出 品

其一 出品點數ノ豫定

出品物の多寡は各地方の生産力を具体的に表示するものなるを以て可成各町村の産業を代表するに足るの種類を選択し併せて其出品點數の豫定を爲すに際し各地方の産額に適應する點數を出さしめ相互に過不足なからしむるの要あり即ち本會は豫め此點に注意し各品類の出品點數を案し各區町村に配當して出品せしめたり其總點數壹万一千百十一點とす。

其二 出品の勸誘

前項出品豫定點數に對し豫め出品目錄解説出及書物品袋を各區町村に配付して直接出品の勸誘を依頼し一面郡農會職員を各方面に累次派遣し區役所町村役場町村農會其他に付勸誘せしめ同時に受持區域内の地方委員に活動を促し出來る限り區役所町村役場吏員町農會役員は出品人を招集して出品目錄解説書の記載方を指示し且つ其勞を採らしむる所ありたり就中出物の栽培乾燥調製等は常に出品物としてのみならず賣品として最も注意すべき事項なると出品點數の不足は本會開催に大なる影響を與ふるにより特に郡農會職員を派し此等の點に就き一段の注意を與へたり。

其三 出品目錄及解説書

共進會に於ける出品目錄は部類を定め面積を豫定し陳列の考案をなし或は審査の順序を定むる等百般設備の根本にして最も重大なる要素なりとす然るに出品點數豫想外に増加せる爲め出品目錄の如きは開會前日に及ぶも尙ほ受理するの有機にて少なからず混雜を來せり殊に解説書の記載充分ならざるものあり審査上多大の不便を感じたるは甚だ遺憾なりと然れども其出品一万三千點を數へ豫定點數に對し二千點の増加を見たるは大に快とする所なり。

其四 出品物の受領及會場の整理

出品物の搬入は規則第十條に記するが如く九月三十日限りなるも其期限内に到達したるものは尠なく會期切迫して其大部分を受領したるを以て當局の委員は連日徹宵して其整理に従事し辛ふして全部の陳列を了したるの勞は深く之を念はざるへからず而も最も其苦痛を感じたるは豫め出品目錄を提出せず突然現品を送付し來りたるものなりとす之か爲延て陳列に變更を來し事務の繁忙と整理の困難とは名狀すべからざるものあり茲に特記すべきは會場に充當せる校舎の工事進捗に關し區理事者は晝夜兼行以て其局に當り更に落成前より事務の開始を認容し會務進行上多大の便宜を與へられたると又陳列臺の請負を

なしたる旭川木工品購買販賣組合は誠意を以て之を迎へ其製作上の参考資料を得ん爲當時開催中の網走共進會に組合理事を派遣し實地を調査せしめて陳列臺の作成を爲し之か取付に關しても諸種の不便と困難を排し短日時に能く理想に近き取付を了せられたることは是なり。

其他陳列箱に於ける旭川檜商店陳列瓶に於ける旭川鈴木商店等は能く本會の趣旨を諒せられ或程度迄利益を度外視し誠意を以て事に従はれたり。

叙上は會務進行上最も肝要なる事項にして區理事者並に各位の厚意に對し深く感謝の意を表するものなり。

陳列出品物區町村別一覽表

町 村	農 業	工 業	林 業	礦 業	計	受賞總數	町 村	農 業	工 業	林 業	礦 業	計	受賞總數
旭川區	二五二	一四五	四〇	一	一七〇	二〇〇	下富良野村	三六二	二二八	三	一	三九二	四
鷹栖村	六〇八	四三	一	一	六五二	三三	南富良野村	二二八	七九	一	一	二二三	三
神居村	三〇〇	二八	一	一	三三八	三〇	占冠村	七九	一	一	一	二二	一
神樂村	三九三	二七	一	一	四二二	七〇	山部村	二八九	一	一	一	二九四	二
東旭川村	五五八	三八	一	一	六〇二	八一	和寒村	三三七	二五	一	一	三九三	四〇
永山村	四三〇	八	一	一	四三九	一〇二	劍淵村	四九二	五三	一	一	五〇八	五
東川村	四九九	五	一	一	五〇五	四〇	上士別村	三九二	一七	一	一	四一〇	五
當麻村	四六	五九	一	一	四八五	三五	多寄村	四三六	七四	一	一	五一〇	四〇
比布村	九六	三	一	一	一〇〇	三五	名寄村	五二七	四七	一	一	五七五	五
愛別村	二〇〇	八	一	一	二〇九	五	下名寄村	五五九	三	一	一	五六二	六
東川村	二〇	一	一	一	二二	一	中川村	二二六	三	一	一	二三〇	二
美瑛村	四一〇	一	一	一	四一一	一	計	二〇七八	二〇六三	五四	一	二六三三	一四七五
上富良野村	一八二	一	一	一	一八三	一	計	二〇七八	二〇六三	五四	一	二六三三	一四七五

常盤村 二二三
六
一
一
二二九
一九
計 二〇七八 二〇六三 五四 二六三三 一四七五

出品の種類内訳は別表の通り

第一部 農 業 第一類

町 村	玄米	菜豆	大豆	小豆	碗豆	裸麥	黍	燕麥	黍玉蜀黍	小麥	蕎麥	稗	大麥	蠶豆	高粱黍	麥ライ	粟	計
旭川區	二二	三六	九	四五	五	二四	一	一	四	二	一	一	一	一	一	一	一	二九
鷹栖村	三五九	三三	四三	四二	二七	二二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	五七
神樂村	二五七	四八	九八	三〇	二二	一五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	五〇〇
東旭川村	二五八	六二	一九	三〇	二二	一五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三八二
神居村	一九〇	三九	一六	一六	一四	一三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二六六
永山村	一九八	三三	一九	一七	一七	一三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三四五
當麻村	一九四	五三	一九	三三	一五	一三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	四〇六
比布村	九六	五三	二二	四二	一九	一三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三七〇
愛別村	二〇	九三	四二	四八	七〇	六二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	四八五
東川村	二〇	二七	四〇	三七	一九	三三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	四八五
美瑛村	二〇	九三	四二	四八	七〇	六二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	四八五
上富良野村	五	九三	四二	三七	一九	三三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三九七
下富良野村	七	五〇	四〇	三三	一九	三三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二四〇
山部村	一〇	二七	四〇	三七	一九	三三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二八三
南富良野村	一	一八	二七	二四	一七	二六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一九九
占冠村	一	一八	二七	二四	一七	二六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一九九
和寒村	七	二八	三二	二五	一七	二六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二七六

町 村	第一類										計								
	旭川區	鷹栖村	東旭川村	神樂村	神居村	上富良野村	下富良野村	南富良野村	占冠村	和寒村		劍淵村	士別町	上士別町	多寄町	名寄町	下名寄町	常盤村	中川村
大根	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
甘藷	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
燕青	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
葱頭	3	1	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
牛蒡	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
胡蘿蔔	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
茄子	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
葱	6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
芋類	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
西瓜	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
南瓜	5	5	1	5	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
瓜類	4	4	4	4	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
梨	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
苹果	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
葡萄	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
其他	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	22	9	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2

町 村	第一類										計	
	旭川區	鷹栖村	東旭川村	神樂村	神居村	上士別町	下士別町	多寄町	名寄町	下名寄町		常盤村
馬鈴薯	27	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
菜種	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
花	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
亞麻莖	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
亞麻種子	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
麻	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
藍	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
川芎	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
藥用人參	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
(除虫菊)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
牧草	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
草茶	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	28	20	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

町 村	旭川區	東旭川村	神樂村	神居村	永山村	上富野村	下富野村	山部村	士別町	名寄町	計
清酒	三四										三八
醬油	三四										三九
味噌	八										八
其 他 醸造品	六										六
菓子類	一六二					四	四				一七一
麵類	一三										四
牛 酪	一										三
蜜 蜂	五					三					八
腐 皮	八										八
食 雜 品 飲	二九										一五
寫 眞	五七										五七
印 刷 物	三										三
計	三四八										三八〇

第二部 工

第五類

町 村	旭川區	東旭川村	神樂村	神居村	永山村	上富野村	下富野村	山部村	南富野村	和寒村	士別町	計
澱粉類	二六											二〇九
薄取卸	二											四
工 木 品 竹	四三											四五五
工 業 品 細	二四											二八三
馬 具 及 鐵 工 品 自 轉 車	四七											五七
皮 靴 及 測 量 器 陶 土 器 手 藝 品 染 織 物 製 硝 子 細 金 工 銀 墨 類 其 他 類	四											四
計	一〇五											一〇四

町 村	旭川區	東旭川村	神樂村	神居村	永山村	上富野村	下富野村	山部村	南富野村	和寒村	士別町	計
澱粉類	二六											二〇九
薄取卸	二											四
工 木 品 竹	四三											四五五
工 業 品 細	二四											二八三
馬 具 及 鐵 工 品 自 轉 車	四七											五七
皮 靴 及 測 量 器 陶 土 器 手 藝 品 染 織 物 製 硝 子 細 金 工 銀 墨 類 其 他 類	四											四
計	一〇五											一〇四

第二部 工

第五類

室蔬菜果實第十一號室參考品(官公署公共團體及公益團體出品)(以上階上)第十二號室美術第十三號第十四號室參考品第十五號室第十六號室林業第十七號室工藝品(以上階下)の順序にして其他審査室一、審査員専用應接室一、審査事務室一、宿直室一、小使室一、湯沸所一等の各室を設け屋外に入場券發賣所警官休憩所救護員詰所福引所音樂堂苗木床及屋外陳列所等を設備し出品觀覽に萬一の遺憾なきを期したり陳列室は何れも極緻精巧完美を盡したりと雖も就中第一號室の玄米室に於て約千九百點の出品を整然として陳列したるは一の偉觀なりし又第十七號室の出品物中酒類木工品大農具類澱粉等一糸亂れず整頓能く陳列せられたるは本道共進會中稀に見る大規模のものにして然かも之れに充てられたる室は百二十坪を有する屋内運動場たりしを以て内部には一の障害物なく裝飾の點も亦此の室には特に意匠を凝したるを以て一段の光彩を添へたり

其七 出品の附札

出品物並に參考品の附札は豫め左記様式の紙札を作製し品種に應じ各其品名出品人產地代價を記入し之を添付したり尤も風雨に晒すへき館外出品にありては悉く木札を用ひたり

農具、工藝品、果樹、蔬菜類ニ添付ノモノ

類	第部	第
出品	名品	號番
		第
		號
價代	地產	
圓	二付	
錢		

分六寸一

三寸二分

穀類ニ添付ノモノ

類	第部	第
價代	地產	出品
圓	二付	名品
錢		號番
		第
		號

分三寸二

器具機械及工藝品ニシテ特ニ説明ヲ要スルモノニ附シタルモノ

明	說
會進共產物合聯 郡四外川上旭	

文字ハ赤色輪廓ハ青色トス

其八 出品の看守

出品の看守は女子事務員をして之に當らしめたり該事務員の多くは旭川區内に於ける良家の子女にして普通の教育ある女子三十五名を選抜採用したり蓋し女子は多數觀覽人に接するに溫和にして且つ女子の特徵は出品物を拂拭する等に綿密なればなり而して是等女子事務員には一定の服裝を爲さしむるの要を認め本會より相當の被服代を給與せり

開館中の出品物看守は前記女子事務員の外各室に出品係員を配置し更に守衛四人を置きて絶えず館内を

監視せしめたり

看守心得

- 一、看守ハ本會規則ヲ遵守シ所屬係員ノ指揮ヲ受ケ受持區内陳列品ノ看守並ニ保護ニ従事スルモノトス
- 一、看守ハ本會ノ命スル衣服袴ヲ着用シ徽章ヲ佩用スヘシ若シ開會中辭職又ハ解雇ノ場合ハ被服料ノ全額若クハ幾部ヲ支給セサルコトアルヘシ
- 一、看守ハ毎日開場定刻一時間前ニ出勤シ出勤簿ニ捺印ノ上直ニ各受持區ニ着キ陳列品ノ整理ヲナスヘシ
- 一、看守ハ勤務中靜肅ヲ旨トシ銀リニ受持區ヲ離レ或ハ雜談ヲ爲スヘカラス
- 一、出品人並ニ來觀人ニ對シテハ專ラ懇切ヲ旨トシ且ツ來觀人中出品物ノ説明ヲ請フモノアルトキハ最モ丁寧ニ應答シ説明シ難キモノハ所屬係員ニ申報シテ指示ヲ受クヘシ
- 一、毎日來觀人ノ退場後出品物ノ點檢ヲナシ若シ異狀アルトキハ之レヲ係員ニ申報スヘシ
- 一、來觀人中誤テ陳列品若シクハ器具ヲ損傷シタルモノアルトキハ本人ヲ同道シ係員ニ申告スヘシ
- 一、出品物ハ係員ノ指揮ヲ受クルニ非サレハ其位置ヲ變更スヘカラス且ツ左記ノ者ヲ除キ出品物ニ手ヲ觸レシムヘカラス
 - 一、本會職員
 - 一、購買ノ爲メ特ニ一覽ヲ請フモノ
 - 一、出品物ノ賣約ヲ爲サントスルモノアルトキハ所屬係員ノ指揮ヲ承ケ相當ノ手續ヲ爲スヘシ

其 九 出品の賣約

出品物は非賣品を除くの外普通出品たると参考品たるとを問はず購買希望者に對し賣約を行ひたり蓋し

出品物は單に一般に觀覽せしむるに止めず之を賣却して實質を試み其眞價を知得せしめ延て販路を擴張するの楷梯となすの有利なるを信すればなり而して賣却代金は出品物を本會に寄付せるものを除くの外は本人に交付し之が交付に當りては左の代金引換受領證を葉書に印刷して本人に發送し整理上遺憾なきを期せり

出品物の賣約取扱に關しては豫め別記雛形の賣約臺帳を各室看守に於て保管し希望者ありたるときは甲乙に相當記入をなし乙丙を買受人に交付し會場内の會計係に代金を納入せしめ會計係に於て代金を領收したるときは丙に相當記入の上金額の下に領收の認印を施し之を買受人に交付し現品の受渡の證となしたり

賣約品に貼付したる票箋左の如し

賣約濟

地色赤
文字白

No. 帳 臺 約 賣 甲	
品 名 [賣價金] 出品人 町 村 賣約人 町 村	第 類 第 號
會通共産物合聯 郡四外川 區 上 旭	
No. 票 知 通 約 賣 乙	
取 賣 月 金 出 品 第 扱 約 日 額 品 名 人 人 日 額 名 類 第 號	
No. 票 知 通 約 賣 丙	
取 賣 月 金 出 品 第 扱 約 日 額 品 名 人 人 日 額 名 類 第 號	
會通共産物合聯 郡四外川 區 上 旭	

備考

丙の裏面に左の注意を記入せり

- 一、本券引換ニ現品ヲ引渡スモノトス
- 一、引渡期間

自十月十六日二日間トス
至十月十七日

代金引換證

番 號

品 名

代 金

合計金

本證引換ニ右代金可相渡候也

大正 年 月 日

上川外四郡 旭川區 聯合物産共進會

右代金受取候也

大正 年 月 日

上川外四郡 旭川區 聯合物産共進會御中

第十 殘品の處分

出品物中非賣品にして返付を希望せるものは現場に於て出品人に交付し若は町村吏員に交付方を依頼し或は出品人に送付して交付を了せり其出品を本會に寄附せられたるものにして賣約の成立せざりしものは閉會後本會に於て之を競賣に附し其代金は本會經費中に收入し以て全部の處分を結了せり

第五章 審 査

多數出品の優劣を比較判定し擬賞其當を得るは産業獎勵上最も緊要の事たるを以て審査は共進會の事務中極めて重大なるものに屬せり是を以て本會は之を會則に規定し審査委員の派遣を北海道廳長官に申請して褒賞の授與と共に其認可を受け審査の嚴密公正を期したり審査委員長以下審査委員の官職氏名左の如し

上川外四郡 旭川區 聯合物産共進會

農 業	審査委員長	北海道廳技師	山田 勝伴	農 業	審査委員 技 手	安 齊 克治
同	審査委員 同	同	加藤 木保次	同	同	永 野 良一
畜 産	同	同	安孫子 孝次	同	同	進 藤 彖之助
同	同	同	石澤 達夫	同	同	幸 野 慶吉
林 業	同	同	大島 鶴太郎	同	同	三 谷 民 郎
同	同	同	内田 重義	同	同	山 本 純
同	同	同	小澤 藤三郎	同	同	三 宅 吉 次
同	同	同	吉川 有一	同	同	

審査は十月七日を以て着手し十月十一日を以て全部を結了せり而して審査の結果擬賞せられたるもの千四百七十六點にして内

- 名譽賞 五點
- 一等賞 三十五點
- 二等賞 百五十六點
- 三等賞 三百四十六點
- 四等賞 九百三十三點

にして審査結了と同時に豫て準備し置きたる左記の褒賞札を貼付し以て觀覽人の注意を喚起せり

二寸六分



輪廓銀色
中白文字黒



一面金色
文字黒



一面銀色
文字黒



一面黃色
文字黒



一面赤色
文字黒

左に名譽賞に擬したるもの、薦告文を掲ぐ

名譽賞

とき登

旭川區一條通一丁目
笠原合名會社

明治二十四年酒造業ヲ開始シ爾來品質ノ改良販路ノ擴張ニ努メ産額多量製品亦優良ニシテ上川酒ノ名聲ヲ發揚スルニ至ル其功績偉大ナリトス

名譽賞

龜甲丸井

旭川區四條通二丁目
今井合名會社

明治三十二年以來醬油醸造業ニ従事シ産額多量品質亦優良其設備完全寔ニ模範トスルニ足ルノミナラス卒先醸造ノ改良販路ノ擴張ニ努ム其功績偉大ナリトス

名譽賞

立 米

上川郡神居村
雨紛信用販賣購買組合

名譽賞

澱粉

上川郡上士別村

庄 司 久 助

雨紛ハ上川米作地ノ開祖ニシテ其米質ノ優良ナル蓋シ本道ニ冠タリ組合設置以來協力一致耕作ノ改良ニ力ヲ盡スノミナラス組合事業ノ活動見ルヘキモノ多ク其功績偉大ナリトス

名譽賞

木工品角火鉢

旭川 區

旭川木工品購買販賣組合

一致團結木工品ノ製作ニ力ヲ致シ之カ改善ト技術ノ研磨ニ盡瘁シ施設計畫宜シキヲ得優良ナル製品ヲ産出スルニ至ル蓋シ地方産業ノ發達ニ致セル功績偉大ナリトス

第六章 褒 賞

其一 褒賞及副賞

賞状は北海道廳長官親しく臨場して之を授與せられ賞品は本會長より之を授與せり賞品は名譽賞には金牌一等賞には絹織反物二等賞には瓦斯織反物三等賞同品にして名譽賞に對しては特に意匠を凝し巻頭雛形のものをして製作し其功績を表彰する好個の記念品たらしめたり尙左記の者より副賞として頭書の賞品を贈與せられたるを以て各受賞者に授與せり。

新聞購讀券 小樽新聞社

右は各名譽受賞者に授與 銀製メダル 余市水産組合

右は名譽受賞者旭川木工品購買販賣組合に授與

掛時計 旭川區大勝堂時計店

右は名譽受賞者雨紛信用購買販賣組合へ授與

稻扱器 旭川區本山又彌

右同

分五寸七尺一

賞 状

出品人

住 所

氏 名

一品名

(廣告文)

名譽賞 壹、貳、參、四等賞

上川外四郡旭川區聯合物産共進會審査の成績に依り之を授與す

大正五年十月十二日

北海道廳長官從四位勳三等 俵 孫 一

名譽賞ニハ廣告文ヲ記ス

其二 受賞者人名録

本共進會に於て受賞したる人名左の如し

受賞者區町村別一覽表

區町村	名譽賞	一等賞	二等賞	三等賞	四等賞	計	區町村	名譽賞	一等賞	二等賞	三等賞	四等賞	計
旭川區	三	二	四	六	一	一四	南富野村	一	一	一	一	一	一
鷹栖村	一	一	一	一	一	五	占冠村	一	一	一	一	一	四
東旭川村	一	一	一	一	一	五	山部村	一	一	一	一	一	四
神居村	一	一	一	一	一	五	和寒村	一	一	一	一	一	四
神樂村	一	一	一	一	一	五	劍淵村	一	一	一	一	一	四
永山村	一	一	一	一	一	五	士別町	一	一	一	一	一	四
東川村	一	一	一	一	一	五	上士別村	一	一	一	一	一	四
當麻村	一	一	一	一	一	五	名寄町	一	一	一	一	一	四
比布村	一	一	一	一	一	五	下名寄村	一	一	一	一	一	四
愛別村	一	一	一	一	一	五	多寄村	一	一	一	一	一	四
美瑛村	一	一	一	一	一	五	常盤村	一	一	一	一	一	四
上富野村	一	一	一	一	一	五	中川村	一	一	一	一	一	四
下富野村	一	一	一	一	一	五	計	一	一	一	一	一	四

第六章 賞

菓子器蓋付	旭川區	佐藤 久助	乘鞍一式	旭川區	篠田 しつゑ
菓子器	同	秋山 喜代治	水豆 腐	東旭川村	高田 久右工門
手拭	同	小鈴 久米助	蜂蜜	上富良野村	林 作太郎
染色印半天	同	近藤 瀧藏	干瓢	士別町	小山 嘉吉
造花	同	入江 みつね	同	南富良野村	清水 農場
造花	同	泰野 國子	ホッブ	旭川區	石黒 與平治
盆工	同	旭川木工品購買販賣組合	麵類	同	小林 助太郎
造花	同	奥田 清香	湯葉	同	後藤 勝藏
ポール函	同	川口市藏	カステーラ	同	藤田 修三
洋犁	同	佐藤 久太郎	同	同	中井 彦太郎
同	同	山本 榮松	羊糞	同	鎌田 運吉
飯田式播種器	同	飯田 順治	同	同	武田 玉助
馬力稻扱器	神居村	増澤 申子次	同	同	淺岡 商店
葉切器	旭川區	玉井 留吉	同	同	藤川 商店
水田除草器	永山村	小林 薫(金物店)	同	同	山田 虎藏
改良耨摺器	旭川區	小林 平十郎	林檎砂糖漬	同	藤川 忠作
糸万石	同	中村 與吉	生引菓子	同	山口 友治
靴	同	藤川 伊三郎	同	同	中井 彦太郎
同	同	小田 金太郎	滋養せんべい	同	酒井 直太郎
麻馬具	同	阿部 武助	落雁	同	福田 秀吉

九四

小判 麥 旭川區 伊勢龜 巳之吉 梶
 木炭 東旭川村 齋藤 吉之助 同
 苗木 同 倉本 元治 同

第七章 儀式

其一 開會式

開會式は大正五年十月五日午前十時上川第二尋常小學校に於て舉行せり
 會場入口には大緑門を建設し式場は百有余坪の校内運動場を以て之に充て其四周は紅白の幔幕を絞り上
 げ天井は万國旗を交叉し前面床上に式壇を設け緑門を建設し大なる花瓶には爛々たる菊花を配し其風致
 掬すべきものあり

當日参列者は午前九時三十分迄に會場に参集し同十時第一鈴に依り役員及出品人着席第二鈴に依り來賓
 着席此間音楽隊進行の典を奏して歓迎の意を表す
 各員の着席終り音楽隊君か代を吹奏して式に入るや村本事務委員長は式壇申告席に進みて本會事業の經
 過に關する左の申告文を朗讀せり

申告

上川外四郡旭川區聯合物産共進會ノ準備全ク成リ本日ヲ以テ開會式ヲ舉ケラルルニ當リ茲ニ事務ノ概
 況ヲ申告スルハ光榮トスル所ナリ抑モ本會ハ上川外四郡旭川區ノ聯合主催ニ係リ之カ開催ニ付テハ昨
 年末既ニ豫備計劃ヲ試ムル所アリシカ本年一月ニ至リ議愈々決シ爰ニ本計劃ヲ確定シテ爾來着々其實
 行ヲ進メタリ而シテ會ノ經費ハ豫算總額壹萬圓ヲ算シ中區町村ノ支出ニ俟ツモノ實ニ七千五百圓ノ多
 額ヲ以テセリ之ニ依テ如何ニ公共團體カ生産ノ改良發達ニ深甚ナル保護ヲ加ヘラレタルヤ知ルニ足

第七章 儀 式

九五

ラン會場タル區立旭川女子職業學校ノ新築校舍ハ總建坪九百八十七坪ヲ算シ其外觀壯麗ニシテ構造ノ完備セル區内建造物ニ多ク其比ヲ見ス本會カ如此恰適ノ會場ヲ得タルハ一ニ旭川區ノ好意ニ基ク所ニシテ深ク感謝ノ意ヲ表スルモノナリ更ニ出品點數ヲ舉グレハ普通出品壹萬參千參百四十三點參考品一千九百點ニシテ普通出品ハ豫定點數ヲ超過スルコト三千三百四十三點ニ上レリ斯ル良好ノ成績ヲ示セルモノハ當業者ハ産業ノ改良ニ熱心ナルト一ハ地方委員諸氏ノ勸奨宜シキヲ得タルノ致ス所ニシテ地方開催ノ共進會中蓋シ稀ニ見ルノ盛況ナリト信ス又本會開設ノ準備上何等支障ナク完成ヲ告クタルハ官民諸士ノ指導贊襄ニ依ルハ勿論ナリト雖モ會場内外ノ設備ニ至リテハ亦事務委員諸氏カ協力一致シテ終始一貫シ奮勵セラレタルノ力與テ大ナルヲ疑ハス是レ特ニ會頭貴下ニ申告セント欲スル所ナリ謹テ會場全圖及出品目錄ヲ呈シ開會ノ式ヲ舉ケラレンコトヲ請フ

大正五年十月六日

事務委員長正七位 村本初太郎

次に東郷會頭左の式辭を朗讀す

式 辭

上川外四郡旭川區聯合物産共進會ノ設備全ク成リ茲ニ本日ヲトシ開會式ヲ舉クルニ當リ貴賓各位貴臨ヲ辱フセルハ本會ノ深ク光榮トスルトコロナリ抑モ上川支廳管内及ヒ旭川區ハ共ニ本道ノ中樞ニ位シ氣候適順ニシテ天惠ニ富ミ産物ノ饒多ナル敢テ他ニ遜色ナシト雖ト各種産業上ニ於ケル人爲ノ施設ニ至リテハ尙ホ改善進歩ヲ期スヘキモノ尠カラズ今ヤ歐洲ノ戰亂ハ我國ノ經濟界ニ好影響ヲ及ホシ著シク産業ノ勃興セルモノアルヲ機トシ茲ニ本會ヲ開キタルハ一ニ純良ノ製品ヲ産出シ内外販路ノ擴張ヲ計リ以テ國富ノ増進ヲ圖ラントスルニ外ナラス希クハ當業者諸子將來益々奮勵更ニ一段ノ効果ヲ收メラレンコトヲ

大正五年十月六日

上川外四郡旭川區聯合物産共進會長正六位勳五等

東郷重清

次て市來旭川區長市來旭川區協賛會長西谷上富良野村東中富良野青年會長の祝辭朗讀田中北海タイムス社旭川支局員の新開社員總代としての祝辭演説あり之に次ぎ津田副事務委員長は各地よりの祝電を朗讀し出品人田中茂韶、西倉重二郎ノ答辭あり事務委員長式終了の旨を告ぐるや啣曉たる奏樂と共に一同退席し東郷會長來賓一同を案内して各陳列場を巡覽せり祝辭並に祝電左の如し

祝 辭

國運ノ隆盛ヲ策スルノ方ハ産業ノ振興ニ努メ文化ノ啓發ヲ圖ルヨリ急ナルハナク産業ヲ振興シ文化ヲ啓發スルノ途ハ固ヨリ一ニシテ足ラズト雖物産共進會開設ノ舉ノ如キハ蓋シ其方法ノ頗ル緊切ナルモノタルヲ信ス夫レ共進會ノ目的ハ各種ノ生産品ヲ一場ニ蒐集シ其精粗優劣ヲ比較評騭シ以テ産業ノ改良發達ヲ獎勵シ當業者ヲシテ既往ヲ回顧シ將來ヲ考慮シ探長補短宜シキヲ得セシメテ以テ産業ノ改善發展ニ資セントスルニ在リ我旭川區及上川支廳管内ノ地タルヤ本道ノ中心タル地ノ利ヲ占メ加フルニ氣候ノ天惠ヲ得ルアリ此ヲ以テ開拓以來年所未ダ多ク經サルニ拘ハラズ諸般ノ産業急速ノ度ヲ以テ發達シツツアリト雖モ熟々日進ノ大勢ヲ顧ルトキハ尙ホ益工夫研究ヲ凝シ幾多ノ改善進歩ヲ圖リテ以テ大ニ其發展ヲ期セサルヘカラサルモノアリ此時ニ方リ上川外四郡及旭川區聯合物産共進會ノ開設ヲ見タルハ寔ニ機宜ニ適シタル舉タルヲ疑ハス而シテ本會ハ其ノ規模敢テ大ナリト言フニ非サルモ設備ノ完全ニシテ陳列品ノ精良點數ノ多大ナル本道共進會中蓋シ稀ニ見ルトコロナリ若シ夫レ當業者出陳人ニシテ能ク本會ノ趣旨ヲ體シ其嚮ヲ所ヲ誤ルナク互ニ競勵シテ物産ノ改良増進ニ努メ以テ共進ノ實ヲ舉クルヲ得ハ當ニ當地方ノ爲歡フヘキノミナラス亦我國産業ノ爲メ天幸慶ト謂フヘシ茲ニ開會ノ式ニ臨ミ一言以テ祝辭トス

大正五年十月六日

旭川區長正七位勳六等

市 來 源 一 郎

祝 辭

本日ヲ以テ上川外四郡及旭川區聯合物産共進會ノ開會式ヲ舉行セラル不肖此盛典ニ列シ一言所懷ヲ陳
 フルヲ得ルハ深ク光榮トスル所ナリ惟フニ世運ノ進歩ハ實ニ著シク百事暫クモ舊態ニ安ンスルヲ許サ
 ズ産業ノ事亦固ヨリ之ニ洩ルルヲ得サルナリ願ルニ我帝國ハ既往數次ノ征戰ニ於テ常ニ武力ノ優勝ヲ
 示シ頗ル強兵ノ名ヲ博セシト雖モ殖産興業ノ事ニ至リテハ不斷ノ奮闘仍ク歐米ニ比シテ劣者ノ地位
 ヲ脱スル能ハス從ツテ未タ大ニ富國ノ實ヲ舉ケ眞乎一等國ノ伍班ニ列シテ耻ル所ナキ能ハサルハ遺憾
 極リ罔シト言ハサルヘカラス産業ニ從事スル者更ニ猛進一番大ニ其改善進歩ヲ圖リ國富ヲ増スニ努ル
 所ナクシテ可ナラシヤ上川支廳管内ノ各郡及旭川區爰ニ見ル所アリ今茲ニ此ノ共進會ヲ開キ域内ニ生
 出スル各種ノ物産ヲ一場ニ列ネ其ノ優劣精粗ヲ比較シ探長補短以テ産業ノ興振ニ資スル所アラシメン
 トス是洵ニ有益ノ舉ニシテ國家ノ爲將タ地方産業發達ノ爲慶賀措ク能ハザルナリ聊カ燕言ヲ敘シテ祝
 辭トナス

大正五年十月六日

上川外四郡聯合物産共進會

旭川區協贊會長正七位勳六等 市 來 源 一 郎

祝 辭

天高クシテ秋清ク農産收メテ民人擊壤ノ時ニ當リ上川外四郡農會旭川區ノ聯合ヲ以テ物産共進會ヲ開
 設セラル豈祝シテ賀セザルベケンヤ盡シ國運伸張昔日ノ比ニアラスト雖モ而カモ殖産興業ノ道之レニ
 伴ハレリト言フヘカラス文物燦然タルカ如クナリト雖モ而カモ殖産興業ノ道共ニ進メリト言ヘカラス況
 シヤ新開拓殖ノ本道ニ於テオヤ之ヲ以テ切磋奮勵産業ノ進歩改善ヲ計ラサルヲ得サルノ急之レヨリ大

ナルハナシ然リ而シテ切磋奮勵斯業ニ努ムト雖モ而カモ彼此相照シテソノ精粗良否ヲ見ルニアラスンヤ
 是レカ進歩ノ得テ圖ルベカラス品種ノ長短相比シテ之ヲ明カニスルニアラスンハ是レカ善美得テ望ム
 ヘカラス今ヤ區四郡ノ精良ナル物産ヲ促スモノ尠カラサルト共ニ國運ノ旺盛ニ資スル所以亦タ大ナル
 モノアルヲ信ス乃チ燕辭ヲ陳ヘ敬ンテ祝意ヲ表シ併セテ會長閣下並ニ當局諸賢ノ苦慮ヲ拜謝ス

大正五年十月六日

東中富良野青年會長 西 谷 元 右 衛 門

祝 電

- | | | |
|--------------|-----------|-----------|
| 御盛會ヲ祝ス | 網走支廳長 | 川 越 常 次 郎 |
| 盛會ヲ祝ス | 根室支廳長 | 前 田 正 義 |
| 貴會ノ隆盛ヲ祝ス | 留萌支廳長 | 足 達 儀 國 |
| 御盛會ヲ祝ス | 北海道會議員 | 笠 島 定 治 |
| 開會ヲ祝ス | 北海道會議員 | 澤 田 利 吉 |
| 開會ヲ祝シ併テ盛大ヲ祈ル | 函館商業會議所 | |
| 盛會ヲ祝ス | 北海道自治協會 | |
| 空前ノ盛會ヲ祝ス | 當麻村長 | 渡 邊 喜 惣 治 |
| 御盛典ヲ祝ス | 東川村長 | 吉 川 善 篤 |
| 開會式ノ盛典ヲ祝ス | 帝國製麻名寄工場長 | 原 富 雄 |

答 辭

上川外四郡旭川區聯合物産共進會開會式ヲ舉行セラルルニ當リ出品人トシテ其席末ニ列スルノ榮ヲ得
 タルハ衷心欣喜ニ堪ヘサル所ナリ將來益其業ニ精勵シ品質ノ改良ヲ謀リ産業ノ隆盛ニ努メ以テ開會ノ

園藝作物ノ審査ニ附シタルモノノ蔬菜類五百九十點果實類九十點合計六百八十點ナリトス
 馬鈴薯ハ三百七十八點ニシテ優良品種ノ出陳多キモ固有ノ特徴ヲ失シ且ツ病害ニ犯サレタルモノ尠ナカ
 ラサルハ遺憾ナリ宜シク種薯ノ貯藏ト栽培法ニ注意スヘシ
 南瓜ハ六十三點ノ出品アリタルモ品種固有ノ形質ヲ失ヘルモノ多シ其他根菜類ニアリテハ薯蕷ハ稍々見
 ルヘキモノアリシモ其他ノモノニアリテハ賞揚スルモノ少ナク殊ニ蘿蔔ノ出陳少ナカリシハ氣候ノ影響
 ナランモ遺憾トスル所ナリ
 苹果及葡萄等ハ品質優良ナルモノ少カラス往々苹果特産地方ノモノニ比シ遜色ナキヲ認メタリ今後栽培
 ニ注意セハ地方ニヨリ發達ヲ望ミ得ヘシ
 繭審査點數二百四十三點ニシテ優良ナルモノ少カラサルモ一般ニ繭層薄ク乾燥不良ナルハ惜ムヘシ爾後
 一層良品種ヲ選擇シ給桑ニ注意シ殺蛹ノ時期ヲ逸セス乾繭ノ完全ヲ期セサル可カラス
 蠶種審査點數十六何レモ病毒ナク調製ニ稍々見ルヘキモノアリト雖モ卵量尠ナキヲ缺點トス將來優良種
 ノ製品ニ努メ更ニ進ンテ良交配種ノ選出ニ努力スヘシ
 真綿ノ審査點數十六色澤佳良ナルモ形狀及強伸力ニ於テ缺點アルヲ遺憾トス將來一段ノ改善ヲ望ム
 生絲審査點數僅カニ五點色澤普通ナルモ糸質不良ニシテ緒糸絡交箴角束裝等改善ノ餘地多シ爾後産額ノ
 増加技術ノ練磨ニ力ヲ致サンコトヲ望ム
 苗木審査セシモノニ十四點病虫ノ被害ハ別ニ之ヲ認メサルモ枝幹ノ充實接着部ノ愈合根ノ發育ニ缺點ナ
 シトセス強健純正ナルモノノ生産ニ努力スヘシ
 肥料ハ審査セルモノ僅カニ五點特ニ論評スルモノナシ

工業品

化學製品トシテ審査セシモノハ薄荷製品僅カニ二十點ニ過キス取卸ハ二三色彩不良ナルモノ及腦ノ含量
 少ナキモノアリシモ概ネ品質良好ナリ

器具器械類

審査ニ附シタルモノ九十九點其ノ多クハ農業關係ノモノニシテ金工類四十點ブラオ十二點稻扱品七點除
 草器及唐箕各六點ハ其主ナルモノナリトス
 ブラオ類ハ一般ニ撥土板ハ屈曲ノ狀態不良ナルト鐵ノ鍛合宜シキヲ得サルト「ボールト」ノ長キ犁鈞止金
 ノ製作ニ不注意ナルモノ多ク一段改良ノ餘地多シ
 稻扱器ハ其ノ構造大同小異ニシテ中ニハ馬力ニテ使用スルモノノ發明ヲ見タルハ寔ニ欣フヘキモ尙改善
 ニ力ヲ致サレンコトヲ望ム
 除草器其ノ他ノモノニアリテハ殊ニ論評スルモノナシ木工品ノ審査ニ附シタルモノ二百七十一點蓋シ今
 同ノ工業品中最モ光彩ヲ添ヘタルモノナリ意匠構造及著色等ハ比較的見ルヘキモノアルモ稍々價格ノ低
 廉ナラサルモノ多キヲ遺憾トス將來益々實用ヲ主トシテ製作品増加ヲ圖ランコトヲ望ム
 藁細工ノ審査點數二百八十三繩類最モ多ク草鞋草履表爪甲莖等之ニ亞ク
 繩ハ製作技術ノ上ニ於テ一般ニ進歩ノ跡ヲ認ムルモ尙原料ノ撰擇藁打方等ニ於テ改良ノ餘地アルヲ認ム
 其ノ他ノ製品ニ於テハ尙ホ技術ノ練磨ヲ要スル點尠ナカラス宜シク實用ニ適スルモノノ製作ニ留意スベ
 シ
 雜工品ノ審査ニ附シタルモノ五百拾九點履物靴馬具染色物手藝裁縫物アイヌ細工ハ其ノ主ナルモノナリ
 就中見ルヘキモノハ下駄材ニシテ益々之レカ製作ニ努メ輸出ノ増加ヲ圖ルヘシ靴ハ一般ニ實用ヲ主トシ
 タルハ賞スヘシト雖尙ホ原料ノ選定及使用上留意ヲ要ス徒ラニ廉價ヲ競ヒ重要ナル部位ニ接合皮ヲ使用
 セルモノアルハ大イニ戒ムヘキナリ其ノ他中底ノ縫目粗ニシテ木釘ノ整理不充分ナルモノアリ一段ト注

意ヲ要スルハ大ニ原料ノ精製ニ注意シ向ホ技術上ニ層々精巧ヲ望ム。馬具類ハ見ルヘキニテナキニアラサルモ原料ノ撰擇ニ注意シ向ホ技術上ニ層々精巧ヲ望ム。染色物ハ進歩ノ跡ヲ認ムルモ尙ホ當業者奮勵ニヨリ技術ノ改善ヲ要ス。手藝裁縫物ハ概シテ技術幼稚ナルヲ免ルニ改善ノ餘地多シ。正官式裁縫機具製法等ハ手藝裁縫機具ノ改良ニ注意シ向ホ技術上ニ層々精巧ヲ望ム。アイヌ細工ハ蓋シ土人ノ職業トシテ適當ナルモノナリ須ラク指導誘掖之レカ産額ノ増加ト販路ノ擴張ヲ圖ルニシテ其ノ他硝子器及塵紙ノ製造等ハ將來有望ナル事業ナルヲ以テ宜シク奮勵製作ノ増加ヲ圖ルニ努ムベシ。其ノ他雜工業品ニ至リテハ特ニ論評スベキモノナシ。釀造品ノ審査ニ附シタルモノ清酒三十八點醬油三十九點味噌十八點燒酎二點ウキスキト味淋食酢麴メチルアルコト各二點總計白〇壹點ナリトス。清酒ハ品質ノ向上著シク香味色澤芳醇内地銘酒ニ比シ遜色ナシ然レトモ中ニハ原料精白ノ程度不充分ニシテ品質不良ノモノアリ今後益々原料ヲ精選精白容器ノ手入ニ力ヲ致シ品質ヲ改善ヲ圖ルハ目下ノ急務タリ當業者ノ奮勵ヲ望ム。醬油ハ香味色澤優良ニシテ賞讃スベキモノ少カラサルモ中ニハ濃縮速成ノ結果香味ニ缺點ヲ有スルモノアリ宜シク製麴操作ノ改善ヲ計リ特ニ天然釀造ニヨリ熟成期ヲ短縮シ製成技術ニ一層ノ研究ヲ要ス。味噌ハ濃縮法ニヨルモノ多ク保溫播碎其度ヲ過キ風味良好ナラス焦臭アリ改善ノ餘地多シ。燒酎及ウキスキハ品質可ナリ其他ノ出品物ニ至リテハ特ニ賞揚スベキモノ少ナシ。製造飲食品ノ審査ニ附シタルモノ澱粉三百拾點菓子類百拾八點粉類麵類干瓢牛酪蜂蜜其他四十五總計四百七拾四點ナリトス。澱粉ハ當管内重要産物ノ一ナルヲ以テ其出品點數多ク一般ニ品質良好ナルモ概シテ乾燥ノ不充分ナルモノ多キヲ遺憾トス又往々品質劣惡ナルモノヲ見タルハ市場ニ於ケル良品ノ聲價ヲ失墜スルコトナキヲ保シ難シ故ニ産地ニ於ケル當業者間ノ注意ヲ要ス。

菓子類ハ一般ニ進歩ノ跡ヲ認ムルモ原料ノ選擇形狀色澤ニ改良ヲ要スルモノ多シト雖モ地方生産品ノ利用ニ留意シ内地品防止ニ適スル菓子ノ製品ヲ見ルニ至レルハ大ニ喜ブ所ナリ益々當業者ノ奮勵ヲ望ム。其他ノ飲食品ニ至リテハ賞揚ニ價スベキモノ少ナカラス夙ニ産額ノ増加ヲ圖リ將來上川地方ノ特産品トシテ名聲ヲ發揚センコトヲ希望ス。寫眞印刷物ノ審査ニ附シタルモノ五六點就中寫眞ハ採光宜シキヲ得「コントラスト」及「デテール」ニ富ミ修整調色亦佳良優良品少ナカラサルハ慶スベシ殊ニ題材ノ選擇ニ苦心ノ跡ヲ認メタルモノ少ナカラズ。印刷物ニアリテハ尙著色刷方等ニ一段ノ改善ヲ要ス。

林 産 物

審査點數五十四點中最モ多キハ挽材ニシテ優良ナルモノ少ナカラズ斯業發達ノ程度ヲ表現シタルハ欣ブベキ現象ナリ然ルニ出陳者比較的少ナク上川地方ニ於ケル挽材ノ精粹ヲ盡シタリト言フヲ得ザルヲ遺憾トス。柁ハ資料佳良ニシテ製作極メテ精巧ナルモノアリト雖モ其ノ結果却テ價格不廉ニ陥ルノ嫌ナキカ。銃床木ノ寸度ハ自ラ定マリタルモノアレバ當業者ニ於テ木取法ハ勿論乾燥法及運搬方法等ニ關シ更ニ一層ノ注意ヲ拂ヒ改良ノ途ヲ講ズベシ。鉛筆材料ハ尙ホ輸入品ニ依ルモノ多シ然ルニ當旭川區ニ於テ本道産「オンコ」「ホウ」「シウリ」等ヲ以テ之レガ代用ノ途ヲ發見シ而モ其成績極メテ良好ナルハ欣ブベシ今後益々生産ノ増加ニ努ムベシ。木炭ハ一ニ品質ノ佳良ナルモノアルモ概シテ改善ノ餘地尙ホ甚ダ多ク殊ニ俵裝ニ至リテハ全ク體ヲ爲サハルモノアリ特ニ當業者ノ三省ヲ望ム。苗木ニ於テハ幹根ノ發育之ニ伴ハズ概シテ軟弱ニ過グ其栽培ニ注意ヲ要ス。

鑛 産 物

鑛産物ノ出品ハ僅カニ二十八點多クハ鑛塊ノ標本ニシテ見ルベキモノナシ但シ石灰石及ビ其製品ハ稍々見ルニ足り年々産額ヲ増加シ來ルハ欣ブベシ

要スルニ上川支廳管内ノ地タルヤ鑛産物ノ埋藏富饒ナリト謂フヲ得ザレドモ金銀銅鐵硫黃石灰ノ鑛床ニ乏シカラス將來望ヲ囑スベキモノアルヲ以テ自今事業ノ經營ニ努力セラレン事ヲ希望ス

要之今回ノ出陳物中醸造品木工品米及澱粉ハ特ニ他ノ地方ニ比シ著シク傑出シタルヲ認メタリ尙此等農産物ニ對シテハ檢査ヲ勵行シ益々品質ノ統一ヲ圖ルコトヲ得ハ更ニ改良發達ヲ致スハ明ナルヲ以テ宜シク當業者ノ奮勵努力ヲ要スルモノアルヲ認ム

其他ノ出品物ニアリテハ進歩ノ跡著シキモノアルヲ認メタルモ尙幾多ノ改善ヲ要スルモノ多キヲ以テ今回ノ成績ニ鑑ミ益々奮勵研鑽ヲ重ネ本會開催ノ趣旨ニ副ハンコトヲ切望シテ熄マサル所ナリ

終リニ臨ミ一言スベキハ今回共進會ノ出品點數ノ多キ未タ曾テ此種共進會ニ其例ヲ看ザルナリ然ルニ出品物ノ多クハ解説書ヲ缺キ審査上多大ノ困難ヲ感ジタリシモ幸ニ熱心ナル審査員ノ精勵ニヨリ豫定ノ期間ニ審査ヲ結了シタルハ本官ノ最モ欣ブ處ナリトス

茲ニ謹テ擬賞人名録ヲ呈シ褒賞授與アラントヲ請フ

大正五年十月十二日

上川外四郡旭川區聯合物産共進會

審査委員長

北海道廳技師正六位 山 田 勝 伴

審査委員長審査薦告書及擬賞人名録を長官に捧呈し長官親しく之を領す次に東郷會長は式壇に進みて左の式辭を朗讀す

式 辭

長官閣下竝縮紳各位ノ貴臨ヲ辱フシ茲ニ褒賞授與ノ式典ヲ舉グルハ本會ノ光榮トスル所ナリ今審査ノ結果ニヨルニ各種出品ヲ通シ成績概ネ優良ニシテ改良進歩ノ跡歴々見ルベキモノアルハ最モ欣幸トスル所トス殊ニ是等優良品ニ對シ長官閣下ヨリ親シク賞狀ヲ授與セラレ以テ斯業獎勵ノ意ヲ明カニセラハ洵ニ感佩ニ堪ヘサルナリ

抑モ巨資ヲ投シテ本會ヲ開催シ其出品ヲ審査講評シテ褒賞ヲ授與スル所以ノモノハ獨リ優者ノ名譽ヲ表彰セントスルニ止マラス其優劣ノ岐ルル所ヲ明カニシ當業者ヲシテ比較考査シ長ヲ採リ短ヲ補ヒ以テ産業ノ振興ヲ促進セントスルニ在リ即チ本會ノ効果ハ之ヲ將來ニ徵スベキモノ多大ニシテ之ヲ完フスルノ途ハ一ニ當業者ノ奮起ニ在リテ存ス冀ハ當業者諸子深ク我國現下ノ狀勢ニ鑑ミ益々技ヲ練リ術ヲ磨キ勤勉力行以テ本會ノ期待ニ副ハンコトヲ一言以テ式辭トス

大正五年十月十二日

上川外四郡聯合物産共進會長 正六位 旭川區 勳五等

東 郷 重 清

此に於て長官授賞席に着き名譽賞に對しては各人別に一等賞以下の受賞者に對しては賞狀を一括して受賞者總代に之を授與す右終りて長官左記告辭を朗讀せり

告 辭

上川外四郡旭川區聯合物産共進會ハ出品點數一万數千ヲ算シ各般ノ施設之ニ伴ヒ從來本道各地ニ於ケル斯種施設中稀ニ見ル盛況ナリトス今親シク各種出品ヲ通觀スルニ其物産ノ豊富ナル實ニ本道農地ノ有數ナル首位ニアルハ衷心欣快トスル所ナリ思フニ方今時勢ノ趨向ハ愈々生産ノ業ヲ興起シテ國家致富ノ根元ヲ培養シ國力充實ノ基礎ヲ鞏固ナラシムルヲ以テ急務トス殊ニ本道ニアリテハ一層拓殖ノ歩武ヲ進メ利源ノ開發ヲ促シ國運ノ隆興ニ資スルヲ急切トス斯時ニ當リ茲ニ物産共進會ヲ開催シ地方産

物ノ生産品ヲ深ク研鑽シ以テ産業ノ發達ヲ促シ文運ノ進展ニ資セントス其効果蓋シ鮮少ナラサルヲ信ス而シテ其良ヲ擇ヒ粹ヲ拔キ褒賞ヲ授與スル所以ノモノハ單ニ優者ノ名譽ヲ表彰スルノミニアラズシテ又別ニ出品ノ効力長短ノ別ヲ闡明シ當業者ヲシテ其歸嚮スル所ヲ知ラシムルニ外ナラサルヲ以テ今回開催ノ効果ヲ完フシ斯業ノ改善ヲ期スル途ハ一ニ當業者ノ奮起ニ俟タサルヘカラス希クハ當業者諸子善ク本會ノ趣旨ヲ諒得シ之ガ審査ノ成績ニ鑑ミ益々地方産物ノ増殖改善ニ意ヲ致サンコトヲ時令ヤ收穫ノ時季ニ入り田疇ノ黄禾饒穰穀倉ニ滿ツルノ候ヲトシ茲ニ褒賞授與ノ式典ヲ舉行スルニ當リ一言ヲ述ヘテ祝辭トス

大正五年十月十二日

北海道廳長官從四位勳三等

儀

孫 一

次て市來旭川區長の訓告市來旭川區協賛會長、參列支廳長總代川越網走支廳長、淺山札幌支廳長、法亢室蘭外五郡農會長、阿部札幌區長、永田北海道雜穀商同業組合聯合會組長、高橋小樽商業會議所會頭、管内町村長戸長總代清水永山村長其他の祝辭演說あり其朗讀されたる祝辭左の如し

訓 告

上川外四郡旭川區聯合物産共進會出品ノ審査終了シ茲ニ褒賞授與ノ式ヲ舉ルニ當リ一言當業者並出陳者諸氏ニ告クル所アラントス
惟フニ我國現下ノ産業状態ハ日ニ月ニ其面目ヲ革メツ、アリト雖モ之ヲ歐米先進國ノソレニ比スレハ尙遠ク遜色アルヲ免レサルノ地位ニ在ルハ識者ノ等シク慨嘆シテ止マサル所ナリ
凡ソ國富ノ増進ヲ計リ國運ノ伸長ヲ劃スルノ途多クアリト雖モ産業ノ隆盛ニ勗ムルヨリ急ナルハナシ産業發達セサレハ則チ國富マス國富マサレハ則チ未タ以テ國家ノ獨立ヲ維持シ其隆昌ヲ期スルニ足ラサルナリ

之ヲ近最ノ事例ニ徵センカ現下我敵國タル獨逸カ交戦以來四面楚歌ノ裡ニ包圍セラレ必要ノ物資ヲ自國外ニ需ムルヲ得サルノ實狀ニ在ルモ奮戰屈セス能ク二年有半餘ノ久シキニ堪ヘ尙餘裕綽々タルモノアルヲ示セルハ夙ニ諸氏ノ知了セラル、事實ナリトス是レ殖産興業ノ力ニ因ルニアラサルヨリハ焉ン能ク斯ノ如クナルヲ得ンヤ實ニ産業ト國家ノ獨立トハ離ルヘカラサルノ關係ニ立ツモノト謂フヘシ
今回ノ物産共進會ハ出品區域一區五郡ノ廣キニ亘リ其出品數實ニ一万五千餘點ノ多キヲ算シ何レモ改善進歩セラレタルモノアルヲ認ムルニ吝ナラス是レ畢竟當業者並出陳者諸氏ノ其業ニ熱心誠意ナルト拮据勉勵ニ出テタルノ結果タラスンハアラスシテ寔ニ地方産業ノ改善發達ニ裨シ延テ國運ノ進展ニ益スル所多大ナルベキヲ信ス然リト雖モ出品ノ委曲ニ彌リ檢査閱スルトキハ其品質ニ於テ將タ其生産技巧ノ點ニ於テ尙改善ノ餘地尠ナカラサルモノアルハ現ニ審査委員長ノ報告ニ指摘セラル、所ノ如シ當業者並出陳者諸氏望ラクハ審査ノ成績ニ鑑ミ將來益斯業ノ改善進歩ニ努メ以テ國運ノ伸展ニ資セラレンコトヲ

大正五年十月十二日

旭川區長正七位勳六等

市 來

源 一 郎

祝 辭

上川外四郡旭川區聯合物産共進會ハ本日ヲ以テ褒賞授與ノ式ヲ舉ラル誠ニ慶賀ニ堪ヘサルナリ不肖此ノ盛典ニ列スルノ光榮ヲ荷フ豈一言ナクシテ可ナランヤ
惟フニ今ノ時國富増進ヲ圖ルノ要愈々急ニ産業發達ノ振興ヲ促スコト益々切ナリ我旭川區及上川外四郡ノ地タル開拓日淺キニ拘ラス各人ノ奮闘努力ニヨリテ著シキ發達ヲ告ケ諸般ノ産業次第ニ進歩ノ道程ニアリト雖モ更ニ刷新振興ヲ策スヘキモノ亦實ニ尠シトセス抑モ一區五郡カ巨資ヲ投シテ此ノ共進會ヲ開設シ選査考定褒賞ヲ授與セラル、所以ノモノハ想フニ單リ優者ノ名譽ヲ表明セントスルニ止マ

ラス其ノ優劣ノ別ル、所ヲ明カニシテ比較考照長短相補ヒ以テ産業ノ進歩ヲ促サントスルニアリサレハ優者ハ益々優ナランコトヲ期シテ更ニ一層ノ奮勵ヲ加ヘ劣者ハ須ラク其ノ及ハサル由ヲ察シテ以テ將來ノ改良ニ努力セサルベカラズ洵ニ此ノ如クナラハ爰ニ始メテ共進會ノ目的達セラルベク褒賞授與ノ趣旨ニ副フコトヲ得ヘケン當業者諸君翼クハ深ク念ヲ此ニ致シ邁然競勵斯業ノ發達ヲ圖リ以テ本會ノ開催ヲシテ徒爾ニ終ラシメラレサランコトヲ聊カ蕪言ヲ述ヘテ祝辭トス

大正五年十月十二日

上川外四郡旭川區聯合物産共進會

旭川區協賛會長

正七位勳六等 市來源一郎

祝 辭

秋高ク馬肥ユルノ時茲ニ本日ヲトシ上川外四郡旭川區聯合物産共進會褒賞授與式ヲ舉ケラル本官等亦此ノ盛典ニ列スルノ光榮ヲ荷フ欣喜措ク能ハサル所ナリ抑モ殖産興業ハ經國ノ要道ニシテ富國強兵ハ上下等シク唱フル所其言實ニ容易ニシテ實蹟ノ之レニ伴フモノ少キハ何ソヤ之レ近來共進會博覽會ヲ開設シ以テ産業ノ改善發達ニ資セントスル所以ナリトス願ブニ旭川區及上川支廳管内ハ本道拓殖ノ中樞ニシテ農工林産ニ富ミ特ニ米産ヲ以テ名アリ而シテ前途益々有望ナリトス此秋ニ該リ本會開催ノ舉アル寔ニ偶然ニアラス蓋シ其ノ効果ノ尠少ナラサルモノアルヘキヲ信ス今會場ヲ一覽スルニ其規模廣大ニシテ設備ノ完全ナル視ル者ヲシテ先ツ快感ヲ覺ヘシメ更ニ出品ノ饒多ナル品質ノ優良ナル採テ以テ他ノ學フヘキ處少ナシトセス之レ畢竟當局者ノ施設經營其宜シキニ適ヒ生産者亦刻苦精勵ノ結果タラスンハアラス洵ニ慶賀ニ堪ヘサルナリ然リト雖モ方今時運ノ趨勢ハ興國ノ進展ヲ促スコト愈々急ナリ庶幾クハ當業者諸氏協心一致一層奮勵努力シ堅實ナル

産業ノ振興ヲ圖リ以テ國運ノ隆昌ニ貢獻セラレンコトヲ式ニ列シ一言祝辭トス

大正五年十月十二日

參列支廳長總代

網走支廳長正六位勳六等 川越常次郎

祝 辭

上川外四郡旭川區聯合物産共進會ハ其ノ出品ノ審査ヲ終リ茲ニ本日ヲ以テ褒賞授與ノ式典ヲ舉ケラル洵ニ慶賀ニ堪ヘサル所ナリ抑モ上川地方ハ開拓ノ業ヲ創メテヨリ年所ヲ閱スルコト敢テ久シカラスト雖モ本道ノ中樞ニ位置シ地味膏腴ニシテ氣候亦農産ニ適シ交通ノ便到ル處具ハリ天恵ト人爲ト互ニ相俟テ美田沃野ノ墾成セラレタルモノ已ニ十萬餘町歩民ヲ植フルコト二十六萬口ニ及ヘリ就中一大市場タルノ使命ヲ帶ヘル旭川區ハ人口六方ヲ包容シ農村ノ發達ト區ノ繁榮ト互ニ因ヲ爲シ果ヲ爲シ以テ今日ノ發展ヲ致シタルモノ其ノ趨勢ヤ隆々トシテ洵ニ先進地方ヲ凌駕スルノ概アリ這回ノ共進會ニ於ケル出品數一萬數千點ノ多キニ達シ地方共進會トシテ稀ニ見ルノ盛況ヲ呈スルニ至リタルモノ正ニ叙上ノ内容ヲ語ルモノナラスンハアラスサレト其ノ發達ノ急速ナリシ半面ヲ顧レハ更ニ進ンテ利源ヲ開拓シ産業ヲ整理シ經濟ノ發達ヲ圖ルノ餘地ヲ存ス宜シク現況ニ照應シ深ク稽查講究シテ以テ的確ノ施設ヲ爲シ其ノ歸嚮スル所ヲ明ニスルヲ要ス多年ノ宿題タリシ物産共進會ノ其ノ機熟シテ爰ニ開設ヲ見ルニ至リシハ正ニ此趣旨ヲ達成セントスル所以ニ外ナラスト信ス今本會ノ出品物ヲ見ルニ管ニ各種物産ノ多數ナルノミナラス概シテ優秀ナルモノ多キハ刮目スルニ値スヘク亦以テ當業者諸子平素ノ努力ヲ窺知スルニ足レリ不肖前任地タルノ故ヲ以テ今此盛況ニ接シテ特ニ感懷ノ一層深キモノアルヲ覺ユ冀クハ當業者諸子須ラク出品

審査ノ成績ニ鑑ミ益々發奮砥礪シテ本道拓殖事業ノ進歩ヲ圖リ國産ノ振興ニカメ以テ邦家ノ期待ニ副
ハレシコトヲ一言ヲ陳ヘテ祝辭ト爲ス

大正五年十月十二日

札幌支廳長正七位勳六等 淺山正名

祝 辭

上川外四郡旭川區聯合物産共進會出品審査茲ニ畢リテ告ケ本日ヲ以テ褒賞授與ノ式典ヲ舉行セラル抑
上川管内ノ地タル本道ノ中央ニ位シ面積六百三十餘方里農耕地十萬町其産額ハ實ニ本道ノ五分ノ一ニ
相當シ内産米ノ如キ全道收額ノ半ニ達スト聞ク亦之ノ盛ナル農業ノ發達ニ驚嘆ヲ禁セザルモノ
アラシヤ而カモ拓殖ノ業ハ歲ト共ニ進ミ産業ノ隆替ハ益々振興ヲ極メントス洵ニ邦家ノ爲メ欣喜ニ堪
エサル所ナリ

今親敷上川産業ノ状態ヲ通觀スルノ機會ヲ得先進農村ニ學フヘキモノ甚タ大ナルヲ得タルヲ幸トス茲
ニ聊カ一言ヲ陳シテ本會ノ成功ヲ祝シ併セテ當業者各位ノ光榮ヲ慶賀ス

大正五年十月十二日

室蘭外五郡農會長

從六位勳五等 法元盛行

祝 辭

産業ハ國家富強ノ泉源ニシテ其ノ盛衰ハ直ニ國運ノ消長ニ關ス之カ振興發展ヲ圖ル豈一日ヲ緩フスヘ
ケンヤ矧シテ歐洲戰亂ノ影響ハ我産業ニ進展ノ機會ヲ與フルコト切實ナル者アルニ於テヤ此時ニ方
リ本道ノ中心ニシテ而モ天惠ニ富ム上川支廳管内並旭川區聯合シテ物産共進會ヲ開設セラレ今ヤ出品
ノ審査全ク了リ茲ニ本日ヲトシ褒賞授與ノ盛典ヲ舉ケラル受賞者ノ榮譽ヤ洵ニ大ナリト謂フヘシ然リ

ト雖モ共進會ノ事タル出品ノ優劣ヲ比較シ精粗ヲ評議スルヲ以テ終局ノ目的ト爲スモノニ在ラス要ハ
長ヲ採リ短ヲ捨テ以テ生産ノ進歩向上ヲ期スルニ在リ望ムラクハ賞ヲ得タル者今日ノ小成ニ安ムセス
賞ヲ得サル者モ他日ノ大功ヲ期シ勉勵砥礪一意國富ノ充實ニ努力セラレムコトヲ聊カ燕言ヲ陳ヘ祝辭
トス

大正五年十月十二日

札幌區長 阿部宇之八

祝 辭

上川外四郡旭川區聯合物産共進會審査終リテ告ケ本日褒賞授與式ヲ舉行セラレ畿北海道雜穀商組合聯
合會ヲ代表シ茲ニ席末ヲ汚スヲ得タルハ光榮トスル所ナリ抑モ上川支廳管内ハ陸産物ノ中樞地トシテ
夙ニ其ノ改善發達ニ努力セラレ實蹟歴然タルモノアルハ審査委員長ノ報告ニ徴シ知ルヲ得タリ嚴籍ヲ
雜穀移輸出検査事業ニ置ク故ヲ以テ農産物ノ改良ニ對シ特ニ一層ノ愉快覺ユルナリ殊ニ歐洲戰亂勃發
以來青豌豆菜豆澱粉等ノ輸出ハ著シク昂進シ其供給區域モ漸次擴張シテ英米佛ノ諸邦ニ普及スルヲ得
タリト雖モ既往會々乾燥不完全ノ爲メ販路ヲ阻礙シタル實例少カラス本年ハ旱天連續ニ依リ僅ニ此ノ
缺點ヲ補足シ得タルモ一面之ニ伴フ調製甚タ不良ニテ検査ニ提供セラレタル物件中往々多量ノ土塊ヲ
混入シ改造ヲ餘儀ナクセシムルモノアリ之レ主トシテ收穫上設備ノ不完全ナルニ基因スヘカランモ今
後互ニ相戒飾シテ漸ク齎シタル貿易上ノ好現象ヲ逸セサランコトニ力メサル可カラス共進會開催ノ趣
旨ハ一ニシテ足ラスト雖モ必竟彼此苦辛ノ結果ヲ對照シテ優劣精粗ヲ判知スル機會ヲ與ヘ之カ改善ヲ
規圖スルニアルヲ以テ品質以外更ニ想ヲ乾燥調製等ニ及ホシ最良ノ効果ヲ他日ニ收メラレンコトヲ望
ム聊所感ヲ陳ベテ祝辭トス

大正五年十月十二日

組 長 永 田 巖

祝 辭

第一回上川外四郡旭川區聯合共進會ノ審査終リテ告ケ褒賞授與ノ式典ヲ舉ケラル本會ハ上川地方ノ主
 催ナリト雖モ其出品物ノ多種多様ナル其規模ノ雄大ニシテ設備ノ完成セル本道稀一見ル盛觀ヲ呈シ實
 ニ道内生産業ノ縮圖ナリト謂フモ過言ニ非ス殊ニ其出品ノ精良ニシテ改善進歩ノ跡著シキモノアルハ
 慶賀ニ堪ヘサル所ナリ惟フニ當地方一帶ハ豐富ナル天然ノ資源ヲ有シ兼ヌルニ交通ノ便ヲ以テス官民
 一致ノ努力ト相俟テテ正ニ本道殖産興業ノ中心タル地步ヲ占ムルニ至リシハ偶然ニ非ルナリ今ヤ歐洲
 戰亂ノ餘波本道ノ産業ハ漸次世界的トナリ當地方モ亦一般經濟上及ヒ貿易上ヨリ頗ル好影響ヲ受ケツ
 ヲアル趨勢ニ鑑ミ益々此天惠ヲ利用シ産業ノ振興ヲ助長セラレンコトヲ希望シテ止マス聊カ所感ヲ述
 ヘテ祝辭トス

大正五年十月十二日

小樽商業會議所會頭

勳 四 等 高 橋 直 治

祝 辭

上川外四郡旭川區聯合物産共進會審査畢ヲ告ケ本日ヲ以テ褒賞授與ノ式典ヲ舉行セラル、ニ當リ不肖
 涼此光輝アル盛典ノ席末ニ列スルハ無上ノ光榮トスル所ナリ
 抑々上川外四郡ノ地タルヤ本道ノ中央ニ位シ其面積六百三十五方里ニ涉レリ拓殖日尙淺シト雖モ今ヤ
 戶數三万五千人口二十万有餘ヲ算シ本道農産地ノ首位ヲ占メ其産額實ニ一千五百万圓ニ達セリ就中米
 産ニアリテ全道ノ半ニ近キ産額ヲ示シツ、アリ蓋シ今日ノ盛運ヲ見ルニ至レルハ地ノ利ト天與ノ惠澤

ニ因ルト雖モ抑々亦當局者ノ計劃指導ト地方移住者ノ奮闘的努力ノ効果タラスンハアラサルナリ然レ
 トモ各種産業ノ状態ヲ通觀スルニ尙改良刷新ヲ要スルモノ尠カラズ曩テ帝國內外現時ノ狀勢ハ國力ノ
 充實ト國民自給自作ノ必要ヲ感スルコト倍々切ナリ此時ニ方リ當局者時代ノ要求ニ鑑ミ茲ニ共進會
 開催シ農産工藝品等一万五千有餘ノ物産ヲ陳列シ精粗優劣ヲ比較品階シ之ヲ汎ク一般ノ觀覽ニ供セシ
 ハ獨リ當業者ヲ裨益スルノミナラス地方産業ノ改善進歩ニ資スル所甚大ナルヲ疑ハス希クハ當業者諸
 氏思フ此ニ致シ今次ノ審査講評ニ鑑ミ長ヲ採リ短ヲ補ヒ益々斯業ノ改善振興ヲ圖リ以テ國富ノ増進ニ
 努力セラレンコトヲ一言以テ祝辭トナス

大正五年十月十二日

上川支應管内町村長戶長總代

永山村長正八位勳六等 清 水 涼

次に津田副事務委員長は到着の祝電を朗讀し終りて出品人總代答辭を朗讀せり左の如し

祝 電

盛會ヲ祝ス

函館支廳長 河 毛 三 郎

盛大ナル褒賞授與式ヲ祝ス

宗谷支廳長 山 川 太 一 郎

盛會ヲ祝ス

浦河支廳長 關 崎 不 二 夫

褒賞授與ノ盛典ヲ祝ス

北海道農會長 美 濃 部 俊 吉

褒賞授與ノ盛典ヲ祝ス差支アリ參列出來ヌ不悪

盛會ヲ祝ス

北海道會議員

中谷 宇吉

盛會ヲ賀ス

北海道會議員

山田 勢太郎

事故不參ヲ遺憾トス謹ンテ盛典ヲ祝ス

余市水産組合

御盛典ヲ祝ス

小樽毎夕新聞社長

拓殖銀行

稻田 豊

答 辭

上川外四郡旭川區聯合物産共進會審査終了ヲ告ケ本日褒賞授與ノ式典ヲ舉クルニ當リ長官閣下並貴賓各位ノ懇篤ナル御訓諭ヲ辱フセルハ一同ノ深ク光榮トスル所ナリ今ヤ國運隆昌ノ域ニ進ミ産業ノ發展ヲ促スコト愈急ナルモノアリ不肖等謹ミテ御高諭ヲ奉シ奮勵事ニ從ヒ以テ本日ノ光榮ヲ空フセザランコトヲ期ス聊カ蕪辭ヲ述ヘテ答辭トナヌ

大正五年十月十二日

上川支廳管内出品人總代

庄司 久助

答 辭

上川外四郡旭川區聯合物産共進會審査終了シ本日ヲ以テ褒賞授與ノ盛典ヲ舉行セラルルニ當リ長官閣

下並貴賓諸彦ノ賞臨ヲ忝フシ賜フニ懇篤ナル高諭ヲ以テセララル不肖等出品人ノ光榮トシテ感激措ク能ハサル所ナリ我旭川區ニ於ケル各種産業ハ近時著シク進歩發達ノ機運ニ向ヒ前途大ニ望ヲ囑スルニ足ルモノアリ此ノ秋ニ當リ本會ヲ開催セラレ嚴正ナル審査ヲ經テ褒賞ヲ授與セラルルニ至リタルハ尚ニ欣喜ニ堪ヘサル所ナリ不肖等不敏ト雖トモ克ク審査ノ結果ニ鑑ミ高諭ヲ恪守シ益々當區産業ノ發達ニ貢献センコトヲ期ス一言以テ答辭トス

大正五年十月十二日

旭川區出品人總代

佐野 幸太郎

右了りて事務委員長式終了の旨を告げ午前十一時全式を了り別室に於て冷酒折詰を饗應し隨意退散せり

此の日來賓の主なるものは第七師團長旭川地方裁判所長同檢事正第七師團參謀長支廳長警察署長實業家新聞記者管内町村長戸長等にて頗る盛況を呈し午後五時よりは旭川協賛會に於て重立者を旗亭第一樓、常盤、常陸屋、東京家に招待して饗宴を張れり

第三閉會式

閉會式は十月十五日午前十時を以て舉行せり先づ第一鈴を以て役員出品人一同着席し次で第二鈴を以て來賓一同着席せり此間奏樂あり第三鈴を以て式に入り村本事務委員長申告席に進み左記申告文を朗讀す

申 告

上川外四郡旭川區聯合物産共進會會期本日ヲ以テ滿了ヲ告ケムトス會期中ニ於ケル觀覽者總數十三万五百九十七人ノ多キニ達シ北海道廳長官第七師團長及長崎宮中顧問官ノ三閣下ヲ始メ朝野ノ貴紳知名人士ヲ網羅シ殊ニ遠ク府縣並ニ全道各地ヨリノ來觀者ヲ見當地方ノ實狀ヲ紹介シ其聲價ヲ發揚シタル

モノ尠カラス又當業者ノ比較研磨ニ資益スル所多大ナリシヲ信ス茲ニ會況ノ概要ヲ申告シ閉會ノ式ヲ
舉ケラレンコトヲ請フ

大正五年十月十五日

事務委員長正七位 村本初太郎

次に東郷會長式辭を朗讀す左の如し

式 辭

上川外四郡旭川區聯合物産共進會ハ豫定ノ會期滿チタルヲ以テ茲ニ閉會セントス本會ノ開會ニ當リテ
ハ諸般ノ準備完カラス尙幾多講究ヲ要スルモノ尠ナカラサリシニ拘ハラス其入場人員十三万五百九十
七人ニシテ一日平均一万四千四百九十九人ニ達シ茲ニ豫期以上ノ盛況ヲ見タルハ當業者諸氏カ産業ノ
改善ニ競進セントスル誠意ヲ視知スルニ足ルヘク本職ノ欣喜ニ堪ヘサル所ナリ茲ニ本會ノ終結ヲ告ク
ルニ當リ關係役職員各位カ積日ノ勞ヲ謝スルト共ニ旭川區協贊會ノ多大ナル援助ニ對シ感謝ノ意ヲ表
シ以テ式辭トス

大正五年十月十五日

上川外四郡旭川區聯合物産共進會長 正六位 勳五位 東郷重清

之に次ぎ上川支部長旭川區長旭川協贊會長田中北海タイムス社旭川支局記者ノ祝辭演說並出品人ノ答辭
ありて村本事務委員長式終りし旨を宣し斯て此日を以て本會の會期全く終了を告げたり

祝 辭

上川外四郡旭川區聯合物産共進會茲ニ了ヲ告ケ本日ヲ以テ閉會式ヲ舉ケラルハ誠ニ慶賀ニ堪ヘサル
所ナリ

惟ニ産業ノ發達ヲ圖リ人文ノ進善ヲ促スハ國運隆興ノ要義ニシテ本道拓殖ノ鴻業モ亦之ニ由リテ完成

スルヲ得ヘシ今ヤ時局ノ影響ハ内國産ノ増殖ヲ獎メ外貿易ノ振張ヲ促スコト急切ナルモノアリ
願ルニ本道ノ開拓ハ年尙淺ク斯業ノ前途未タ期スルニ至ラスシテ幾多改善研究ヲ要スヘキモノ鮮ナシ
トセス本會ノ舉ハ正ニ此ノ要求ニ應スルノ途タルヲ疑ハス當業者諸氏益研鑽ヲ積ミ協力一致國産ノ振
興ニ努メ以テ本會開催ノ趣旨ニ副ハレムコトヲ一言以テ祝詞トス

大正五年十月十五日

上川支廳長正六位勳五位 東郷重清

祝 辭

上川外四郡旭川區聯合物産共進會期間滿チテ爰ニ閉會式ヲ舉ケラルハ誠ニ慶賀ニ堪ヘサル所ナリ
願フニ今回ノ共進會ハ出品區域一區五郡ノ廣キニ亘リ從テ出品數多ク設備亦其宜キニ適ヒ出陳ノ物品
何レモ改良進歩ノ跡頗ル見ルヘキモノアリ加フルニ開會以來唯一日ヲ除クノ外天氣晴朗ニシテ來觀者
ノ便宜ヲ得シハ勿論諸般ノ作業亦好都合ニ運ヒ終始盛況裡ニ經過セシハ實ニ慶フヘシ一ハ天恵ニシ
テ一ハ出品人諸氏ノ誠意努力ニ因ルハ勿論ナルモ然レトモ亦共進會長審査委員長及審査委員並事務委
員諸氏カ熱心其職ニ盡瘁セラレタルト上川支廳當局ノ指導懇切ニ至リシモノアルニアラサルヨリハ焉
ソ能ク此ノ如クナルヲ得ンヤ又旭川區内ノ有志諸氏カ協贊會ヲ組織シテ大ニ其ノ助成ニ努メタルハ正
ニ本會ノ隆盛ヲ促スニ與リテ力アリシモノト謂フベク共ニ衷心感謝ニ堪ヘサル所ナリトス由來官民ノ
協力一致ハ憲政治下ニ於ケル一ノ美華ニシテ地方開發國運進展ノ基茲ニ存スルヲ疑ハス本會ノ盛
況ヲ終始セシモノ蓋シ所以ナキニアラサルナリ嗚呼共進會ノ花ハ如此美麗ニ咲ケリ咲テ而メ今將ニ萎
マントス其結實ハ宜シク之ヲ今後ニ期セサルヘカラサルナリ今ヤ閉會ニ際シ果實收穫ノ任ニ在ル當業
者諸氏ニ對シ重ネテ其發奮ヲ望ムノ情切ナルモノアリ乃チ敢テ思フ所ヲ陳シ以テ祝辭ニ代フ

大正五年十月十五日

旭川區長正七位勳六等 市來源一郎

祝 辭

當局ノ獎勵ト營業者ノ熱誠トニ由リ多數ノ出品ヲ得開會以來入場者亦陸續トシテ四來シ盛況ヲ恣ニセシ上川外四郡旭川區聯合物産共進會ハ今ヤ會期將ニ盡ントシテ爰ニ閉會ノ式ヲ舉ラル願フニ本會カ如此盛況ヲ呈セシハ會長以下職員諸士ノ劃策宜シキヲ得努力備サニ至レルニ由ルハ疑ナキ所而シテ本會ノ開設ハ營業者ノ興奮劑トナリ今後ニ於ル産業ノ改善發達ニ裨益スヘキモノ幾許ナルヤヲ知ラス國家ノ爲メ慶賀ニ堪ヘサルナリ又會期中當局官公同ハ種々ノ會合ヲ催シテ産業上ニ文教上ニ將タ博愛慈善ノ業ニ幾多ノ進展ヲ圖ランコトヲ努メラレタリ其勞ヤ多トスヘク其苦ヤ察スヘシ寔ニ感激措ク能ハス茲ニ閉會ニ際シ聊カ謝意ヲ兼ネ祝詞ヲ陳ルコト爾リ

大正五年十月十五日

上川外四郡旭川區聯合物産共進會

旭川區協賛會長

正七位勳六等 市來源一郎

答 辭

本會ノ會期滿チ本日閉會式ヲ舉行セラル惟フニ本會ハ諸般ノ設備其宜シキヲ致シ管内ノ産業ニ多大ノ裨益ヲ與ヘラレ其効劬ナカラス誠ニ感謝措ク能ハサル所ナリ自今益々奮勵努力シ以テ各位ノ高論ニ副ルコトヲ期ス謹ンテ答辭トス

大正五年十月十五日

上川支廳管内出品人總代

澁谷守夫

答 辭

上川外四郡旭川區聯合物産共進會ノ會期滿了シ縮紳各位ノ來臨ノ下ニ閉會式ヲ舉行セラルハ出品人一同ノ光榮何物カ之レニ加ヘン且ツ賜フニ懇切ナル高論ヲ以テセラル吾人ハ深ク之ヲ服膺シ奮起精勵誓テ本日ノ盛儀ニ報答センコトヲ期ス

大正五年十月十五日

旭川區出品人總代

佐野幸太郎

第八章 觀覽及招待

其一 觀覽者心得

觀覽人心得は左の如く規定し入場券發賣所前に掲げ之を一般觀覽者に示せり

觀覽 人 心 得

- 一、本會ハ大正五年十月六日ニ開キ同十五日ニ閉ツ
- 二、觀覽時限ハ毎日午前九時ヨリ午後四時迄トシ其終始ハ振鈴ヲ以テ之ヲ報ス
但シ都合ニヨリ伸縮シ又ハ臨時入場ヲ拒絕スルコトアルヘシ
- 三、招待券又ハ入場券ヲ所持スルモノニアラサレハ入場ヲ許サス
- 四、入場券ハ一枚金貳錢トス
- 五、瘋癲、醉狂、其他取締上秩序ニ妨害ヲ爲スノ恐レアリト認ムルトキハ入場ヲ拒絕シ又ハ會場ヨリ立去ラシムルコトアルヘシ
- 六、嵩アル荷物ヲ携帯シ又ハ畜類ヲ牽テ入場スルヲ許サス
- 七、陳列場其他禁止ノ場所ニテ喫煙スルコトヲ許サス

八、濫リニ陳列品ニ手ヲ觸ルヘカラス
 九、陳列品容器其他ノ物品ヲ毀損シタルトキハ相當ノ賠償ヲ求ムルコトアルヘシ
 十、本會又ハ出品ニ關シ所用アルモノハ其旨事務處ニ就キ承合セラルヘシ

其二 招待及廣告

本會は會長の名を以て道廳長官各部長理事官課長主務部技師各試驗場長實業學校長各支廳長衆議院議員
 道會議員其他各官衙會社新聞雜誌社實業家等約千二百五十餘名に對し開會日程及返信用葉書並招待券を
 添へ左の招待狀を送れり

表

五寸

裏

拜啓愈御清穆ノ段奉慶賀候
 陳者來ル十月六日ヨリ同十五日マテ十日間旭川區ニ於テ
 上川外四郡旭川區聯合物産共進會ヲ開催シ別記ノ通り舉
 式致候間何卒萬障御繰合セ御來臨ノ榮ヲ得度此段御案内
 申上候 敬具
 大正五年九月 日
 旭川外四郡聯合物産共進會長 東郷 重清
 旭川 區
 追テ舉式當日御來臨ノ有無御手数封入ノ端書ヲ以テ
 本月三十日迄ニ御一報相煩シ度候

分五寸三

開 會 式 十月六日(金) 午前十時
 褒賞授與式(水稻聯合立毛品) 十月十二日(木) 午前九時
 閉 會 式 評會ノ分ヲ含ム 十月十五日(日) 午前十時

三寸七分

表

旭川外四郡聯合物産共進會	
招待券	會期大正五年 自十月六日 至十月十五日
殿	會場區立女子職業學校 (目丁六十通條七)

分六寸二

裏

一 會場入口ニ於テ本券ト引換ニ徽章御受
 取被下度候
 一 十二日授與式終了後式場ニ於テ粗糞差
 上可申候

其三 入場券

入場券は一枚金貳錢とし本館入口前の發賣所に於て出札し招待者及學校生徒の團体入場者並現役軍人の
 外入場券を所持せざるものに對しては何人と雖とも入場を許さることとせり而して入場券は斯くの如
 にして發賣し受付係に示して入場せしめ(福引日タル八日、十二日、十四日ニハ)受付係ニ於テ福引券一枚交付ス
 出口に於て一々入場券を收め其日毎に之を廢棄せしめたり尙入場券の様式は左の如くにして一々係員の
 認印を押捺せるものなり
 但出品人に對しては三日間入場し得る別紙様式の無料入場券を交付し以て觀覽の便宜を與へたり

切斷線

切斷線

(券場入人品出)

上川外四郡
旭川區
聯合物産共進會

出品人

入場券 (三回限)

自大正五年十月六日
至大正五年十月十五日

分七寸一

文字皆青

二寸五分

(券場入般一)

入場券

區川旭郡四外川上
會進共産物合聯

分七寸一

文字皆赤

表

福引券引換證

區川旭郡四外川上
會進共産物合聯

寸二

三寸

一一四

裏

●注意●

一 福引券ノ引換ハ記念日ニ限ル
一 各記念日ニ於ケル景品數量ハ制限シアルヲ以テ當日ノ福引券引換力豫定ノ景品數ニ達シタルトキハ次回ニ於テ交付スルモノトス

其四 観覧者

開會十日間に於ける來觀者總數は十三万一千四百五十七人にして地方的共進會としては稀に見る盛況を呈せり

内

- 招待人入場者 七千三百三十三人
- 學生生徒団体入場者 三万四千七百七十八人
- 軍人其他入場者 八千九百四十二人
- 出品人入場者 一万七千二百九十三人
- 一般入場者 六万三千三百一十一人

なりとす今之を各日別に舉ぐれば左の如し

月	日	一般入場者	招待入場者	學生生徒団体入場者	軍人其他入場者	出品入場者	計
十月	六日	一四〇九	三五八	一六七	二二五	一三三	二二八三
	七日	二六三八	四六〇	五九三	四八二	五八五	四七五八
	八日	一四六八	八一〇	二二四〇	一三〇五	一一〇〇	三二九五
	九日	三一九九	三五五	二二四〇	七八四	八一五	七六六七
	十日	四三四二	三三〇	三四五〇	三三六	一五二〇	九七七〇
	十一日	二九一〇	二二九八	二九二六	六一九	一一〇〇	一〇九五三
	十二日	一八九六	一六〇五	三三九三	一六二	四六三三	三〇二五八
	十三日	三六五〇	三〇〇	二八九〇	一四九三	一六二二	九九五五
	十四日	一〇〇八	三三〇	三三五五	一六六五	一一九〇	一六八三九
	十五日	一五六一	二七四	一一三〇	八九二	二四九	七三八一
	計	六三三一一	七二二三	三四七七八	八九四二	一七二九三	三三二四五七

第九章 構内取締

其一 警備

構内警備は旭川警察署に申請して連日警察官の派出を乞ひ同時に守衛を採用し警察官と協力して其任に當らしめたり夜間の警備に就ては特に警察官二名の派出を乞ひ守衛及事務委員を宿直せしめて双互館内を不寐にて巡視せしめ館外は同様不寐の夜警番をして巡視せしめ以て最善の取締を爲したり

共進會の如き群集雑踏を極むる會合に就ては諸種の事故遺失物又は迷兒の生ずるを免れざる所なるを僅かに遺失物數件ありたるに過ぎざるは誠に喜ぶべきことなり

又本會に使用する毎日の人夫御用商人參考出品人出品物に對する説明の爲及館内賣店許可者の毎日定時館内に入場するに際し之れか爲一々入場券を買求めしむるは穩當ならざる嫌ありしを以て館内警備取締上左の通用券を交付し置き入場の際係員に示し入場せしむることとせり様式左の如し

(裏面には本會の印章を押捺し係員の認印あり)

二寸六分

通用券

上川外四郡聯合物産共進會
旭川區

分七寸一

其二 衛生

共進會期は恰かも晩秋向寒の時にして寒暑の候に於けるか如き注意を懈く兎角油斷し易き時季なるを以て之か爲不衛生に流るゝを戒め會場内外の便所手洗場等の如きは二層掃除を嚴にし清潔を保ち防臭劑を時々撒布して惡臭を防止し館内各所には十數個の痰壺を配置して猥りに痰唾等を吐棄つるを禁し特に館内は觀覽者の群集に伴ひ塵埃の飛散甚だしきを以て閉場後の掃除には最も意を用ゐたり

又場内外の混雜熱鬧するの時之か爲老人小兒等にして遽かに疾病を起し若くは傷痍等を受くるなきを保し難きを以て豫め日本赤十字社北海道支部に協議し救護班の臨時出張を請ひ本會の衛生係と協力して萬遺漏なきを期せり

第十章 汽車賃の割引並臨時列車

共進會開催に伴ふ豫期の効果を完からしめんには可成的多數の觀覽者を誘致するにあるを以て之れに便せんか爲め汽車賃の割引並臨時列車の運轉を北海道鐵道管理局に交渉し其許諾を得たり委細は割引票に詳記せるを以て左に之を掲ぐ

表

住所	上川外四郡旭川區聯合物産共進會 役員出品人汽車賃割引證	
	氏名	
乗車等級	二等	乗車區間
歩合	貳割	自旭川驛

裏面ノ記載事項ニ注意セラルヘシ
三寸一分

分二寸四

裏

注意

- 一、此證ハ本會役員及出品人ニシテ左記區間ヲ乗車スル場合ニ之レト引換ニ
- 二、三等ニ限リ表記ノ割引額ヲ以テ往復乗車券ヲ購求シ得ルモノトス
- 三、永山上音威子府間、邊別落合間及近文神居古潭間各驛ヨリ旭川驛行
- 四、本證ノ使用ハ記名當人ニ限ルモノトス
- 五、割引期間ハ大正五年九月二十日ヨリ十月十五日迄トス
- 六、割引乗車券ノ通用期限ハ發賣ノ日ヨリ大正五年十月二十二日迄トス
- 七、割引乗車券ハ通用期限内ノモノト雖第三項ノ割引期間内ニ使用ヲ開始セザルトキハ割引ヲ無効トシ普通賃金トノ差額ヲ徴收セラル、モノトス
- 八、割引乗車券ハ往路ニ於テ復片ヲ具備セザルトキハ無効トス

表

出品人ノ住所及氏名	上川外四郡旭川區聯合物産共進會 出品物運賃割引證	
	割引歩合	規定運賃ノ二割引
發着區間	自旭川驛	至旭川驛
品名及數量		

裏面ノ記載事項ニ注意セラルヘシ
三寸一分

分二寸四

裏

注意

- 一、此證ハ本會出品物ニシテ左記區間發着ノモノニ對シ大貨物(扱除速達便扱)ニ限リ之レト引換ニ表記ノ割引歩合ヲ以テ運賃ノ低減ヲ受ケ得ルモノトス
- 二、永山上音威子府間、邊別落合間、近文神居古潭間各驛及函館、桔梗余市、中央小樽、札幌、岩見澤、瀧川、築紫、留萌驛ト旭川驛トノ相互間
- 三、割引期間ハ左ノ通リトス
- 四、往路 大正五年九月十五日ヨリ十月五日迄
- 五、復路 大正五年十月十六日ヨリ同月三十一日迄

尙本會開催中左記の臨時列車を運轉せしめられたるは深く本會の満足とする所なり


記

- 一 下富良野驛發
旭川驛着
午前六時五十分
午前九時五十分
- 二 旭川驛發
下富良野驛着
午後七時二十五分
午後九時四十五分

之れより先本會は其開催を廣く世に紹介せんとし會名會場會期等の要點を略記したる最新式繪入着色廣告札數百枚を作り上川支廳管内各町村役場各支廳各區役所並に本道停車場迄へ頒布して其揭示を請ひ尙鐵道院の承諾を求め札幌及旭川の各停車場前に前記の要點を記載したる大なる廣告板を建設し一般に周知せしむるに努めたり
又本會出品物たることと一目瞭然たらしむる爲左記の荷札を出品物全部に添付せしめたり

會進共産物合聯區川旭郡四外川上

出品物



荷

縦 三寸九分
 横 五寸五分

第十一章 會 計

其 一 收支豫算及決算

旭川外四郡物産共進會經費收支決算
收入ノ部

款	項	豫算額	決算額	増比	減較
補助金	地方費補助	110,000	115,000	115,000	
	北海道農會補助	110,000	110,000	110,000	
	區町村負擔金	7,500,000	7,500,000	7,500,000	
	區町村負擔金	7,500,000	7,500,000	7,500,000	
	不用品賣拂代	1,100,000	1,100,000	1,100,000	
	觀覽料	1,000,000	1,000,000	1,000,000	
	寄附金	10,000	10,000	10,000	
	預利子金	10,000	10,000	10,000	
	賣店料	10,000	10,000	10,000	
	合計		10,000,000	11,490,000	11,490,000

支出ノ部

款	項	目	豫算額	決算額	増比	減較
共進會費	俸給及諸給	書記給料	1,000,000	1,000,000	1,000,000	
		書記給料	1,000,000	1,000,000	1,000,000	